

年報

十七号



医療法人社団 朋優会 三木山陽病院

理念・基本方針

病院の理念

心と技術の調和した、優しく信頼される病院に

基本方針

- ✿ 優しく心のこもった医療を提供する。
- ✿ 患者さまの権利を尊重し、人のつながりを大切にする。
- ✿ 最新の知識と技術の向上に努め、良質な医療を実践する。
- ✿ 地域の医療ニーズに応える医療サービスを提供する。
- ✿ 安全と安心の介護療養環境を創造する。
- ✿ 職員が誇りの持てる病院であるよう、共通の目標を持って自己研鑽に努める。

三木山陽病院シンボルマーク（職員考案）



緑にかこまれ地域に根ざした病院というイメージを緑の部分（木々の葉をイメージしたもの）と病院の外壁の色であるピンクの十字で表現しました。十字を右下に置くことでバランスよく安定し、地域に密着して、支えあって行くという事を強調しています。葉の部分により近づける事によってスタッフ達の連結を表現しています。

ごあいさつ

理事長 森田 須美春



年報委員会の皆さん今年度の年報作成ご苦労様でした。毎年“年報はできるだけ早く発刊して”と言っておきながら、自分の原稿が最後になってしまいました。2024年度の病院の軌跡に関わってくれた職員みんなに改めて感謝いたします。

この年報には勤続20年、そして10年のスタッフの言葉が掲載されています。すべての人の顔が浮かびますが、長年にわたり一緒に仕事をしてくれた人たちは病院の宝です。そしてその言葉は年報の一つの目玉と思っています。ぜひ読んでみてください。病院の仕事は自分の思う通りになんか行きません。嫌な思いやしんどい思いをすることが少なくありません。だからといってその場で感情を爆発するわけにはいきません。そうなんです、私たちの仕事は人間修行の場でもあるのです。彼らの言葉の中からそんな成長を感じとることもできます。それがうれしいのです。感謝したいと思います。

残念ながらこの1年の病院実績はあんまりぱっとしたものではありませんでした。従って、今年の年報も特別かわり映えのするものではありません。もちろん年報委員会のせいではありません。病院の運営の問題です。

コロナ時代の後遺症は病院運営に少なからず影響をもたらしています。これからの病院は漫然と進んでいけるほど安易なものではありません。常に工夫や努力をしなければなりません、そして新たな試み、挑戦も必要になってくると思います。

これからの年報には次々とトピックスが掲載され、いろいろな分野での業績の変化が生じることを誓います。いや、そう簡単ではないのですが、皆さま楽しみにしてください。

目次

1. 病院の紹介		
理念・基本方針		1
沿革		6
病院概要		8
組織図		10
2. 本年度トピックス		
トピックス		12
3. 部署紹介		
診療部	医局	14
医療技術部	放射線科	18
	リハビリテーション科	19
	臨床検査科	20
	健康診断科	21
	栄養科	22
	薬剤科	23
ホームケア部		24
総合支援相談室		25
看護部		26
	5階病棟	27
	4階病棟	28
	3階病棟	29
	2階病棟	30
	外来	31
	内視鏡センター	34
手術・中央材料室		35
透析センター		37
事務部	医事課	38
	総務課	39
	アセット管理課	40
	渉外担当課	41
	保育所	42
サンスマイル三木		44
居宅介護支援事業所		47
訪問看護ステーション		48

サンフォレスト三木	49
勤続20年のスタッフからの一言	52
勤続10年のスタッフからの一言	56
4. 委員会報告	
運営委員会	64
病院研修委員会	64
医療ガス安全管理委員会	65
感染対策委員会	65
安全管理委員会	66
労働安全衛生委員会	67
褥瘡防止委員会	67
サービス向上委員会	68
倫理委員会	68
広報委員会	69
給食委員会	70
図書委員会	71
薬事委員会	71
ベッド調整委員会	71
苦情解決委員会	72
輸血療法委員会	72
臨床検査適正化委員会	74
救急検討委員会	74
医療機器管理委員会	74
手術室運営委員会	74
糖尿病教育委員会	75
災害対策委員会	75
システム管理委員会	76
NST委員会	76
臨床研修管理委員会	77
緩和ケア委員会	77
ICT（感染制御チーム）	78
身体抑制適正化委員会	79
業務改善委員会	79
5. その他の活動	
82	
6. 病院年度報告	
86	
7. 研究実績	
110	

沿革

平成 8年	7月	三木山陽病院 開設 院 長 吉田 泰昭 病 床 数 54床（一般病床） 診療科目 内科・理学診療科
	8月	労災指定医療機関 結核指定医療機関 生活保護指定医療機関の認定
平成 9年	6月	病床数 114床に増床（療養病床60床増床）
平成10年	1月	救急医療機関の告示
	10月	病床数 151床に増床（一般病床37床増床）
	12月	院外処方開始 訪問診療開始
平成11年	6月	理学療法科からリハビリテーション科に変更
	7月	給食を院内委託に変更
平成12年	2月	整形外科、リウマチ科 診療開始
	3月	血液透析を開始（10床）
	4月	療養病床60床のうち44床を介護療養病床に変更
平成14年	7月	病床数160床に増床（一般病床9床増床）
平成15年	4月	法人開設（医療法人社団 朋優会） 理事長 吉田 泰昭 病院館内 禁煙
平成16年	10月	新館完成
	11月	新病棟に移転 病床数191床に増床 一般病床 86床（5階43床、4階43床） 療養病床 105床（3階54床、2階51床） オーダーリングシステム導入 MRI導入 SPDシステム導入
平成17年	7月	給食を院外委託に変更
	9月	本館（リハビリテーション部門・管理部門）の改築
平成18年	4月	森田 須美春 病院長就任
	6月	禁煙外来開始 病院敷地内 禁煙
	8月	（財）日本医療機能評価機構 病院機能評価（Ver.5）取得
	9月	眼科診療開始
平成19年	2月	一般病床137床のうち10床を亜急性期病床に変更 介護療養型医療施設44床から34床へ
平成20年	2月	介護療養型医療施設34床から20床へ
	6月	2階療養病床（51床）を一般病床に変更 一般病床137床 療養病床54床
	8月	介護療養型医療施設 20床から10床へ
	12月	透析センター完成（46床に増床）

平成21年	10月	介護老人保健施設 サンスマイル三本着工
平成22年	3月 7月	医療用画像診断システム導入 介護老人保健施設 サンスマイル三木開設
平成23年	4月 8月	外科診療開始 (財)日本医療機能評価機構 病院機能評価 (Ver.6) 取得
平成24年	4月 11月	DPC開始 (5階病棟) 吉田 泰昭 理事長退任 森田 須美春 理事長就任
平成25年	5月	皮膚科診療開始
平成26年	2月 5月 6月 10月	居宅介護支援事業所開設 内視鏡センター 名称変更 (旧内視鏡室) 病床数197床に増床 (一般病床5床・療養病床1床増床) 泌尿器科 診療開始 2階病棟52床のうち26床を地域包括ケア病床へ
平成27年	3月 12月	訪問リハビリテーション開始 介護療養病床10床のうち3床を医療療養病床に変更
平成28年	8月	(財)日本医療機能評価機構 病院機能評価 (3rdG: Ver.1.1) 取得
平成29年	2月 4月	電子カルテ導入開始 2階病棟を地域包括ケア病床へ
令和元年	8月	介護療養病床すべてを療養病床に変更
令和2年	7月	訪問看護部開設
令和3年	3月 8月	訪問看護ステーション開設 (財)日本医療機能評価機構 病院機能評価 (3rdG: Ver.2.0) 取得
令和4年	4月	ホームケア部開設
令和5年	3月 4月	訪問介護ステーションサンフォレスト開設 サービス付き高齢者向け住宅サンフォレスト三木開設 デイサービスサンフォレスト開設
令和6年	4月	藤井 郁三 病院長就任



病 院 概 要

病 院 名 医療法人社団 朋優会 三木山陽病院

理 事 長 森田 須美春

病 院 長 藤井 郁三

所 在 地 〒673-0501 兵庫県三木市志染町吉田1213-1

TEL 0794-85-3061 FAX 0794-85-3582

E-mail : info@mikisanyo-hp.com

URL http://www.hoyukai.or.jp

病 院 規 模 敷地面積：12,070.74㎡

延床面積：新館 8,206.00㎡

本館 3,610.20㎡

透析センター 1,308.13㎡

階 数：新館 地上5階

本館 地上3階

透析センター 地上5階

構 造：鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造

診 療 科 目 内科・消化器内科・整形外科・リウマチ科・外科・眼科・皮膚科

泌尿器科・リハビリテーション科・放射線科・訪問診療

透析センター（人工透析、血液浄化療法）

病 床 数 197床（一般病床142床、医療保険病床55床）

入 院 施 設 一般病床 5F（一般） 45床

4F（障害者施設等） 45床

2F（地域包括ケア） 52床

療養病床 3F 55床

施設基準等
に係る届出

機能強化加算

療養病棟入院基本料

診療録管理体制加算 3

特殊疾患入院施設管理加算

療養病棟療養環境加算 1

医療安全対策加算 2

病棟薬剤業務実施加算 1

認知症ケア加算

協力対象施設入所者入院加算

糖尿病合併症管理料

二次性骨折予防継続管理料 1

慢性腎臓病透析予防指導管理料

外来腫瘍化学療法診療料 2

外来排尿自立指導料

医療機器安全管理料 1

在宅患者訪問診療料(I)の注13（在宅患者訪問診療料(II)の注6の規定により準用する場合を含む。）、在宅がん

医療総合診療料の注8及び歯科訪問診療料の注20に規定する在宅医療DX情報活用加算

在宅時医学総合管理料及び施設入居時等医学総合管理料

在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の注2に規定する遠隔モニタリング加算

持続血糖測定器加算（間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合）及び皮下連続式グルコース測定

検体検査管理加算(II)

無菌製剤処置料

呼吸器リハビリテーション料(I)

導入期加算 1

ストーマ合併症加算

緑内障手術（濾過胞再建術（needle法））

医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術

人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算

入院ベースアップ評価料46

医療DX推進体制整備加算

障害者施設等入院基本料

医師事務作業補助体制加算 1

療養環境加算

リハビリテーション・栄養・口腔連携体制加算

感染対策向上加算 2

データ提出加算

せん妄ハイリスク患者ケア加算

入院時食事療養／生活療養(I)

がん性疼痛緩和指導管理料

二次性骨折予防継続管理料 2

夜間休日救急搬送医学管理料の注3に規定する救急搬送看護体制加算

ニコチン依存症管理料

肝炎インターフェロン治療計画料

別添1の「第14の2」の1の(3)に規定する在宅療養支援病院

在宅がん医療総合診療料

在宅がん医療総合診療料

在宅がん医療総合診療料

在宅がん医療総合診療料

在宅がん医療総合診療料

在宅がん医療総合診療料

在宅がん医療総合診療料

在宅がん医療総合診療料

在宅がん医療総合診療料

在宅がん医療総合診療料

在宅がん医療総合診療料

在宅がん医療総合診療料

在宅がん医療総合診療料

在宅がん医療総合診療料

一般病棟入院基本料

救急医療管理加算

急性期看護補助体制加算

重症者等療養環境特別加算

栄養サポートチーム加算

後発医薬品使用体制加算 1

入退院支援加算

排尿自立支援加算

地域包括ケア病棟入院料1及び地域包括ケア入院医療管理料1

糖尿病透析予防指導管理料

二次性骨折予防継続管理料 3

がん治療連携指導料

薬剤管理指導料

在宅がん医療総合診療料

在宅がん医療総合診療料

在宅がん医療総合診療料

在宅がん医療総合診療料

在宅がん医療総合診療料

在宅がん医療総合診療料

在宅がん医療総合診療料

在宅がん医療総合診療料

在宅がん医療総合診療料

在宅がん医療総合診療料

在宅がん医療総合診療料

在宅がん医療総合診療料

在宅がん医療総合診療料

在宅がん医療総合診療料

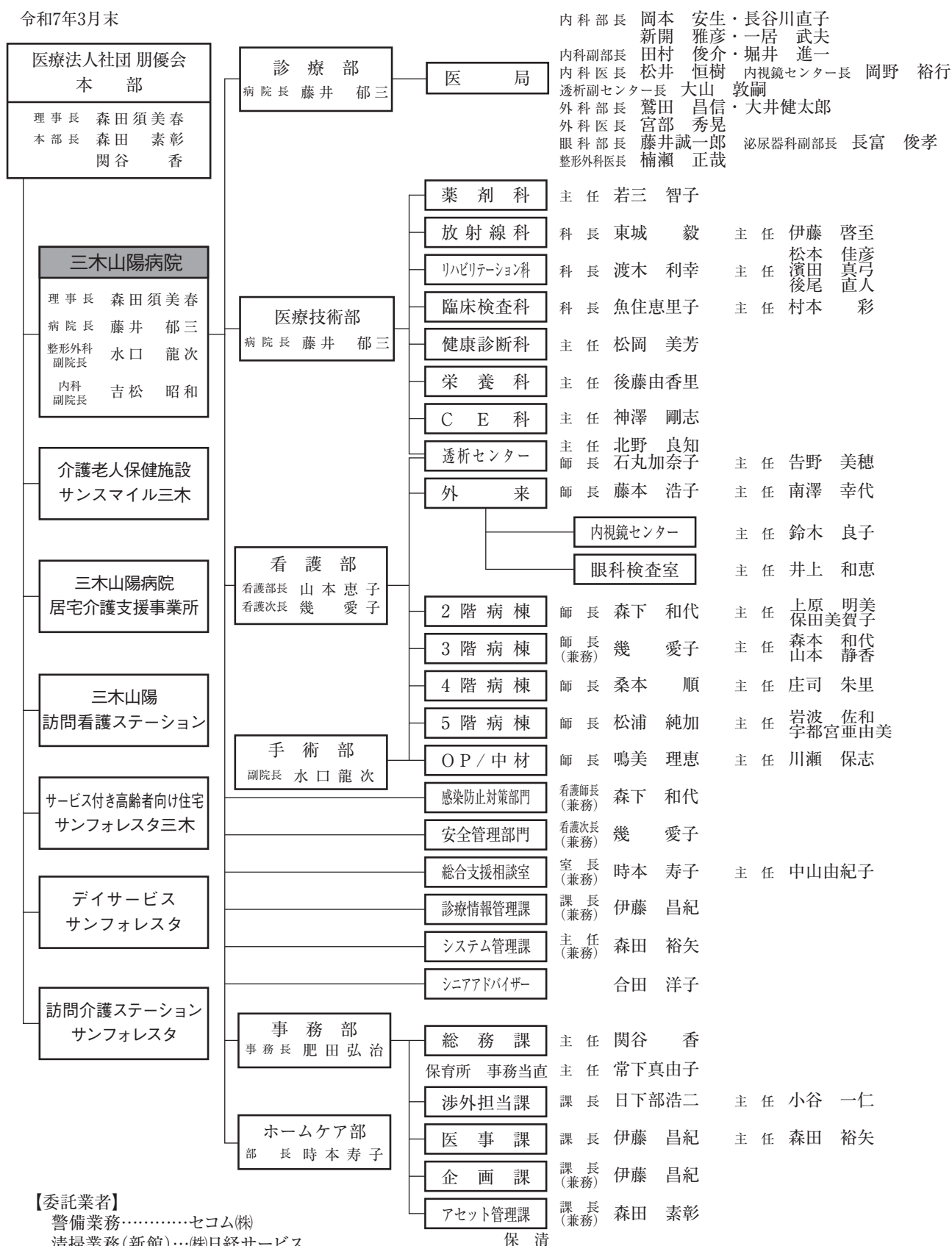
在宅がん医療総合診療料

在宅がん医療総合診療料

施設認定	救急指定
	労災指定
学会認定医	日本医療機能評価機構 認定病院 (3rdG:Ver2.0)
	日本内科学会認定医制度教育関連病院
	日本糖尿病学会認定教育施設
	日本消化器病学会教育関連施設
	日本消化器内視鏡学会認定医専門医制度指導連携施設
	日本整形外科学会専門医研修施設
	日本病態栄養学会「栄養管理・NST実施施設」
	日本内科学会認定内科医、総合内科専門医
	日本糖尿病学会専門医、研修指導医
	日本消化器病学会専門医、指導医
検査	日本消化器内視鏡学会専門医、指導医
	日本循環器学会専門医
	日本透析医学会専門医、指導医
	日本腎臓学会腎臓専門医、認定指導医
	日本心血管インターベンション治療学会認定医
	日本心臓リハビリテーション学会指導士
	日本整形外科学会専門医、スポーツ医、リウマチ医
	日本整形外科学会認定運動器リハビリテーション医
	日本リウマチ学会専門医、
	日本外科学会認定医、専門医
	日本消化器外科学会専門医、指導医
	日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医
	日本消化管学会胃腸科専門医
	日本眼科学会専門医
	日本泌尿器科学会専門医
	日本がん治療認定医機構がん治療認定医
	日本ヘリコバクター学会（ピロリ菌）感染症認定医
	NSTコーディネーター、日本医師会認定産業医
	労働安全衛生コンサルタント
	CT (320列マルチスライス)
特殊治療	MRI (1.5テスラ)、MRA
	上下部消化器X線造影、血管造影、逆行性膵胆管造影
	胃内視鏡、大腸内視鏡
	膀胱鏡検査
	超音波 (心、腹部、甲状腺、乳腺、血管、他)
	ホルター心電図
	糖尿病関連特殊検査 (神経伝導速度検査、ABI(足関節上腕血圧比)検査)
	連続血糖測定 (CGM)
	血流依存性血管拡張反応 (FMD)
	睡眠時無呼吸検査、骨密度検査
	蛍光眼底造影検査、網膜厚検査、超音波検査、
	角膜内皮細胞検査、視野検査
	COVID-19 PCR検査 (LAMP法)
	内視鏡的粘膜下層剥離術 (ESD)
	持続皮下インスリン注入療法 (CSII)
	創傷低圧持続吸引療法

組 織 図

令和7年3月末





Miki-Sanyo Hospital

トピックス



病院長交代

病院長 藤井 郁三

2024年4月1日より森田須美春前病院長の後任として、朋優会三木山陽病院の病院長に就任いたしました。

以来、病院の基本理念である“心と技術の調和した優しく信頼される病院に”を軸に、医療の充実と病院運営の向上に努めてまいりました。

今回の取り組み目標については4月の病院ホームページにも記載いたしましたが、以下の3つの柱を掲げ病院全体で努力を続けております。



1. 救急医療と高齢者医療へのこだわりをもって、三木市の地域医療を守る
2. 患者様一人一人にやさしさと安心を届ける医療
3. すべての職員がやりがいを実感し生き生きと仕事ができる環境を追求する

病院長に就任して1年が経過しましたが、これらの目標への信念は変わることなく、引き続き実現に向けて取り組みます。この一年を振り返るとどうしても「できていないこと」に目が向きがちですが、振り返ることは自分自身を見つめ直し次の一年に向けて成長する良い機会であると考えております。今後も職員の皆さんの意見に耳を傾けながら一步一步着実に前進してまいります。

三木市は超高齢化社会を迎える中で、高齢者医療の最先端にある地域といえます。このような社会状況の中で独居老人や老々介護の問題をはじめ、さらなる課題に直面することが予想されます。当院ではすべての職員が職種を超えて協力し合い、チーム医療の実践を通して患者様やそのご家族様にとって最善の医療を提供していくことを目指しています。

地域医療を支える病院として単に診療を提供するだけでなく、地域とのつながりを大切にしながら患者様が安心して暮らせる環境づくりにも貢献していきたいと考えております。そのためには地域の皆様との協力や関係機関との連携が欠かせません。医療の質を高めるために研修や勉強会を定期的に行い、職員一人ひとりが知識と技術を磨きながらよりよい医療の提供に努めてまいります。

そしてなによりも地域の皆様に信頼される病院であり続けるため、患者様に寄り添い安心して治療を受けられる環境づくりを進めてまいります。これからも皆様のご期待に応えられるよう全力で活動を展開してまいりますので、今後とも三木山陽病院をよろしくお願いいたします。



Miki-Sanyo Hospital

部 署 紹 介





活動報告

令和6年度の新型コロナウイルス感染症に関して、4月1日から公費負担はなくなり通常の医療体制に移行しました。爆発的な感染者数の増加はなくなりましたが、引き続き散発的に感染者は認めています。発熱外来の体制は継続していますが、入院患者の面会制限はなくなり、新型コロナウイルス感染症発症前の状況には遠く及びませんが、この感染症と共存しながらの医療を行なっています。

年末から年始にかけてインフルエンザの爆発的流行を認め、発熱外来は大混雑となり患者さま、地域住民の方には大変ご迷惑をおかけしました。

引き続き院外、院内の感染対策には十分配慮しながら医療サービスを提供していきたいと思います。小規模のクラスターが発生することもあるかもしれませんが、状況を御理解の上、御協力のほどお願いいたします。



内 科

若干人員の変更はありましたが、概ね昨年度と同様の体制で診療を行ってきました。コロナ感染症の医療体制の変更に伴い、コロナ感染症罹患があっても入院治療が必要な場合には、環境を整備し治療を行っています。内科全般の疾患に対応していますが、カンファレンスを通して情報の共有を行い、よりよい治療を提供できるよう尽力しています。腹腔内疾患に関しては、外科人員の増加に伴いタイアップを強化し、必要であれば迅速に外科的処置を行えるよう密に連携をとっています。

今後も安全かつ適切な治療を患者さまに届けるよう努力していきたいと思います。

外科

当科ではこれまでと同様、外科全般に対応し、特に消化器外科疾患を主に対象としております。

今年度は4月に1名の常勤医入職があり、常勤外科医3名、非常勤1名で手術対応しております。

患者さまへの手術治療侵襲をできる限り少なくすることを基本としており、患者さまへの身体への負担が少ない腹腔鏡下手術を出来る限り採用しております。

現在 大腸癌、直腸癌、早期胃癌、鼠径部ヘルニア、腹壁ヘルニア、胆石症、急性虫垂炎などに対し腹腔鏡下手術を第1選択としております。

また、腹腔鏡手術の応用として、胃GIST（Gastrointestinal Stromal Tumor：消化管間質腫瘍）に関してはLECS（Laparoscopy Endoscopy Cooperative Surgery：腹腔鏡内視鏡合同手術）対応にて手術侵襲を低減しております。またハルトマン手術後の人工肛門閉鎖に対しては、遺残直腸が短く初回手術の癒着などから、従前の開腹手術では手術手技そのものが技術的に非常に困難でありましたが、HALS（Hand Assisted Laparoscopic Surgery：用手補助下腹腔鏡手術）を導入することにより、より安全性の高い確実に低侵襲な治療を施行しております。

また肛門疾患における痔核治療に関しても従前の手術治療に加え脱出性内痔核に対して、より低侵襲なALTA療法（痔核への硬化剤ジオン注）も施行しております。

今後も対応可能な疾患に対して、これまでと同様、一人一人の患者さまに寄り添い、丁寧に確実に対応することを心がけていきます。

手術室対応手術症例数 213例（2024年4月から2025年3月まで）

胃切除術7例（腹腔鏡下手術5例） 胃全摘1例（腹腔鏡下手術1例）

胃空腸吻合2例（腹腔鏡下手術1例） 十二指腸穿孔3例（腹腔鏡下手術3例）

十二指腸切除術1例 臍体尾部切除2例 腹腔鏡下肝切除術1例

胆嚢摘出術48例（腹腔鏡下手術47例）

結腸直腸手術18例（腹腔鏡下手術17例） 虫垂切除 22例（腹腔鏡下手術22例）

人工肛門造設術1例 人工肛門閉鎖術5例（HALS2例）

腸閉塞手術9例（腹腔鏡下手術9例） 腹膜炎手術8例（腹腔鏡下手術5例）

ヘルニア手術 鼠径部ヘルニア36例（腹腔鏡下手術31例）

臍部腹壁ヘルニア11例（腹腔鏡下手術10例）

痔核手術12例（ALTA療法10例） 痔瘻手術 3 例 肛門周囲膿瘍ドレナージ 2 例

肛門腫瘍 2 例 肛門異物 1 例

乳房切除 1 例 皮下膿瘍ドレナージ 1 例 皮膚皮下腫瘍切除 6 例 CVポート10例

整形外科

今年度も4月にスタッフ1名の人員交代を行いました。他科の医師、各部署のスタッフの協力・支援のもとスムーズに業務を遂行することができました。

外来診療においては、高齢者の変形疾患・骨粗鬆症が主となっております。

今年度の手術業績は以下の通りです。

総 件 数：215例

人 工 関 節： 19例

その他・外傷：196例

外傷手術では例年通り大腿骨近位部骨折が最多であり、高齢化社会と地域の特性と思われます。御高齢につき合併症を有する患者さまも多く、麻酔科や内科含め各科の先生方や看護師、理学・作業療法士、栄養士などコメディカルのスタッフの方々の協力を仰ぎながら治療を行い大きな周術期合併症やトラブルなく治療を行うことができました。また、入院手術症例では麻酔科専門医の先生方のもと、より安全な手術管理を心掛けております。

本年度も近隣の医療機関から多くの患者さまをご紹介いただきました。今後も信頼してたくさんの患者さまをご紹介していただけるよう、丁寧で確実な診療を心掛け努力してまいります。

眼 科

2024年6月から中止していた抗VEGF薬 硝子体注射は同年9月から再開しました。あらたにバビースモ硝子体内注射薬を採用としアイリーア2mg バビースモ ラニビズマブとなります。

スタッフは ORT 5 名 クラーク 2 名 体制です。

2025年4月から金井友範医師が常勤として入職され常勤2名体制となります。

今後ともよろしくお願いいたします。

泌尿器科

泌尿器科では前立腺肥大症や神経因性膀胱に起因する排尿障害など生活の質に関わる疾患から尿路結石や感染症、泌尿器悪性腫瘍を診療しております。外来診療は変わらず毎週水・木・金・土曜日の午前と月曜日午後の週5日対応となります。

分かりやすく丁寧な診療を心掛け、尿路結石や表在性膀胱腫瘍への内視鏡手術、尿路閉塞への尿管ステント留置／腎瘻造設術等を主に患者さまのお役に立てるよう努力してまいります。

分かりやすく伝わるように一生懸命に説明し、お一人お一人の症状やニーズに合わせた治療ができるよう努力してまいります。

皮膚科

平成25年5月の開設より12年になります。

外来診療を毎週火曜日～土曜日の午前中に行っています。火曜日と木曜日の午後は予約制にて皮膚科手術や炭酸ガスレーザー、巻き爪などの処置を行っております。

検査については、アレルギーの採血検査、金属等のパッチテストも行っております。また、尋常性乾癬や掌蹠膿疱症に対する紫外線療法ナローバンドUVB、エキシマレーザーや多汗に対する腋窩ボトックス治療も保険対応にて行っております。そして、顔のしみに対する自費診療のレーザー治療を月曜日に月2～3回ですが行っております。まずはカウンセリングからでもどうぞ。完全予約制になっており、お電話でも予約可能となっております。

これからもより一層充実した医療を皆さまにご提供できるよう努力していきます。



活動報告

今期は骨密度測定装置が更新されました。

以前の機器は前腕部で測定を行っていましたが新しい装置では腰椎、大腿骨、前腕など多岐にわたる部位の測定が可能となりました。

今まで先生方からご要望のあった装置ですが、設置スペースの関係で実現できませんでした。骨密度測定装置も新しい装置が出る毎にコンパクト化されているので、何とか更新することができました。

基本的に腰椎と大腿骨頸部を測定しますので検査時間（約5分）は少し長くなりますが、装置のベッドで横になっている間に終了しますので比較的負担は少ないと思っています。

今期も接遇に力を入れてきました。

検査等の不安を少しでも和らげることに努めています。

その反動なのか放射線科の検査で長い待ち時間が発生することがありました。

今後は丁寧な接遇を維持しながら、少しでも早く検査を行えるよう努めていきます。

放射線科の検査数は前年度と同程度の検査数でした。

紹介検査数は約1200件で29の施設さまからご依頼を頂きました。

今期もCT検査のご依頼が増えていると感じます。





活動報告

〈理学療法〉

今年度のトピックスと言えば、これまで新型コロナウイルスの感染対策のために原則中止としてきた、セラピストによる退院前の自宅訪問を再開出来た事です。

患者さまが自宅に退院する際の不安や課題を解決するために、在宅復帰支援としては欠かせない取り組みであります。

また、セラピストにとっても患者さまの実際の生活の場を確認できる貴重な機会です。今後も積極的に実施していく事により、当院へ入院されている方がより安心・安全に自宅に帰って頂けるように尽力していきます。



〈作業療法〉

入院中の患者さまの会話の中で、自宅での生活において嬉しいこと、楽しいことを問うと「洗い物をして娘を手助けすること」「家族の声が聞こえること」「デイサービスで頼まれて作った作品に対してありがとう・上手やねと言ってもらえること」など、人の役に立つことや家族や社会での役割を感じる事柄の返答がありました。このような退院後のQOL（生活の質）を重要視して患者さまが役割・楽しみが失われた状態にならないように、介入当初から患者さま・家族さまへ聴取し役割・楽しみをどう継続していけるかという視点を持ち在宅復帰に向けて取り組むことができました。

今後も患者さま・家族さまが楽しく充実した生活を送れるようリハビリテーションを提供していきたいと思えます。

〈言語聴覚療法〉

摂食・嚥下リハビリ対象の患者さまの中でも、特にご高齢の患者さまは一度状態を崩されるとなかなか食事の摂取が思うように進まないことが多いです。

何とか食べて頂くのも、もちろん大切ですが、本来「食べることは、幸せなこと」であり、患者さまに「食べる楽しみ」「食べる幸せ」も持って頂けるように、苦痛な食事で終わらないようにアプローチを工夫していきたいです。

お食事の際にお互いの笑顔が多くなるように取り組んでいきたいと思えます。



活動報告

今年度はコロナ遺伝子検査として既存のRT-PCR法、LAMP法に加えNEAR法の装置を2台導入しました。これらにより入院時、術前、関連施設の入所時と状況に応じた感染持ち込みの対策をとることができました。加えてインフル・コロナの定性検査キットと、コロナ抗原定量検査を目的に合わせて実施しました。臨床の状況に応じた適切な検査を準備できるように努めています。

今年度から当院で使用している持続血糖測定器のリブレが新たにリブレ2になり、より患者さまにとって便利な機能が追加されました。また、血糖推移予測アラート機能のあるDexcom社のG7も導入しました。スマートフォンアプリの使用でスキャン不要のリアルタイム測定が可能となります。持続血糖測定器使用の負担が少しでも軽減できるように患者さまに合わせた提案をおこなっております。

外来での採血業務は、まだまだ技量不足な所が多々ありますが全スタッフが対応できるようになりました。今後は技師が処置室にいるからこそ役立てることを考えながら進めたいと思います。



部門内研修では、中断していた試薬機器メーカーの講師を招いての勉強会を再開しました。また、月1回のミーティングや検査科内スタッフ持ち回り勉強会も再開し、知識や技術の向上、共有を行い、質の高い医療の一助となれるようにがんばっております。

今後も臨床検査科一丸となって、迅速かつ精度の高い検査を行うことができるように努力してまいります。





活動報告

健康診断科発足後5年が経過しました。スタッフ4名で協力・団結し、健診業務に取り組んでいます。

今年度もありがたいことに多くの方々に人間ドックや健康診断を受けて頂きました。

おかげさまで今年の目標として掲げていた〈人間ドック年間300人〉を達成することが出来ました。

毎年人間ドックを受診される方が新鮮だと感じられるように、結果報告書の表紙のデザインを定期的に変更しています。4人で意見を出し合い、こだわりぬいたものを作っています。

人間ドック以外では、企業健診・町ぐるみ健診・特殊健診・学校入学用や受験用の健診・免許申請用の健診・年に2回の職員健診などを年齢・国籍を問わず、実施しています。

健康診断科は病院の中で唯一「毎年ありがとうございます」「お疲れ様でした」「お氣をつけて！また宜しく願います」と病院では普段使わない言葉で挨拶をして、再会を喜ぶことができる部署だと自負しています。健康診断に関することはオレンジ色の制服の健康診断科にご相談ください。

これからも気持ちよく安心して受診して頂けるよう優しく、親切で丁寧な対応を心掛けたいと思います。





活動報告

今年度も管理栄養士5人体制となり、昨年度増加した外来ならびに病棟における栄養相談件数は昨年度から増加しました。昨年度より行っている夜間診の患者さまの栄養相談も継続して取り組んでいます。夜間診は働いている若い方が比較的多く受診されています。生活習慣病、特に糖尿病患者さまの生活改善は合併症予防の為に必要な事であり、栄養相談の介入意義はとても大きいと感じています。



また、外来看護師、医師と協働し、主に糖尿病患者さまに対する透析予防相談にも力を注ぎました。今後は腎硬化症などの糖尿病以外の疾患が原因となる透析予防相談にも取り組みたいと思っています。

今年度は診療報酬の改定により、特に急性期における栄養管理が求められるようになりました。その中で、リハビリ等の他のスタッフと協働する事やミールラウンドの実施により早期に患者さまの摂取状況を把握して栄養介入することが含まれています。入院される患者さまの多くは高齢者であり、栄養状態がリハビリや術後の回復に影響を与えることも少なくありません。当院も急性期を含むすべての病棟でのミールラウンドに力を注ぎ、栄養状態把握、早期改善介入に繋がるよう努めました。また、病状により食事が殆ど食べられない方への個別対応の需要も増しています。嗜好や食への希望を伺いながら、病院食を中心に、食事内容の改善や栄養補助食品の活用、時には持ち込み食などの提案をしながら支援を行いました。栄養情報提供加算も導入され、入退院される患者さまの栄養管理に繋げる事が出来ています。

栄養科の今年度のサービス目標は「あたりまえにならず常に丁寧な対応を」でした。病院で働く私たちにとって、病院は職場であり、当たり前かもしれません。しかし、患者さまにとっては非日常であり、病院という場所や専門的な言葉などは当たり前のことではありません。その事を忘れずに患者さまに寄り添った対応を心がけています。

来年度も引き続き患者さまに寄り添い、積極的な取り組みを行えるよう努めます。



活動報告

薬剤科では、この1年間に新たに3名の薬剤師を迎えました。3名とも以前の職場でバリバリ働いてこられた経験豊富な薬剤師です。長年同じ職場で働くと、今までこうしてきたからという理由だけで、業務の進め方に疑問を持つことが少なくなります。今年度は新たな視点を取り入れて業務改善に取り組みました。

まずは、薬剤科内の整理整頓です。今までの薬剤科が乱雑だったわけではありません。法律や規則で決められていることはもちろん守っていますが、慣れているスタッフばかりだと物の置き場所ひとつをとっても無頓着になっていました。

新しい仲間にとってわかりやすいことを第一に、整理整頓をして気付きました。所定の場所を決めて表示するだけでも、医療安全にとってとても大切なことだったのです。そして何よりも気持ちが良いです。これからも医療安全の視点を持った環境整備を継続し、安全で気持ちの良い職場を目指します。

その他にも、薬剤科内だけで取り組めるようなことから他職種の皆さんのお力を借りるようなことまで、さまざまな取り組みを行っています。患者さまに安心してお薬をお届けできるように、今後も少しずつではありますが取り組みを続けてまいります。

そして患者さまや他の医療スタッフに信頼される良き相談相手となれる薬剤師を目指します。



ホームケア部



活動報告

今年度は医療法、介護保険法の改正がありました。特に関係深かったのは、介護保険法で新設された「協力医療機関連携加算」医療法で新設された「協力対象入所者入院加算」です。

この加算は、協力医療機関と介護保険施設の関係をより実効性のあるものにするためにという目的で作られています。

より良い連携の為に、総合支援相談室と協力し、施設入所者さまの情報をどう共有するか、大切な個人情報を守りどう守るか等、各担当者さまと膝をつき合わせ話し合い、始めました。

今では、15ヵ所の施設さまと毎月、ZOOM会議をしています。画面越しではありますが各施設担当者さまの顔を見るのが楽しみになっています。

「変わらないですか〜?」「元気でやってますか〜?」

「〇〇さんが、調子が悪いので診察に行きます。」

「運営でこんなこと困っています。何かいい案は無いですか?」

「ターミナル期の患者さまの対応はどうされていますか?」 などなど。

施設さまの運営方針や担当者の方の顔、施設でのお困りごとなど本当によく分かりました。同時に当院がどうあるべきかも考えさせられました。

【顔の見える関係】とはよく言いますが、とても大切なことだとあらためて思います。COVID-19のパンデミック前はそんな関係が当たり前だったのに・・・と。

私が、以前在宅でケアマネジャーをさせていただいていたとき、病院は「相談するのには勇気が必要。だけど相談出来たら安心」な所でした。

できるだけ、施設さまや事業所さまが相談しやすい場所になるよう、困ったら「あの病院に、あの人に相談してみよう。」とさせていただけるようになると良いな、と心掛けた1年でした。

当院の在宅サービスも地域にとっては大切な資源です。

「明るく、まるで陽だまりのような暖かさ」そんな相談先になれるようさらに、もっと、まだまだ相手の立場に立って考えていきます。

総合支援相談室



活動報告

【力を入れて取り組んだこと】

部署目標 “考えよう 自分に何が できるかを”

相談室は看護師、社会福祉士、事務員で構成されています。

目の前の患者さまやご家族さまの支援はもちろんのこと、病院という多職種が協働するなかで果たせる役割についても、フットワーク軽く自発的に対応していくことに取り組みました。

そういった相談件数の増加にはカウントされない業務に対する態度こそ、大事なことを相談してみようかという糸口になるのではないかと思います。

今後も、それぞれの経験・知識・行動力と優しさを活かし、相談室にこもらず「ちょっと誰かやってくれないかな」に対応できる部署でありたいと思っています。



【活動報告】

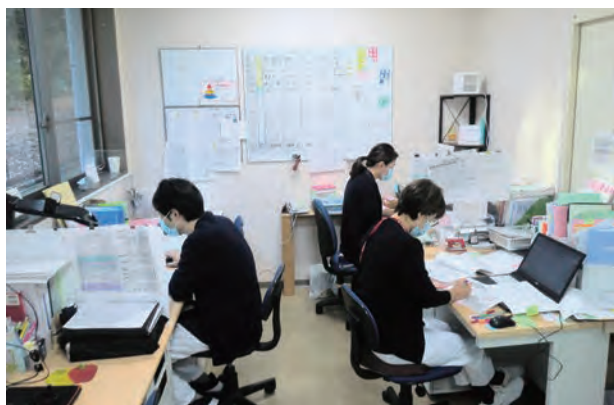
ご相談は相談室の窓口、各病棟、お電話などでお受けしております。介護制度・障害者制度に関するご相談、どの科にかかればよいのかといった受診に関するご相談、他の医療機関からの転院相談など多岐にわたります。

また、病院にある相談室の役割として、ご病状への不安や治療費、治療期間に関する心配など、医療スタッフへ言いにくいことの相談もお受けしています。病気やケガが軽快されたのちも、退院後の生活に漠然とした不安を感じて相談にいらっしゃる方もおられます。

まずはお話をお聞かせいただき、制度の情報提供をさせていただいたり、院内の他スタッフ・地域のケアマネジャーと連携をとったりと、ご相談にいらした皆さまが納得して選択

するためのお手伝いをいたします。受診の度にうれしい近況をお聞かせいただくことも多く、スタッフ一同ありがたく感じております。

「こんなこと、相談してもいいのでしょうか…」と尋ねてこられる方が多いのですが、もちろん大丈夫です。できることは何か、今年も精力的に取り組んでいきます。



看護部



活動報告

1. 看護部理念

～私たちは、患者さまに信頼されるやさしい看護・介護をめざします～

2. 看護部方針

- 1) 病院・看護部の理念に基づき、質の高い安全、安心な医療、看護、介護をめざします
- 2) 地域に根ざす病院として、患者さまの権利を尊重し、ニーズに応え、地域の皆さまに信頼されるやさしい病院をめざします
- 3) 健康で安全な働きやすい職場づくりに努めます
- 4) 人材育成と自己啓発。研鑽の推進に努めます

2024年度、新型コロナウイルス感染症が5類に移行してから2年目となりました。

医療の現場は変わらず、感染対策を講じながらの日々ですが、ひとつ、面会制限は感染状況をみながらいぶん緩和することができました。最低限の条件は残しつつも、時間帯や滞在時間も緩和し、なんとなく以前の日常が戻ってきました。

看護部は前年度、『患者さまに信頼されるやさしい看護・介護』を目標に掲げてきました。今年度は、『地域密着型』ということに焦点を当て『地域の皆さまに信頼されるやさしい看護・介護』という言葉に変えて頑張ってきました。

少子高齢化と言われるこの時代、入院患者さまの大半がいわゆる後期高齢者と言われる年代の方々であると言っても過言ではありません。

今年度を振り返ると、独居や高齢者夫婦が寄り添っての二人暮らし、そして、病気が治っても、慣れない入院生活による認知機能の低下、日常生活動作の低下など、すぐに元の生活に戻れない、といったケースが間違いなく増えています。

そのような困難ケースでも、患者さまご本人の気持ち、ご家族さまの戸惑い、悲しみを受け止め、多職種チームでの関わりを持ち、今後の生活へむけての支援を行ってきました。

急性期から慢性期・療養までの看護を一手に引き受けることができるという当院の強みを生かして、これからも私たち三木山陽病院看護部は、地域の皆さまを支え、寄り添える、そんな存在を目指していきたいと思います。

3. 今年度の新たな取り組み・導入

- 1) 看護部教育委員会 呼吸器関連研修（シリーズ化）（医師による研修）
酸素療法（低流量、高流量システム） 血液ガス 人工呼吸器
- 2) 入院患者さま介護・日用品 入院セットの導入（業務委託へ）

5 階 病 棟



活動報告

5 階病棟は本年度も急性期病棟として24時間体制で入院の受け入れを行ってきました。入院だけではなく、当院における多くの手術も5階病棟で対応しています。

高齢化と言われますが、わが病院においても、10年前と比較して、平均年齢も高くなっていると感じます。認知症の患者さまも看護しながら業務を行うのは、かなり神経を使う事を強いられますが、患者さま一人一人に寄り添い対応してくれているスタッフには感謝です。



コロナ感染症が5類感染症となり、私自身の感覚的には本年夏くらいから、世間ではマスクを外し、コロナ感染症が知れ渡る以前の様子に戻ってきた感覚があります。

しかし、医療機関では引き続き感染対策には気を使いながらの業務は続いています。そして、忘れたころにやってきた冬のインフルエンザの大流行。例年になく多くのインフルエンザの患者さまが入院されました。

まさにウイルスとの戦い。患者さまを看護しながら、細心の注意を払って、院内感染を防ぎながら、日々業務に邁進しています。

治療はもちろんですが、私たち看護師の大きな役割は『療養上のお世話』です。少しでも不快を取り除き、少しでも快適に過ごせるよう、看護の力の見せどころです。忙しい中でもそんな気持ちを忘れず対応できる病棟を目指していきたいと思っています。

患者さまの家族の面会制限も大きく緩和され、完全に自由というわけではありませんが、比較的柔軟に面会もできるようになりました。

入院患者さまだけではなく、家族さまにとっても安心できる入院環境を提供できるように優しく、思いやりをもって、対応していきたいと思っています。

そんな5階病棟に本年度も新たなスタッフが加わりました。他の病棟からの異動や新入職のスタッフです。慣れない環境で、大変だったと思いますが、今では大きな戦力となり一緒に仕事をできていることを嬉しく思います。

入院の受け入れや手術など忙しい病棟ではありますが、お互い助け合い、雰囲気よく仕事をしています。

4 階 病 棟



活動報告

4 階病棟は、内科・外科・整形外科・泌尿器科・眼科など様々な疾患を抱えた患者さまの入院の受け入れや、緩和ケア・ターミナル期にある方の入院や転院の受け入れ、地域病院のバックアップなど常に様々な病態の患者さまが入院されている病棟です。



そのため私たちスタッフは複数の診療科の医療処置に触れる機会も多く、日々自己研鑽に励み患者さまにより良いケアが行えるよう知識や技術の向上を目指しています。

今年度もコロナウイルス感染症が1年を通しどの時期にも見うけられ気の抜けない日々が続いていますが、コロナを理由に閉塞感や、何かを諦めるような事があってはいけないと、常に前向きで笑顔の絶えない病棟を維持できるよう努めてまいりました。

患者さまやご家族さまからは、4階のスタッフさんたちはみんな元気で明るいね！こっちまで元気になってくるよ！と言っていただく事も多く、病棟全体が温かく活気あふれる雰囲気があります。

今後も患者さま、ご家族さまに寄り添い、「その人らしく」安心して入院生活を送っていただけますよう努めてまいります。

「三木山陽病院に来てよかった」と思っていただけのような看護・介護を提供していただけるよう看護師、ケアワーカー、クラーク一同取り組んでまいります。

3 階 病 棟（医療療養型病棟）



活動報告

3 階病棟は医療療養病棟で長きにわたり入院生活を送られている患者さまが多くいらっしゃいます。そのためご家族さまとの関係性も深くなっています。

高齢で寝たきり、意思疎通の図れない患者さまや胃瘻や中心静脈栄養の患者さま、透析・ターミナルステージの患者さまも多く、看護師・ケアワーカーが五感を働かせ関わっていくことが重要である病棟と常を感じています。その中でも患者さまの最期の瞬間に立ち会うことも多くあり、これまでの関わりが深く家族のここのように感じることもありました。



年末にはインフルエンザが爆発的に流行しつつある中、当病棟ではコロナ感染症のクラスターが発生し患者さま・ご家族さまにはたくさんのご不便とご心配をおかけいたしました。高齢で免疫力の低下した患者さまへの罹患は5類に移行したとはいえ感染力の強さには参りました。スタッフ全員で感染対策に対して見直し、知識や技術を確認しこれ以上感染が拡大しないように対応し終息に向けスタッフ全員で取り組んできました。

これからも患者さまが安心して療養生活を送ることができ、地域に密着した医療・看護が提供できますように誠実で優しい対応を心がけ、当院を選んで良かったと思っていただけるよう日々研鑽してまいります。



2 階 病 棟



活動報告

2階病棟は地域包括ケア病棟で、病床数は52床、スタッフは、現在看護師23名、ケアワーカー9名、クラーク1名の33名が在籍しています。



新卒2年目から経験数十年のベテランまで幅広いスタッフが在籍しています。看護や介護業務は経験に裏打ちされる内容も多くベテランさんは頼もしい存在です。若いスタッフも日々学びを増やしながら奮闘してくれています。

今年度、9月に看護師1名が主任に昇格しました。新米主任さんではありますが、立派に頑張ってくれています。もう一人ベテラン主任さんが居て、看護主任2人体制となり、病棟の体制がより強固になりました。今後の活躍が楽しみです。

そして、今年は十数年ぶりの病棟クラークの異動がありました。異動直後は慣れない業務で大変だったかも知れませんが、いずれのクラークもみなベテランなのでずっとそこにおられたかのような働きぶりです。

地域包括ケア病棟は最長60日間（40日以内で高評価）という期間の中で退院支援を中心に行う病棟です。入院患者さまの年齢層は大体40才台～90才台と幅広いです。医師の診療を中心に、看護師・ケアワーカーが協力してそれぞれの患者さまの個別性を踏まえた対応を行うのですが、日々工夫して奮闘してくれている2階スタッフは頼もしい存在です。医療ソーシャルワーカー・薬剤師・栄養士・リハビリスタッフと協力体制のもと、転入当初から退院を視野に入れた関りを行い、退院される患者さまそれぞれがその人らしく過ごして頂けるよう、より良い支援に繋げられるよう次年度も取り組んでいきます。



活動報告

外来は病院の玄関と言われており、患者さまの問診や診察介助また、医療処置や生活指導、救急対応など幅広く複数の業務を行う重要な役割を担っているセクションです。

外来は今年度、患者さまに安心して受診していただけるように、引き続き発熱外来の対応に力を入れました。令和5年5月に新型コロナウイルス感染症の位置づけが2類感染症から5類感染症に移行したことや、感染症の減少によって社会的な関心も落ち着き、これからの社会はウイルスと闘いながら共存へと変わっていくのだと感じました。しかし、新型コロナウイルス感染症の終息が見られないため、病院では私たちの少しの気の緩みやちょっとした判断の誤りが患者さまの安全、安楽など命に影響を与えかねないという警戒心が必要となり、発熱外来と一般外来の落ち着いた対応を両立するための新たな課題に取り組むことになりました。よって、慌ただしい中でもチーム全体でサポートし合いながら、手洗いや消毒、手袋やマスクの着用など衛生環境を整え、発熱や風邪症状の患者さまに対して、慎重かつ丁寧な対応を継続して行うことを心がけました。

内科診療においては、6月の診療報酬改定で糖尿病、高血圧症、脂質異常症の生活習慣病で通院されている患者さまに、「生活習慣病療養計画書」の発行が必要となり、医師とメディカルクラークがおおむね4か月に1回、作成と管理を行うことになりました。目標値や注意点をまとめて計画書を発行し手渡しする作業を行っています。検査数値の目標設定により、自身が健康管理を自覚し改善できるように患者さまに寄り添った療養計画の作成を行い、従来通りのスムーズな診察になるよう医師と協力し合って取り組んでいきたいと思っています。

では、外来の勉強会の様子を紹介します。(写真①)

写真①はアクションカードを用いて防災訓練を行っています。

外来で地震などの大規模災害が起こった時に想定しうる範囲で、とるべき避難行動や患者さまの誘導が安全に行えるようにデモンストレーションを行いました。災害の程度や時間帯などの条件にもよりますが、消火器の設置場所の把握、防火戸の手動開閉を経験するなど、災害発生がない日常に準備することで、災害時に各自が行動に移せるように役割分担を把握することの大切さを学びました。



(写真②)

人形を用いた心肺蘇生法の勉強会です。

写真②は処置室で心肺停止状態になった患者さまを発見した時の、心肺蘇生のデモンストレーションの様子です。受診中の患者さまも診察を待っている時や、リハビリテーション中に意識消失など緊急を要する状態になることがあります。スピード感のある判断力や高い看護スキルが求められるため、心肺蘇生法の勉強会を年に1回行い、スタッフ全員が参加することで経験がないという不安の解消に繋がるようにしています。

このように避難行動や心肺蘇生法など、外来ではその時に速やかに適切な判断や行動で救命できるかということを課題に、いざという時に備えるように努力をしています。勉強会の後で振り返り、意見を出し合っ

てスムーズな動き方や必要物品の見直しなどの修正、周知徹底し常に緊張感と外来業務の役割意識を持って仕事をするのが重要であると考えています。



次年度の課題を二つ挙げました。

一つ目は、自分は“変われる”ということ…優しい対応についてです。自分以外の人のために気遣いや、相手の立場になって考えるなどの根底にあるものはやさしさなんだとスタッフ一同、日々感じています。私たちは看護や介護の知識、技術は持っている当然です。プラスアルファ気持ちを寄り添わせ傾聴的な態度、一緒に考え共感する姿勢、感情の動きを理解し相手を思いやる言動ができるなどのやさしさを持っていることが重要だと思います。

よく白衣の天使と耳にしますがユニフォームだけではなく、天使のイメージであるやさしさを提供できる人に“変われる”ということ合言葉に、患者さまの不安や苦痛に寄り添った優しい対応を心がけていきたいと思っています。

2つ目は、地域の方々の幸せに貢献する努力を重ねていくことです。当院は「断らない救急」を理念にしています。24時間、365日いざという時に三木山陽病院で診てもらえるというニーズに応じることが、地域の方々の安心や不安の軽減に繋がることだと思います。

よって、外来は多職種と円滑なコミュニケーションを密に連携協働し、他病院・施設からの紹介診療や転院の受け入れを可能にすることが必要です。忙しい際も丁寧にスムーズな救急受け入れができるように、マンパワーの確保、空床ベッドの把握など、いかなる状況でも対応できる体制作りの強化に向けてスタッフが一丸となり前向きに取り組んでいきたいと思っています。

次年度の抱負は、スタッフ一人一人が院外・院内研修に参加し向上心を持って知識や技術のアップデートをしていくこと、また、多様なワークスタイルの受け入れや、やさしさをスタッフ間にも向けることで、より働きやすい環境を作り離職率がゼロになることを目指します。

次年度も安心して選んでいただける医療機関になるための努力を惜しまず、優しい対応を基本に責任と誇りを持って質の高い医療を心がけていきたいと思っています。



活動報告

内視鏡室の今年度の目標である、「患者さまが安心してリラックスした状態で安全な検査が受けられる」ように、常に笑顔を絶やさず優しさを持った対応に努めてきました。

今年度、新たにスタッフ3名を迎え、新しい視点での改善点・気づきがあり業務改善にも取り組みました。5S活動に基づき整理整頓を積極的行いました。物品の在庫管理、収納場所の見直しにより、煩雑となっていた内視鏡室内をすっきりとさせることができ効率よく業務を行えるようになりました。

業務改善の一環として、スコープの洗浄手順・処置具の使用方法的勉強会を開くことができ、エビデンスに基づきスタッフの手技の統一を図りました。

感染対策も手を緩めることなく継続して行いました。コロナ禍以降実施している検査前の検温・酸素飽和度測定、風邪症状の有無の聞き取り、検査中の飛沫防止目的の為に検査用マスクの使用、また検査ベッド使用後の環境クロスでの環境整備、スタッフの標準予防策も徹底して行うことで患者さま、スタッフ双方が安全に検査を実施することができました。

昨年度から導入となった超音波内視鏡・超音波内視鏡下穿刺吸引法の件数も増加しています。患者さまが検査決定から、入院、検査、退院まで安心して円滑に受けていただけるよう外来と連携・協力し検査手順を作成し運用することができました。

来年度も患者さまが安心してリラックスした状態で検査を受けていただけるよう、内視鏡室の環境を整え、知識と技術の向上を目指しスタッフ全員で業務に取り組んで行きたいと思えます。

手術・中央材料室



活動報告

当院手術室では整形外科、外科、眼科、内科（シャント造設）、泌尿器科の手術を年間約1,100件実施しています。まだまだ感染症の影響も大きく、予定していた手術の延期や感染対策を講じ手術を実施するなど臨機応変に対応できるよう備えています。

今年度は術前術後訪問の実施強化に加え、事例検討カンファレンスを実施できるよう目標にあげました。術前訪問で得た情報から個別性の高い看護につなげられるよう、また術後訪問では自分たちの看護の振り返りから次へつなげられるよう短い時間ですが話し合いを行いながら進めました。小さなことも情報共有し、より良い周術期看護につなげられるよう取り組みました。まだまだ件数は十分ではありませんが、より安全に、安心して手術を受けていただけるよう事例検討の数を増やし当院手術室のレベルアップを図りたいと思います。



中央材料室では、今年度も安全安心な医材の提供を行うことを第一の目標とし取り組みました。その中の一つに、臨床現場で使用されるまで安全性が保持されるよう定期的にラウンド業務を行っています。そこでは、定数の見直しや過剰在庫、期限切れ等の確認、指導を行うことで病院全体の医材提供が円滑に行われるよう努めています。これらの



活動により各部署からは期限切れ物品の交換依頼も増え、院内スタッフの意識の高まりを感じた1年でもありました。

過酸化水素ガスプラズマ滅菌が導入されて1年が経過しました。滅菌時間が短縮され非耐熱性滅菌物が迅速に供給できるようになりました。その反面、稼働していく中でエラーの発生や、うまくいかないことも多くありました。メーカーの方にアドバイスを頂き一つ一つ原因の追求と対策を講じることで、始動当初に比べると不具合を生じる場面も少なくなってきました。まだまだ学びの段階ではありますが導入の効果を最大限に引き出していきたいよう取り組んでいきたいと思っています。



透析センター



活動報告

今年7月1日、大山敦詞医師が透析副センター長として就任されました。

透析室で勤務するスタッフは、森田理事長兼透析センター長はじめ、非常勤医師の彦坂玲子医師、臨床工学技士8名 看護師11名 クラーク1名 ケアワーカー1名 計24名です。チームワークが良く、いつ何時もみんなで協力し助け合いながら仕事をしています。

当院の患者さまは現時点で130名。多くが高齢の患者さまで病気のみならず日常生活面でも不安を抱えておられる患者さまが年々増えてきています。

また、患者さまを支えるご家族の多くが高齢な為、何とか私たちが柱となり、医師と協力して、できるだけ安心して住み慣れた自宅から通院し続けて頂けるようサポートし、更に質の高い医療が提供できるよう取り組んでいます。

今年度も昨年に引き続き、新型コロナウイルスとの闘いの年になりました。

令和5年5月、新型コロナウイルス感染症が、5類感染症に位置づけられ、人々があれほどまでに恐れていた状況から軽視され、またコロナは終わったという声も聞くようになりました。しかし、新型コロナウイルスは、いまだ感染力は強く、抵抗力が弱く感染しやすい透析患者さまを治療している現場はそうはいきません。むしろ、以前よりも感染には厳重管理をしないとイケない状況です。透析室を守るのはスタッフだけではなく、患者さまのご理解とご協力が必要で、連携して集団感染拡大防止に努めていかなければなりません。

当院の患者さまは意識が高く、少しでも風邪症状や発熱症状があれば来院前に事前連絡を下さり、コロナ検査を行ってから透析対応としております。それもあって、過去にクラスターの経験なく現在に至っています。これからもまだまだ続くであろう感染症から患者さまの命を守り、患者さまが安心して当院で治療を続けて頂けるよう、病院の理念でもある、心と技術の調和した優しく信頼される病院を目指し精進して参ります。



活動報告

今年度の診療報酬改定に伴い、職員への勉強会を実施しました。新たに算定可能な項目や、算定基準の変更した項目等確認と共有を行いました。その中で、医学管理料の特定疾患療養管理料対象疾患から「脂質異常症」「高血圧症」「糖尿病」が除外され、当院は生活習慣病管理料移行しました。

厚生労働省の指針に則り、上記3つのいずれか主病とする患者さまに同意を得た上で、今後の目標設定、血圧や体重、食事、運動に関する具体的な指導内容、検査結果を記載した療養計画書を作成し、お渡ししています。外来と連携をとりながら、算定可能な項目かを確認し、正しい保険請求と会計の待ち時間短縮に努めました。

12月には、従前の健康保険証発行が終了し、マイナ保険証（健康保険証として利用するための登録をしたマイナンバーカード）へ移行されました。患者さまが不便さを訴えられるのは、患者さまご自身の操作が必要な点です。ご要望があればお隣で登録の補助や、患者さまの理解の浸透と、受付窓口の混雑改善に取り組みました。

当院では、院内フロアマップを数箇所設置しておりますが、廊下で立ち止まられる患者さま、周りを見渡される患者さま、ご質問いただく事から、受付でお渡しするファイルに案内表を導入しました。

初めて来院された患者さまと、間があいている患者さまを中心に実施しています。

今後も患者さまに喜んでいただける受付を目指すために、改善できる点は、積極的に取り組んでいきたいと思えます。



活動報告

総務課は7名体制で、財務・経理、人事・労務、庶務の業務を行っております。

今年度は一部業務の担当を変更し、仕事内容の見直しを行いました。最初は慣れない仕事に戸惑いもありましたが、総務課一丸となり助け合うことで乗り切ることができました。

次に自院ホームページの求人内容を多少ではありますが充実させました。今後、求職者にとって魅力的な情報を提供していきます。

最後に労務管理システム（スマートHR）について、昨年度は給与明細書の配信・年末調整アンケート・源泉徴収票で活用しましたが、今年度は定額減税のアンケート、社会保険料の算定通知書の配信を行い多少ですが、ペーパーレスが実現できたと思います。

来年度は三木山陽病院の創立30周年の記念すべき年でもあります。今年度以上に成長できる年になるように、そして患者さま、職員のためによりよい組織となるよう、総務課一丸となり影ながら支えていきたいと思っています。





活動報告

今年度は、昨年度に引き続き大規模外壁補修工事を実施しており、ご迷惑をおかけしております。工事も終盤に差し掛かり、新館・透析センター・サンスマイル三木ともに3月には全て完了する予定となっております。雰囲気が変わった建物をご覧いただくことができるかと思えます。

物品管理では、現場への安定供給を第一に考えながらも、世間と同様に値上げが続いています。現場職員には無駄を無くすとともに、代替品の使用も協力してもらっています。

また、入院セットの導入により、当課で管理していたリネン類、消耗品類の取り扱いを委託することとなり、業務負担の軽減となりました。



保清

今年度は、新たに入職した職員も業務に慣れ、増員となったことから、今まで手の届きにくかった所を清掃する機会も増え、これまで以上に綺麗な環境作りができたと思います。

引き続き、病院の環境保全に努めていきたいと思えます。





活動報告

当課の主な業務内容として、営繕業務・送迎業務・駐車場整理・園芸業務があります。

1 営繕業務



令和6年度から第一種特定製品の簡易点検（年3回）の取り組みを始めました。他にエアコンフィルターの交換清掃、換気扇清掃、車椅子の点検及び修理、便座点検等の業務があります。また破損したコンセントの取り替えや電気配線工事、依頼を受けた棚等の木工作業もあります。院内や職員駐車場の維持管理もあり、今年度の11月に職員駐車場E-Fの木製階段が腐食劣化した為、腐食しにくいメッキ塗装の鉄製単管を使用して階段の設置を行いました。



2 送迎業務

透析患者さまの送迎では、コロナ禍から始まった体温測定と体調確認の問診を引き続き行ってから乗車していただいております。

透析患者さまの送迎車両や巡回バスの利用者さまに安心してご利用いただけるよう安全運転の向上と危険予知の向上を目的に今年度から年2回安全運転技術テストを実施しました。

今後も安心して乗車していただけるよう安全運転技術の向上を目指します。



3 駐車場整理

朝9時過ぎには院内駐車場が満車になることが多く第2駐車場やC駐車場へ誘導することが増えてきましたが、混雑を回避してスムーズに駐車していただけるよう空きスペースへの案内をしています。「他の病院に行っても警備員がいないのに、猛暑の中や雨の中にもかかわらず親切に案内してくれてありがとう」とお声をかけていただくこともあり励みになりました。

4 園芸業務

- ・遊歩道、斜面の植木の剪定と草刈
- ・やすらぎの路（2階庭園）の花壇の管理
- ・なごみの丘（屋上庭園）の芝生と樹木の剪定
- ・院内駐車場及び職員駐車場の草刈

観葉植物や花や樹木を見ることで、患者さまやご家族さまの緊張を緩めストレスなどが軽減できるような環境整備にこれからも務めていきます。





活動報告

今年度は常勤児4名、臨時児童64名という編成でスタートし、1対1の関わりを大切にしながら、個々の思いや成長過程に寄り添い、信頼関係の構築に努めました。保育士ひとりひとりが子どもとの関わりを通じて得た気づきを共有し合い、成長に繋がる取り組みを模索した結果、子どもたちは存分に自分らしさを発揮し、毎日元気に成長しています。

1年を通して数え切れない喜びを感じる瞬間があり、それを保護者の方々と共有できることも私たちの大きな喜びのひとつです。今年度も感染拡大防止の為、時折厳しいルールにご協力いただき、大きな混乱もなく1年を終えることが出来ました。何か問題が発生した際には、病院や各部署との連携も年々強固なものとなっており、困ったときに助けてもらうだけでなく、保育所が各部署にとって必要な存在であると認識してもらえるよう、責任を持ってその役割を果たしていきたいと考えています。

また、患者さまと直接関わることの少ない部署ではありますが、散歩の際に薬局入口や遊歩道でお会いした際には「かわいいね」「お散歩行くの?」「気をつけてね～」などと温かい声をかけていただくことがあります。最初は恥ずかしがっていた子どもたちも「バイバイ」と手を振り、「こんにちは」と自分から挨拶出来るようになって、良い刺激を受けています。私たちは、病院にいらっしゃる患者さまに子どもたちの笑顔を通じて元気を届けられるよう、今後も取り組んでいきたいと思っています。

◎保育所年間行事◎

〈春〉進級式、保護者会、春の遠足（三木鉄道記念公園）、野菜の苗植え、花の種まき、内科健診、歯科検診



〈夏〉七夕会、プール開き、ボディペインティング、寒天遊び、野菜の収穫、プール納め



〈秋〉内科健診、秋の遠足（三木ホースランドパーク）、運動会ごっこ



〈冬〉クリスマス会、正月遊び、節分豆まき、お別れ遠足（みきっこランド）、お別れ会





活動報告

～陽光（ひかり）と緑あふれる空間で ともに “いつも” の生活を～

サンスマイル三木は、三木山陽病院併設の個室ユニット型老人保健施設として平成22年7月に開設し14年を迎えました。定員60名のユニット（入所）、同55名のデイケア（通所）と2つの部門があります。また、ショートステイ（短期入所）の受け入れも積極的に行っています。利用者さまに安心して過ごしていただけるよう職員一同、思いに寄り添い笑顔の対応で努めていきたいと思っています。



【事務所】

年度初めの4月に介護報酬改定があり、新たな取り組みのスタートに向けて通知文書とのにらめっこから始まった1年でした。春先からは利用者さま・ご家族さまへのご案内やご質問への対応、施設内での検討・周知などあっという間に時間が過ぎていきましたが、皆さまのご協力のおかげで何とか無事に乗り切れたと感謝しています。

そして今年から、4年の長きにわたりご協力頂いてきた面会制限が今年度から緩和されました。久しぶりに過ごすご家族との時間を心地よく始めて頂くべく、昨年に引き続き接遇態度に気を配りながらスムーズな案内を心がけております。

次年度はさらに行事やレクリエーションの充実を目指して準備を始めていますが、使用物品の管理については物価高騰の中、なるべく影響が少ない範囲で無駄・ムラのないよう、引き続き適切な物品の管理に努めていきたいと思っています。

【リハビリ】

リハビリでは「機能向上を目的にした個別リハビリ」「在宅生活を意識した生活リハビリ」に重点を置き、自立支援に取り組んできました。

在宅訪問を行うことで生活環境を踏まえたリハビリ計画を作成し、筋力トレーニングなどの機能訓練に加えて、在宅生活に必要な動作練習を積極的に取り入れました。その結果、在宅復帰への意欲が向上し利用者さまのやる気を引き出すことで在宅復帰へ繋げることができました。さらに在宅生活の継続に必要な福祉用具の選定や住宅改修のアドバイスを行い、ご家族への介助指導にも力を入れてきました。

今後も利用者さまが住み慣れた場所で安全に生活を続けられるよう、多職種で連携を図りながら努めていきたいと思っています。

【ユニット】

ユニットでは本年度の目標

「互いの笑顔を大切に ～利用者さまの思いに寄り添い

笑顔の対応で笑顔を引き出す～」

「笑顔」を意識し、利用者さまが居心地の良い環境で一人一人の思いに寄り添い、日常生活を安心して過ごしていただけるように努めてきました。

本年度は感染対策が緩和され、居室での面会が再開されました。また、外出にも行けるようになりました。外の様子や空気を味わうことで気分転換となり、利用者さまのたくさんの笑顔を見ることができました。

1年を通し、季節ごとの壁画制作にも取り組み、レクリエーション雑誌「レクリエ」に作品が掲載されました。利用者さまの作品を全国の方に見ていただくことができ利用者さまも大喜びで更に製作意欲が湧いているようです。

行事では、秋祭り、敬老会、クリスマス会なども開催し、利用者さまも楽しまれました。



家族さまとのコミュニケーションも行いながら利用者さま、家族さまが安心してご利用いただけるようにお一人お一人の思いを大切にしながら「その人らしい生活」で「笑顔」を引き出せるように努めていきたいと思ひます。



【デイケア】

今年度は、コロナ渦で出来なかったレクリエーションの充実に向け取り組みました。

四季を感じていただく為桜・紫陽花・紅葉を見に行き、その後は喫茶店に立ち寄り日々の生活とは一味違った気分を味わっていただきました。また、クラブ活動にも力を入れています。施設内での活動だけでなく書道クラブでは書道展へ、園芸クラブでは菊花展に行き様々な作品に触れ合う場を設けました。今後はクラブアンケートを実施し利用者さまのニーズに合わせた活動を行い、通うのが楽しみなデイケアを目指します。



居宅介護支援事業所



活動報告

2024年度は事業所内の年間テーマとして『こころから実行しよう利用者ファースト』をテーマに業務に努めてきました。

今年度もたくさんのご利用者さまの担当をさせていただき、少しでも在宅での生活を快適に、介護されるご家族さまがご負担に感じないようなサービスを提供することを考えてきました。

新規のご利用者さまとはていねいに面接を行い、日常でどんなことにお困りかを聞き取りさせていただき、介護保険サービスや保険外で利用できるサービスなどもご説明し、可能な限り早急にサービスをご利用いただけるように努めています。すぐにサービスをご利用されなかった方についても、後日改めてご様子を伺い、サービス利用に繋ぐことができたケースもありました。

院内でお話を伺ったのちにご自宅に訪問すると、想像以上に大変なお世話を長期間されており、早急に入院や施設利用に繋ぐことで、ご家族さまに安心していただくことができました。

ご自宅で看取りをされるご利用者さまもおられ、お世話されるご家族さまが不安にならないよう、またご負担にならないように、訪問診療、訪問看護、訪問入浴などの導入を実施し、在宅で看取ってよかったと思っていただけるケースも複数件ありました。

今年より、院内の訪問看護事業所と同じ部屋で勤務することとなり、医療度の高いご利用者さまに対するケアやりハビリの思いを話し合う機会が増えたことで、これまで以上にご利用者さまに寄り添ったケアが提供できたのではないかと思います。

また、隣接の老人保健施設サンスマイル三木のご利用者さまも多く、通所リハビリやショートステイのご様子を見に行くことで、スタッフとの情報共有も密に行えるため、サービスの見直しも迅速に行えています。

同一法人であるサンフォレスト三木のサービス付高齢者向け住宅の入居者さまも多数担当させていただき、同一法人のデイサービス、ヘルパー事業所とも連携をとり、より細やかなサービス提供ができるよう、サンフォレストのスタッフと話し合いの場を今後も多く持っていきたいと考えています。

現在事業所内に5名のケアマネージャーが在籍し、ケアマネージャーそれぞれの動きがスピード感や知識、対応などに差が出てしまいがちですが、次年度はできる限り統一した対応ができるようにすることと、ご利用者さまに対して優しく丁寧なケアマネジメントができるよう、心掛けて業務に励んでまいります。

訪問看護ステーション



活動報告

三木山陽訪問看護ステーションは2025年7月で開設5年となります。

スタッフは看護師4名、理学療法士1名、事務員1名の計6名が在籍しています。

今年度も「利用者さまが困ったときに、できるだけ早く対応する」ことを全員で協力してきました。

さらに困ったときだけでなく

- ・利用者さまらしく在宅生活を過ごすには
- ・利用者さまの生活の質向上のためには

を考えるようになりました。

このようなことを考えるようになったのは開設以来の長い期間、当ステーションをご利用されている方々との関わりもきっかけの一つになりました。

一年ごとに年齢を重ね、病状の変化や体力の低下など抗えないことはあります。それでも、その時の状況に応じた利用者さまらしい生活を、一緒に考え支えていきたいと考えています。利用者さま、ご家族さまが笑顔で過ごせる日々が増えることは私たちスタッフの喜びでもあります。

これからも在宅生活を送る利用者さま、家族さまが穏やかに笑顔いっぱいでお過ごしのお手伝いをさせていただきます。そしてスタッフ自身も元気に笑顔で訪問できるように、しっかりと健康管理をおこないスキルアップに努めてまいります。

サービス付き高齢者向け住宅 サンフォレスト三木



活動報告

サンフォレスト三木は、令和7年3月で開設丸2年が経過しました。

「笑顔あふれる安らぎの暮らしを支えます」を理念に掲げ、サービス付き高齢者向け住宅として、安否確認と食事提供サービスを基本に、ご入居されている皆さまに安心して快適にお過ごしいただけるよう努めてまいりました。

今年度は、訪問理容サービスを開始したり、よくご利用される一部の消耗品を購入していただけるように体制を整えるなど、新たな取り組みをスタートさせました。

また、アンケート調査を実施し、結果を基に改善にも取り組んでまいりました。

入居者の状況については、開設2年ではありますが多くの方が1年半以上お住まいいただいております。

入居者は、訪問介護やデイサービス、デイケア、訪問リハビリ等、各々のケアプランに基づいた介護サービスを受けながら生活されています。心身状況の細かい変化を察知し各事業所の方々との連携を密接に行い、より適切なサービスを受けながら、健康でお過ごしいただけるよう、今後もサポートしてまいります。



【デイサービス サンフォレスト】

開設2年が経過し、地域の利用者さまやケアマネージャーとも日々のやり取りを丁寧に連絡や報告をこまめにしてきたことで、少しずつ信頼関係を構築していくことができ始めているのかなと感じています。

今年度は、住み慣れた場所で少しでも安心して生活して頂けるようにとの思いを念頭に置き、日々サービス提供を行い、ご家族さまの負担軽減に努めた1年となりました。

本来なら施設に入所する事が正解なのかもしれない利用者さまであっても、今まで大変な時代を生きてこられた歴史があります。そして、ご家族さまの思いもあります。

在宅（サ高住含む）での生活を希望されるのであれば、できる限りの支援をさせて頂きたいと思います。

老後への不安な気持ちに少しでも寄り添える、そんなデイサービスであり、一人の「人」でありたいと思っています。

来期では、優しさ・技術向上・おもてなしの心を大切に“サービスの質の向上”を目標に、スタッフ皆で、勉強し知識を増やし、実践していく前向きな3年目を過ごしていきたいと考えています。

【訪問介護ステーション サンフォレスト】

訪問介護ステーション サンフォレストはサ高住と歩みを同じく、令和7年3月で開設丸2年が経過し、3年目に入ります。

「ご利用者さまやケアマネージャーに信頼され、必要とされる人材の育成を行い、業績拡大につなげていく」と目標をかかげて進んでまいりました。さまざまなことに謙虚に、そして前向きに歩みを進めてきたことで、少しずつ目標を達成出来てきているのではないかと思います。まだまだ未熟なステーションではありますが、今後も謙虚で前向きという従来の姿勢は崩さず、周囲の方々への感謝の気持ちを忘れずに、法人理念でも大切にしている《優しさ》に、さらに「明るさ」と「元気」をプラスして取り組んでいきたいと思っています。



勤続20年のスタッフからの一言

何の知識もなくケアワーカーという仕事につき、気が付けば20年です。

最初は何も分からず先輩に教えていただき、今では新しく入ってきた方に教える立場ですが、なんとか気力、体力が尽きないように気を配り続けて働いてもらえるようにと思う日々です。患者さまも様々な方がいらっしゃって大変気をつかいますが、今まで言われたこともないようなことを言われて落ち込んだこともあります。しかし、優しく対応して下さりこちらが癒される事も多々あります。日々、患者さまと出会い、退院され別れるの連続ですが、入院されている間の不安な気持ちを持ちながら頑張られている患者さまの気をまぎらわせ、寄り添い回復のお手伝いができるよう私自身も体調を整え、おおらかな心持でこれからも働いていきたいと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。

ケアワーカー

振り返ると20年はあっという間に過ぎていき、小さい子どもを抱えて出勤していたのを思い出しました。今よりも20年若かったので、知識も技術も人間的にもまだまだ未熟でしたが、皆さまに支えられ、指導をしていただき少しは成長できたかと思います。

まだまだ完成形ではありません。定年まではあと少しありますのでコツコツと丁寧に取り組みたいと思います。

皆さま、これからもどうぞよろしくお願い致します。

看護師

20年と言う長きに亘って働くことができたのは、理事長をはじめ多くの職員の皆様と家族の支えがあったからだと心より感謝しています。

私が入職した年は、病院が古い建物から新しい建物に引っ越しした年でもあり、休日に出勤して大移動したことが懐かしく、またその時にワクワクした気持ちと期待感、そして微力ながらも病院の発展のために頑張っていこうと思ったことを思い出しました。

時には「なんでっ」と怒りを爆発したい時もありましたが・・・20年と言う月日は私にとってはあっという間に過ぎ去ったように感じていますが、病院を見渡すと部署が増えたりコロナで別室が出来たり、電子カルテに変わったり、患者さまを番号で呼ぶようになったりと探せばたくさんあり、20年前に比べ患者さまも増え発展したと感じます。

年々、時間が経つのが早いと感じるのと同時に体力の衰えも日に日に感じています。あと、何年働けるか分かりませんが、第2の人生のことも考えながら有意義に過ごせるよう健康に気をつけ感謝の気持ちを初心を忘れず、患者ファーストで優しく信頼されるように今後も努力していきたいと思いますのでよろしくお願いします。 看護師

令和6年12月に永年勤続で表彰され、改めて20年という長い間この三木山陽病院でお世話になったんだなと感慨深い気持ちでいっぱいになりました。これも私に関わってくださった職員の皆さまの支えがあつてのことだと感謝しております。

20年前を振り返ると2004年、息子を出産し育児に励んでいましたがその一方で社会と離れたという焦りもあり、私の気持ち優先で三木山陽病院に就職しました。元々器用にこなせないのに育児・家事・仕事は本当に大変でした。この点では家族の協力があり今日までやってこられました。

仕事の合間に息子の授乳をしながら涙したこともあったり・・・いろいろな思い出があります。そんな息子も21歳になり大学で頑張っています。私もまだまだ勉強し、努力し楽しく看護師の仕事をしていきたいと思っています。

職員の皆さま、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。 看護師

三木山陽病院に入職し20年経ちました。ありがとうございました。

当院が建て替えし新しい病院になったばかりで、前からいらっしゃった職員の皆様が戸惑いながらも入職したばかりの私に色々教えて下さったことを思い出します。

内科のみの病院でしたが、理事長のご尽力もあり外科・眼科・泌尿器科・皮膚科と診療科を増やし、患者様のニーズに即した病院にどんどん進化していったように思います。

当院が機能評価を受けることができたことも、理事長のみならずみんなで努力した結果だと思え心から誇りに思います。

看護師としてそこそこベテランであると自負していましたが、病院の進化と共に新しい事に取り組んだり覚えたりと長いようで短く楽しい20年でした。

定年退職までカウントダウンに入り、あとどれくらい頑張れるかはわかりませんが、自分が先生方や先輩方に教えてもらったことを一つでも多く後輩たちに伝え、三木山陽病院がこれからも自慢できるような立派な病院であり続けるよう努力していきたいと思っています。 看護師

入職からこれまでの振り返りの機会をいただきありがとうございます。

私が勤続20年を迎えたことを皆さんとお祝いできることを大変嬉しく思っています。この20年間は、私にとって多くの学びと成長の時間でした。

振り返れば、20年前、私は三木山陽病院に入職したばかりの新人でした。右も左も分からず、不安な気持ちでいっぱいでしたが、温かく迎えてくださった先輩方や同僚の皆さんの支えがあったからこそ、ここまで来ることができました。本当に感謝しております。

この20年間で、多くの業務に携わる機会を頂き、そして様々な経験をさせていただきました。成功もあれば、失敗もありましたが、そのすべてが私の成長の糧となりました。また、多くの職場の方と共に働くことで、人間関係の大切さやチームワークの重要性を学ぶことができました。これらの経験は、私の宝物です。

今後は、これまでの経験を活かし、日々何かの目標をもって業務に取り組んでいきたいと考えています。次の20年は、さらに成長し、後輩の支えとなる存在になれるように努力していきます。私たちの病院がますます発展し、地域の方々の健やかな健康維持ができますよう微力ながら貢献していく所存です。

最後に、この20年の節目を迎えられたことを心から感謝し、これからも病院と共に成長し続けていけることを目標にワークライフを楽しんでいければと思っております。

ありがとうございました。

放射線技師

20年と聞いて、改めて振り返って実感しています。

三木山陽病院で6年、その後サンスマイルで14年、振り返ればあっという間の20年でした。

新卒で山陽病院に就職し、右も左もわからない状態の中先輩方に丁寧に熱心に指導して頂きました。その時病院で学んだこと、教わったことは今の自分の糧となり、いい環境で学ぶことが出来たんだと改めて感じています。

2010年に老健サンスマイル三木が開設され、縁を頂いてオープニングスタッフとしてサンスマイルへ移ることになり初めは経験もなく「老健とは？」からはじまり、内心やっいていけるのか不安が大きかったことを覚えています。しかしすぐにユニット・デイケアでの一人ひとりの日常生活・在宅生活に即した関わりが楽しくなり、すっかりサンスマイルから抜け出せなくなりました。

出産・育児休暇を経て、今は育児の真っ只中ですがここで仕事を続けたい、頑張りたいと思えるのは急な休みにも対応していただけている事はもちろん、やりがいや楽しさを感じながら仕事ができる、居心地の良い場所となっているからです。

先輩後輩や周りの人達に支えられ、病院・サンスマイルとも環境に恵まれたことで、これほど長く勤められたのだと痛感しています。

これからもまた5年10年と、少しでも貢献できるように前進していきたいです。

サンスマイル三木 理学療法士

私はこの20年で人生の大先輩である患者さまと先輩方と関わる中で人に左右されず、自分というものを持つことができました。また、主人は仕事でいないことが多かったので、子どもたちが喧嘩しながらでも協力して助けてくれたからこそ、心配なく仕事に行けていたんだと、改めて感謝したいと思います。最近は体の不調を感じます。それもそのはず、20年という月日は赤ちゃんが産まれて成人するまでの年月なので、私の身体が不調を感じたりするのはあたりまえだと思います。体は不調な時もありますが、心には少し余裕が持てるようになったので、退職まで患者さまに優しくを目標に頑張っていきたいと思います。

ケアワーカー

永年勤続を表彰していただきありがとうございます。20年長かったようであっという間に過ぎ去ったように感じられます。入職時、子どもたちが中学生で学業を終えるまでの10年だけ働こうとおもっていましたが、その子どもたちも親となり孫もできました。

多くの方との出会い、多くの事を教わりいろんな経験をさせていただく中で、つまづきや失敗もありました。ですが、これまで続けてこられたのも病院スタッフの皆様に支えられ助けていただいたおかげだと思っており、心より感謝しております。

今後も健康に気をつけながら頑張っていきたいと思いますのでよろしくお願い致します。

ケアワーカー

勤続10年のスタッフからの一言

入職してから10年が経ちました。右も左もわからない新社会人の私はリハビリテーション科のスタッフだけでなく、理事長先生をはじめとした多職種のスタッフの方々の助けがありここまで成長し、働くことができたと感じています。

新人の頃は、先輩の先生方に1から10まで聞きながら患者様に関わり、徐々に出来る事が増え自分自身でも評価、治療することができるようになりました。しかし、まだまだ知識や評価、治療技術は不十分で不足しています。これからも日々努力し、関わった患者様が、「あなたが担当でよかったです。」と思っていただけるようなセラピストであり、医療人でありたいと考えています。

10年前とは生活環境も大きく変化しています。日々変わる環境に対して、自分なりにベストをつくり患者様やその家族さま、病院に貢献できるように精進していきたいと思っています。

理学療法士

10年前、今までの職場と違う環境で就業するため当院へと転職をしてきました。今までは病棟勤務しかしたことが無かったため、就職して直ぐに夜間外来の担当をすることになった時の絶望感は今でも覚えています。ただ、それも経験を重ねる事で少しずつ対応出来る事も増え、少し気持ちに余裕のある対応も出来るようになり対応した患者様から感謝の言葉ももらう事が出来るようになりました。やはり感謝の言葉というのは、活力の源になるもので、次の患者様の対応への思いやりに活かされていったように思います。

今は患者様への対応のみではなく、意欲を持って行える業務も担当しており、患者様からもらった感謝の言葉の活力をもって個別性のある相手の立場に立ったものの考え方を意識しています。

今後も、相手の思いを考え「この人に関わってもらって良かった」と感じてもらえるような関わりが出来るよう努力していきたいと思っています。

看護師

入職してからの10年、周りの職員の方々に助けてもらいながら何とか続けてこられたという感謝の気持ちでいます。

本当にありがとうございました。

外来での仕事は「落ち着いているように見える」と言われることがありましたが、内心は焦りと緊張の毎日でした。失敗したり患者様を怒らせてしまったり。色んな事がありましたが、先生の横で様々な病状や検査などについて説明を聞く事が出来た経験は、部署が変わった今も役立っていると感じています。

自分の生活の中での節目節目で、やってみたいと思う仕事に巡り合えて働けていることは、恵まれていたとも思います。

今後も、それぞれの場所で出会った人との繋がりを大切にしていきたいと思います。

サンフォレスト三木 介護福祉士

入職し10年目を迎える事ができ大変嬉しく思います。

振り返るとあっという間の10年、色々なことを思い出します。

看護の仕事に携わりたいという思いがあり転職し、以前働いていた職種とは全く違いたくさんの不安がありました。分からないことが多く、心が折れることもあり「やっぱり私には向いてないのかな」と辞めようと思うこともありましたが、しかし周りのスタッフはいつも優しく声をかけてくれて丁寧に指導してくださり支えられ今の私があります。

この10年、沢山のひととの出会い一緒に仕事が出来たこと、患者様から学ぶこともあり「頑張っってね」「ありがとう」という言葉を笑顔と共に頂き、今の自分への自信に繋がっています。

相手を思いやり、人に優しく自分には厳しく、今までの経験をもとに今後に生かし初心の気持ちも忘れず頑張っていきたいと思います。

クラーク

サンスマイルに入職して10年になりました。

介護の資格は持っていましたが、介護施設で仕事をさせていただくのは初めてでした。最初は、職場環境をはじめ不安な気持ちや分からないことも多く、目の前の1つ1つをこなしていくことに精一杯でした。上手くいかずに利用者様や他の職員の方に迷惑をかけてしまい、何度も辞めようと思うことがありました。

落ち込む事もありましたが、先輩方に優しく、時には厳しい指導をしていただき少し

ずつ自信を持つことが出来たと思います。また、何より利用者様の笑顔に支えられて楽しく働くことが出来ていることに感謝しています。今は、介護という仕事にとってもやりがいを感じています。

まだまだ至らない事もたくさんありますが、これからも利用者様に寄り添ったケアが出来るように日々頑張っていきたいと思っています。

サンスマイル三木 介護福祉士

入職した当初は右も左も分からないまま、自分には何もできないと思い詰めることも多々ありましたが、一人のプリセプターとの出会いが私の考えを変えさせてくれました。

この仕事は理想だけではやっていけないということ。その方の病気だけではなく、これまでどのような生活環境であったのか、人間性などと深く関わっていかなければいけないということを教わりました。そのことがどれほど難しいか日々痛感しています。

この仕事のやりがいと魅力を、たくさん教えていただきました。何度も自分には向いていないと思うこともありましたが、その方のおかげでここまで頑張っていると思っています。患者様からもらった言葉や、スタッフとの関わりを今まで以上に大切に、これから先も自分に出来ることを考えながら、頑張っていきたいと思っています。

看護師

入職から10年を振り返ると、医療従事者として歩んできた道のりがどれほど濃密で学びに満ちたものであったかを実感します。初めて臨床の場に立った際の緊張感、患者様と向き合う中で感じた責任の重さは今でも心に残っています。最初の頃は、文献通りの知識を頼りに業務へあたっていましたが、経験を重ねるごとに、患者様一人ひとりの背景や感情に寄り添うことの大切さに気づきました。例えば、重度の機能障害から回復を目指す方と半年以上共に歩んだ時、その方の微かな笑顔や「ありがとう」といった感謝の一言が、私の原動力となりました。また、科内のスタッフとの連携も大きな財産です。困難な症例に直面した際、チームで考察を行い、ときには助言をもらいながら解決策を見出した経験は数えきれません。時には失敗もありましたが、それすらも次に活かす糧となり、技術だけでなく人間としても成長できたと感じています。

この10年で、リハビリテーションが単なる機能回復ではなく、患者様の人生や希望を支える仕事であることを深く理解しました。これからも初心を忘れず、患者様に寄り添

う姿勢を貫きたいと思います。そして、より質の高い医療を提供し続けることが私の目標です。

理学療法士

もう10年も経つのか…と言うのが正直な感想です。

院内保育所は保護者の出勤に合わせて子どもをお預かりするので、時には夜勤や早朝から夜遅くまで普段は家にいる時間を園で過ごす事もあるので、子どもや保護者にとって不安にならないように、家庭的な関わりもしてあげたい。と色々考えながら勤務してきました。

途中、育児休暇をとらせて頂き、復帰してからは仕事で子どもに囲まれ、帰ってからは我が子と24時間子どもと関わりながら家事もこなす日々で、体力勝負だと感じた事も多々ありました。病気や急な用事の際は勤務交代や、シフトの変更して対応してもらえスタッフの協力があったからこそ今まで続けられてこれたと思います。

過去に保育所を利用して下さっていた方に「もう〇〇歳になりました」と近況報告をして頂いたり、久しぶりに顔を見せに来てくれる事もあり、とても懐かしく、とても嬉しく続けていて良かったなと思います。

これからも子どもには『保育所は楽しいな！』保護者の方には『安心して預けれる、預けて良かった』と思ってもらえるように努めていこうと思います。

保育士

三木山陽病院に入職させてもらい10年となりました。

月日がたつのはとても早いもので10年前を振り返ると何もかも初めてで不安だらけの僕に優しく教えてくれた先輩方、他部署の方にはとても感謝しています。

お陰様で今では仕事にとってもやりがいを感じていて駐車場誘導時に患者様から「暑い中ありがとう助かるわ」などと言葉をかけていただいた時にはとても嬉しく思います。

これからも初心を忘れず20年を目指して暑さ寒さにも負けることなく精一杯頑張っていきます。

渉外担当課

私の前職は透析専門のクリニックで4年勤務し、三木山陽病院に移ってきました。私にとってこの10年間は非常に濃厚な時でありながら、今思えばあっという間だったなと感じています。

入職1年目は娘の誕生と重なり、三木山陽病院での日々は子供の成長とともに歩んだ

10年間でした。子どもを保育所に預けながら勤務を行っていたため、子どもが発熱するたびに仕事を休んだり早退したり、仕事に長期で穴を開ける事に対して申し訳なさを感じながら子どもを病院に連れて行った事を昨日のここのように覚えています。

私生活では子どもが2人目3人目と増え、それと共に職場ではいつの間にか後輩が増え、教えられる側から教える側にだんだんと替わり、子どもを見るのと同じように後輩達の成長を感じるようになりました。これからも新規の患者様や後輩との新たな出会いが続くと思います。誰からも常に頼られる存在であり続けられるよう努力を続けていきたいと思っています。

臨床工学技士

入職して10年、振り返ればあっという間の10年でした。

入職して右も左もわからない状況でしたが、上司や先輩、他部署の人にも恵まれてたくさんの方の事を教えていただきました。失敗して落ち込んだことも、辛くしんどい時期もありましたが、人に恵まれてここまで続けることができました。入職した頃とは自分も周りの環境も大きく変わったと感じます。その中でも、頂いたものを返していけるよう、変わらずあり続けたいことを守っていけるよう、周りに感謝しながら成長していきたいと思っています。

まだまだ未熟な私ですが、少しでもこの病院の一員として貢献できるよう努めていきたいと思っています。

臨床検査技師

2014年に在宅介護の会社を退職し、医療事務に興味を持ったことから職業訓練を受けました。その後ご縁があり三木山陽病院で雇っていただき10年間いろいろな事がありました。紙カルテから電子カルテに移行したとき、患者さまをお待たせしてしまい毎日のようにお叱りを受けたり、パソコン操作に慣れるまでも大変だった記憶があります。

コロナ禍には発熱外来やコロナワクチン予約の電話対応に追われ疲弊した日々もありました。(直接患者さま対応をされていた職員の方はもっと大変だったと思います。)

また、産休育休をとらせて頂いたり、時短勤務をさせて頂いたり、皆様にご迷惑をおかけしながらなんとか働き続けることが出来ました。業務の中でも職員の方はやさしい方ばかりで、今もたくさん助けていただいています。本当にありがとうございます。これからも自分にできることを精一杯頑張りたいと思っています。よろしく願いいたします。

医事課 事務員

入職して10年あったという間でした。この10年で紙カルテから電子カルテ・自動受付機・自動精算機の導入とデジタル化への移行があり、PCスキルの低い私は務まるのかな？と不安の連続でした。入職当初1番悩まされたのが電話対応でした。外線が6回線もあり、ありとあらゆる内容の電話が医事課にかかってくるのを迅速に判断して担当部署に取り次ぐ作業です。当初は失敗の連続で皆さんにご迷惑をかけることが多々あり落ち込む毎日でした。また、新型コロナ感染症対策で発熱外来受診の電話、コロナワクチン接種の問い合わせや接種予約の電話が鳴りやまない日々も経験してきました。何年たっても電話対応の難しさに苦戦しております。電話対応はもちろんの事、受付対応が病院の印象・評価に大きく影響を与えるため、これからも丁寧かつ的確、迅速にそして優しい対応ができるよう努めてまいります。多くの方々からご指導いただき、温かい目で見守っていただいたお陰で、10年の節目を迎えることができました。本当に感謝しております。

まだまだ至らないところだらけですが、初心を忘れずこれからも邁進してまいりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

医事課 事務員







Miki-Sanyo Hospital

委員会報告



委員会報告

〈運営委員会〉

今年度より、藤井病院長への病院長交代と吉松医師の副院長就任により新たなメンバー構成となりました。医療と介護の同時報酬改定に伴う新たな加算算定への対応確認や病院・老健外壁改修工事の進捗状況の確認、コロナ・インフルエンザ各ワクチン接種の運用の検討、電子カルテシステムの入替えや機能評価機構の認定更新の準備など、病院運営に関わる重要事項の検討が行われました。今後も円滑な病院運営が行えるよう努めて参ります。

〈病院研修委員会〉

前年度から引き続き、オンライン研修の形をとりました。

PPTの配信を行うことにより、多くのスタッフが自分の時間を利用して視聴できるようになったことは一つの利点です。

次年度もさらに内容に工夫を加え、充実した研修を企画していきます。

2024年度病院研修会

月 日	内 容	担 当 者	参加者数
4月23日	個人情報保護について 呼吸ケアチームの役割	個人情報保護 担当者 呼吸ケアチーム	398名
5月28日	R6年度 診療報酬改定について	伊藤課長	394名
6月25日	院内感染防止について 二次性骨折予防についての取り組み	感染対策委員会 (ICT) FLSチーム	395名
7月23日	コミュニケーションエラー 医療放射線についての理解	安全管理委員会 (SMT) 放射線科	395名
8月27日	認知症患者との関わりについて 地域との連携について	看護師 総合支援相談室	393名
9月24日	栄養管理について リハビリテーションについて	NSTチーム リハビリテーション科	390名
10月22日	輸血療法について	輸血療法委員会	393名
11月26日	院内感染防止 BLS・ACLS研修	感染対策委員会 (ICT) 教育委員会	394名
12月24日	身体抑制について フットケアについて 医療倫理	安全管理委員会 (SMT) 身体抑制適正化委員会 DM教育委員会 倫理委員会	386名

月 日	内 容	担 当 者	参加者数
1 月28日	褥瘡防止について eラーニング より（後日決定）	褥瘡防止委員会 病院研修会委員会	306名
2 月25日	排尿ケアについて 医療ガスについて	排尿ケアチーム 医療ガス担当	276名
3 月25日	災害に備えて eラーニングより（後日決定）	藤本師長 病院研修会委員会	154名 ※締め切り前

〈医療ガス安全管理委員会〉

医療ガス安全管理委員会では、医療ガスに係わる事故を防止し患者様に安全な医療を提供できるよう設備の点検や医療ガスを取り扱う職員への周知を行っております。

〈今年度の主な活動内容〉

- ・ 医療ガス設備保守点検
- ・ 医療ガス設備日常点検
- ・ 医療ガス安全管理委員会（3月・10月）
- ・ 院内研修会（アウトレット・吸引について）

〈今年度総括〉

今年度も、職員へ向けて医療ガスの取り扱いについての周知と医療ガス設備の定期、日常点検を厳格に実施し無事、1年を終えることができました。

医療ガスには多くの職種が係わり、複雑な過程を経て患者様に供給されます。これらの過程で一つでも障害があれば安全な治療ができなくなり、重大事故に直結することとなります。そのことを強く意識し、これからも医療ガスの安全を守る要として、患者様に安心して安全な治療の提供ができるよう、責務を果たして参りたいと思います。

〈感染対策委員会〉

今年度は新型コロナウイルス感染症に加え、近年まれにみるインフルエンザが大流行した年でした。

入院患者さまでも感染があり、感染して重症化した患者さまの入院もあり、感染対応では気を抜けない状況でした。目に見えないウイルスとの闘いは精神的にも肉体的に辛いものでしたが終息に向かうことができ胸を撫で下ろしました。職員が感染症を院内に持ち込まないためには、感染兆候があれば受診・検査を受けること、症状によっては無

理に出勤せず休むこと、院内ルールでも細かく決められており、これらが身についていると感じます。また、今年度は全部署で感染対策委員が中心となって手洗いチェッカーを使って正しい手洗いを意識する機会を設けました。効果的であったとの感想が多く、続けて実践していきたいと思います。平時から感染症発生時まで、手指衛生の励行、正しい個人防護具の着脱、環境・物品の消毒、感染者の隔離などの感染防止対策について、いざという時に職員一人ひとりが正しく実践できるようマニュアル改訂や対策の周知など引き続き各部署の感染対策委員と共に取り組んでいきます。

- 院内研修会の実施

- 6月「薬剤耐性菌と院内感染防止対策」

- 11月「流行性疾患の理解と対応」～冬の感染症、その他～

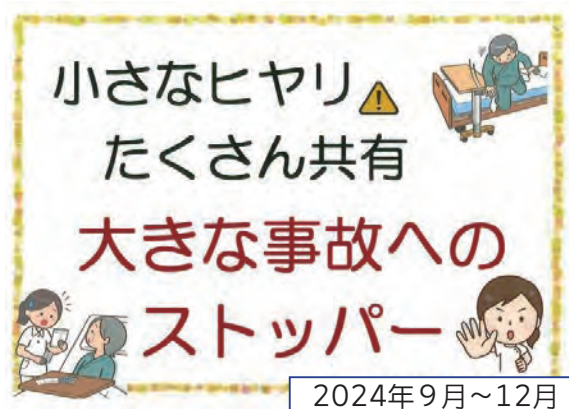
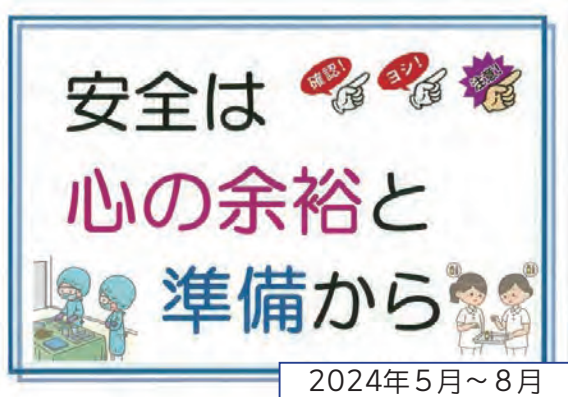
〈安全管理委員会〉

医療現場で働く私たちは日々リスク回避を行いながら業務に取り組んでいます。委員会では患者さまのみならず、勤務する職員に対しても安全で安心して働くことができるために重要な使命があると考えています。

委員会では院内外で起きた事故やヒヤリハットの共有を行い、職員一人ひとりが危機管理への意識が高まり未然に重大事故への回避に繋がるように Safety Management Team (SMT) と連携し活動してきました。医療の現場では危険を予測し対応しなければならない場面が多くあります。日頃から危険予知トレーニング (KYT) や注意喚起のポスターを作成し、医療安全についての感性を培っていただくように日々努力しています。

今期もインシデントレポートの中で多かったのは転倒転落でした。転倒転落を「0」にするのは難しいため、転倒転落したとしてもリスクの低減ができるように検討し緩衝マットの導入をしました。今後も事例の評価を行いリスクの低減に努めていきます。

これからも委員会とSMTは連携を取りながら患者さまに安心して医療・看護の提供をし、職員も安心して業務ができますように、一人ひとりが医療安全に対し興味を持ち士気が向上するよう一層活動してまいります。



〈労働安全衛生委員会〉

令和6年度は特にメンタルヘルスケアへの取り組みとして、低下しているストレスチェックの受診率の改善に取り組みました。各部署委員会メンバーの協力により、少しではありますが受診率を改善することが出来ました。来年度も全ての職員が心身ともに健康に日々の業務に就けるよう、情報提供を行います。

〈褥瘡防止委員会〉

- | | | | |
|---------|-------------|-------------|-------------------|
| ● 褥瘡回診 | 1回／月（他職種合同） | ● 褥瘡対策計画書 | 入院後日常生活自立度B以上の方全員 |
| ● 委員会 | 1回／2か月（奇数月） | ● 危険因子リスク評価 | 1回／2週 |
| 事例検討 | | ● 看護計画立案・評価 | 1回／週 |
| 報告会・勉強会 | | ● DESIGN 評価 | 1回／週 |
| | | ● 褥瘡写真 | 1回／週 |

当院の新規褥瘡発生率は減少傾向にありますが、なかなか新規ゼロにはなりません。入院時にすでに発生している褥瘡もあります。委員会では回診・情報共有を行い、安心して休める褥瘡が予防できる体位の調整も行っています。「新たな褥瘡を発生させない」「褥瘡の早期治癒に向けて取り組む」ことを継続して行っています。

〈サービス向上委員会〉

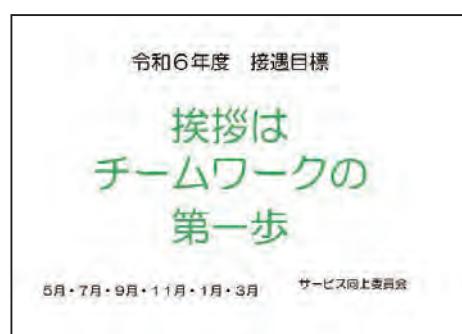
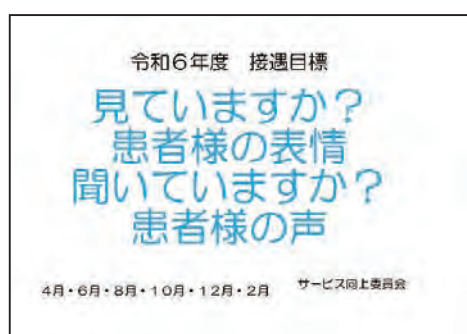
令和6年度 接遇目標

- ① 見ていますか？ 患者さまの表情
聞いていますか？ 患者さまの声
- ② 挨拶は チームワークの第一歩



以上の目標を設定し、全職員が患者さまやスタッフ同士のコミュニケーションの向上に取り組みました。

私たち、サービス向上委員会は、患者満足度調査、ハッピーカード、院内研修、クリスマスコンサートなど 多くの行事を分担し一生懸命活動しています。



〈倫理委員会〉

2ヶ月に1回、倫理委員会を開催しております。

ACP（アドバンス・ケア・プランニング）について

前年度に引き続き、ACPの取り組みを継続し当院独自のACPの確立をしていくために、パンフレットの案内、ポスター作成、院内掲示を行うことが出来ました。症例について現在は、1件の話し合いができております。

医療倫理の取り組みについて

今年度も院内研修を行い、全職員が医療倫理を理解し倫理的課題を解決できるように働きかけています。また委員会では、実際に起こった倫理的課題に対して問題解決へのきっかけができるようにカンファレンスを行っています。

患者さまにとって、最善の利益となる医療・ケアを導き出せるように倫理委員会は今後も意欲的に活動していこうと思っています。

〈広報委員会〉

広報委員会では、広報誌「さんよう広場」を定期的に発行いたしました。
ホームページにバックナンバーを掲載しておりますのでご覧下さい。

4月号（第56号）

- 藤井病院長および吉松副院長より就任のご挨拶
- 新しい医師のご紹介
- 糖尿病教室よりお知らせ
- 発熱外来受診のご案内
- 外壁改修工事について
- 院内の花の紹介

9月号（第57号）

- 水口副院長より『日々の自己トレーニングの大切さについて』
- 鷺田医師より『胆石症について』
- 新しい医師のご紹介
- 糖尿病教室よりお知らせ
- 管理栄養士のこぼれ話『災害時の備蓄食』
- インフルエンザワクチン接種のお知らせ
- 外壁改修工事について
- 季節の飾りつけ
- 入院患者さまの散髪について

1月号（第58号）

- 森田理事長よりご挨拶
 - 看護部長および看護部師長よりご挨拶
 - 一居医師より『マイコプラズマ肺炎について』
 - 糖尿病教室よりお知らせ
 - 管理栄養士のこぼれ話『感染症予防に十分な手洗いを』
 - 行事などの紹介
- （消防訓練・クリスマスコンサート・永年勤続表彰式・トライやるウィーク）

今年度は藤井病院長と吉松副院長の就任や、病院の外壁工事をして外観を整えるなど
といった新たな当院の様子に加え、糖尿病教室やシーズンに合わせたトピックなど従来

から続けている取り組みを紹介することで、変わりゆくものと変わらないもの各々をお伝えできたのではないかと思います。

来年度も当院のことを多くの方にお伝えできる広報誌を作るよう、委員会活動に取り組んでいきます。

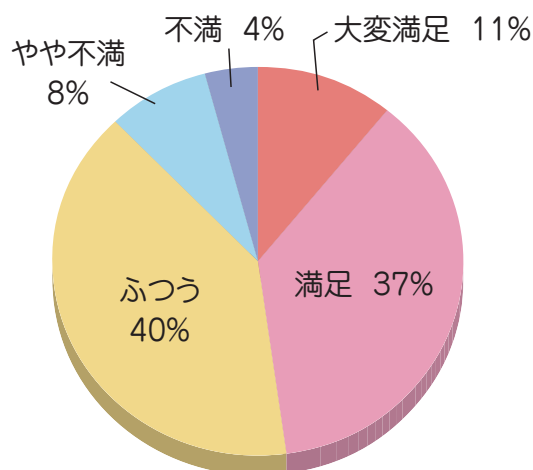
〈給食委員会〉

給食委員会は1年に3回、病院食の質の向上と安心・安全な食事提供をめざして話し合いを行っています。また、月1回委託業者とメニューの見直しを中心にミーティングを行っています。

今年度は既存のメニューの味付けの見直しを行いました。また、昨年度より課題であった肉の硬さについては、一部は食材を変更しました。肉の硬さや魚の匂いについては継続した課題として改善にむけて取り組んでいきます。

本年度も11月に嗜好調査を実施しました。昨年度と同様、約半数の方からは「大変満足」・「満足」、4割の方からは「ふつう」との回答を頂きました。改善して欲しい料理やまた食べたい料理などのご意見もたくさん頂きました。「ふつう」「不満」と回答された方々に少しでも満足して頂けるよう、嗜好調査の結果や日々伺うご意見やご要望を取り入れ、新メニューの提案や味付け・見た目等の改善を引き続き行っています。

＜嗜好調査結果～満足度について＞



〈図書委員会〉

今年度は委員会のメンバーが変更となりました。

例年通り図書室の整理・整頓、定期購読図書の選定・管理を行い、今年度は33種類の年間購読図書を購入しました。初めての試みとして年間購読図書を購入している部署に対してアンケートを行いました。部署でどのくらいの利用があるのか、購読頻度なども分かり、今後の書籍利用の促進に役立てたいと思います。また、来年度に向けて10月には定期購読書籍の希望調査も行いました。

前年度に引き続き、サービス向上委員会と協力の元、患者さま向けとして雑誌を外来待合に、書籍等を各病棟デイルームに設置しており、外来待合用の雑誌は種類を増やしております。

図書室を充実させるために試行錯誤しながら、委員会活動を行っていきたいと思います。

〈薬事委員会〉

薬事委員会は医師、看護師、薬剤師で構成されており、当院で使用する医薬品の採用や採用中止薬の検討、医薬品の適正使用に関する情報の提供などを行っています。

この数年、医薬品の安定供給が難しくなり、販売を終了する薬剤が増えてきています。委員会では、代替薬の採用、切り替え時期の案内などを行い、診療に支障が出ないように取り組んでいます。

薬事委員会で検討された内容は、院内の医療スタッフに広く知ってもらうために、サイボウズでの案内だけでなく電子カルテトップページ「薬剤科からのお知らせ」からも閲覧できるようにしています。ご活用ください。

〈ベッド調整委員会〉

ベッド調整委員会は、前年度から変わらず2回／月の開催です。

★ 委員会メンバー

理事長 院長 看護部長 病棟・外来師長 ホームケア部 総合支援相談室
医事課長 居宅介護支援事業所 訪問看護ステーション サンスマイル三木
サンフォレスト三木

今年度は診療報酬の改定に伴い、ベッドの運用にも様々な影響がありました。

看護必要度の変更、地域包括ケア病棟への直接入院の積極的な受け入れ、医療療養型病棟の医療区分の細分化など、委員会の中で何度もディスカッションが繰り返されました。

様々な条件がありますが、あくまでも患者さま中心であることを忘れず、今後も有効なベッド運用をめざしていきます。

〈苦情解決委員会〉

苦情解決委員会では、外来、各病棟、透析センターに設置している「意見箱」や直接スタッフに寄せられるご意見の内容を元に毎月検討を行っております。

ご意見の回答はインフォメーションボードに掲示しておりますので、ぜひご覧下さい。

今年度は意見箱投書 35件、苦情報告書 14件 計49件でした。

意見箱投書の内訳は 苦情 15件、要望 13件、謝辞等 7件です。(重複あり)

苦情の内容については、外来対応、案内対応、入院時の対応等においてスタッフの配慮不足を痛感する内容もいただきました。病院理念を各部署徹底し、優しく心のこもった医療が提供できるように徹底して参ります。

また、今年度は新紙幣が導入したにもかかわらず、自動精算機の対応が遅くなり大変ご迷惑をおかけいたしました。

今後も当院へのご意見や気になる事などございましたら、どうぞ遠慮なくスタッフにお声をおかけください。貴重なご意見を、より一層患者さまが安心され、快適に受診、入院をしていただけますよう、努力して参ります。

〈輸血療法委員会〉

2024年4月より輸血用血液製剤のWeb発注への全面移行に伴い、輸血関連業務手順の一部を変更し周知するよう努めました。

輸血用血液製剤ごとの副作用発生率とその内訳について「輸血製剤副反応動向-2021-」より引用し、各血液製剤の起こりやすい副作用やその発生率を情報共有しました。

診療報酬改定に伴い、輸血前後の感染症の一部に関して点数が減算されていることや、血漿成分製剤（＝新鮮凍結血漿）の輸注に伴う注射料が、外来使用時のみ増算されていることを報告しました。

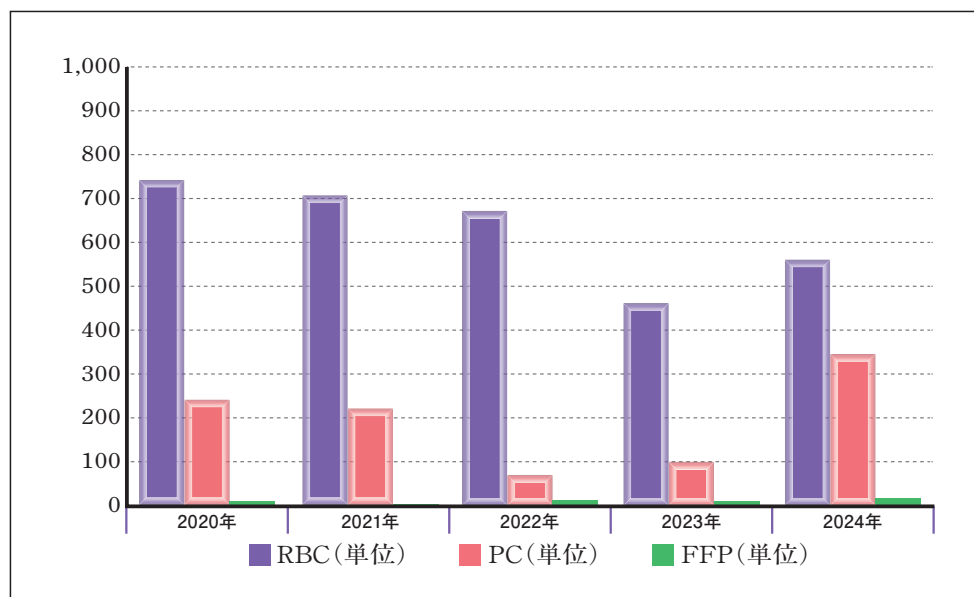
院内研修「輸血療法について」を作成するにあたり内容を協議し、意見交換や修正を行うことで、輸血とは関わりのない部門の職員でも内容理解が出来るよう作成しました。

日本赤十字社「新型コロナウイルスの輸血感染リスクについて～献血後情報に基づく調査から得られた知見」より、結論として症例数は限られるが新型コロナウイルスRNA陽性者の輸血用血液製剤が輸血された患者において輸血感染は認められず、輸血感染のリスクが極めて低いと考えられるという報告内容を情報提供し共有しました。

血液製剤の平均廃棄率は今年度は0.5%であり、前年度の0.9%よりも低い数値を維持しております。これもひとえに臨床との連携や協力が得られたことによるものだと思います。今後も適正で安全な輸血を行えるよう邁進して参ります。

年度別血液製剤使用量

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
RBC（単位）	740	705	671	461	560
PC（単位）	240	220	70	100	345
FFP（単位）	8	2	13	10	18
廃棄RBC（単位）	6	4	6	4	2
廃棄率RBC（%）	0.8	0.6	0.9	0.9	0.5
廃棄FFP（単位）	0	0	0	0	0
廃棄率FFP（%）	0	0	0	0	0



〈臨床検査適正化委員会〉

当院における臨床検査を適正かつ円滑に遂行することを目的として、年間6回開催しています。

今年度は精度管理に関する事項としては、サーバイデータの評価と検討。

装置の導入・更新では、CoV-2遺伝子検査としてNEAR法の装置ID-NOWの導入検討。CGM（持続血糖測定）ではリブレに加えて、Dexcom社のG7を導入。血液ガス分析装置2台の更新などの検討を行いました。

その他外部委託業者の検討や院内実施項目の検討を行いました。

今後も当院における検査の管理、適正化のための取り組みを行います。

〈救急検討委員会〉

今年度は、毎月当院へ救急搬送される症例の件数とその内訳を検討するとともに、その中で教育的な症例について1～2ヶ月に1度程度、症例発表ならびに検討を医局内にて行いました。

〈医療機器管理委員会〉

手術で欠かすことが出来ない全身麻酔器。入院患者さまの状態を計測表示するベッドサイドモニタ・送信機、そのデータを詰所内で表示させるセントラルモニタ。病棟看護師が血圧測定を行うための医療用血圧計。今年度もより良い医療を提供できるように新しい機器や装置を導入することができました。

また、臨床工学技士による「AED研修」を三木山陽病院（リハビリテーション科）・サンスマイル三木で行い、急変時の対応について学びました。

医療機器管理委員会では今後も全ての職員が安全・正確に機器の操作ができるよう様々な取り組みを行っていきたいと考えています。

〈手術室運営委員会〉

麻酔の多様化に対応できるよう麻酔同意書の見直しを行いました。患者さま自身が自分の受ける医療をより理解していただけるよう見直しを進めています。また、手術同意書の部位記載の統一に向けても話し合いを行い、術部位誤認防止に努めています。医療

の動向を見ながら現在実施しているものと照らし合わせて、患者さまに安心安全に手術を受けていただけるよう取り組んでいます。

〈糖尿病教育委員会〉

ここ10年程で糖尿病治療薬は大きく変化し、薬剤の情報や合併症の進行を抑えるために血糖管理が大切であること等を、リーフレットや糖尿病教室を通じて伝えて来ました。その結果、視力低下や、足病変が進行してからの受診がきっかけとなって初めて糖尿病と診断される患者さまや、血糖管理が上手くいかずに低血糖発作で救急搬送される患者さまが以前より少なくなっています。

日常業務の中での問題点や改善すべき事柄があれば委員会に持ち寄り、委員会で改善策を考えています。各委員は部署に戻った後、部署のスタッフ全員に周知しています。

今年度は、当院で使用している自己血糖測定器・間歇スキャン式血糖測定器の資料と、GLP-1受容体作動薬・GIP/GLP-1受容体作動薬の資料の作成を行いました。

患者さまに最新の情報を得て頂くために、病院スタッフの知識の向上を図るように努めています。

外来患者さま用に作成している「知って得する糖尿病講座」のリーフレットは、2025年1月で第212号の発行になりました。

興味のある方は、病院のHPから閲覧できますので、ご利用ください。

〈災害対策委員会〉

令和6年度は初めての試みとして、備蓄食品の試食会を実施し院内に備蓄しているアルファ米やレトルト食材を100名以上の職員に実際に食べてもらいました。また、大規模地震を想定した消火・避難の訓練を実施し院内の避難経路の安全確認を行いました。今年度はコロナ禍で参加出来ていなかった三木市防災フェスティバルにも参加し、被災者への対応や炊き出しの実演に参加するなど、体験形式の訓練を多数実施・参加しました。来年度も大規模災害の発生に備えた様々な研修や訓練を継続して行って参ります。

〈システム管理委員会〉

システム管理委員会は、院内の各部門システムの導入及び進捗を管理し、安全な運用ルールを検討・決定しています。また、各部署からの要望、情報システムに関する課題や問題点について検討することが主な活動です。

今年度は電子カルテのリプレースを3月17日に実施し、トラブルなく各部署協力しながら運用しています。より良い医療が提供できるよう、できる限りシステムを盤石な状況にし、安心して使用できるよう推進していきたいと考えています。

来年度は電子処方箋の運用も控えており円滑に導入できるよう準備していきたいです。

〈NST委員会〉

NSTとはNutrition Support Team（栄養サポートチーム）の略で、患者さまに最適な栄養管理を提供するために、医師・看護師・薬剤師・管理栄養士・臨床検査技師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士で構成されたチームです。毎週、委員会又は回診を行い入院患者さまの栄養状態を評価し、適切な栄養療法を提言・選択・実施します。

今回の活動としては、令和6年度から個別評価型病者用食品を取り入れ、褥瘡患者さまに摂取してもらうことで改善促進に繋がるようになりました。また更にMNA-SFシート（簡易栄養状態評価表）を用いて高齢患者さまの栄養状態を評価することになりました。また血液データと併用することで低栄養の患者さまを早期に把握する事ができます。このMNA-SFシートは食事量・体重の増減・日常動作・ストレスの有無・精神、認知症の有無・BMIの6項目で構成されており、簡単な問診と身体測定によって評価できるものです。高齢の患者さまは増加傾向にあり、それに伴い入院時低栄養の状態で来られる患者さまも増加しています。低栄養になると褥瘡などのリスクが高まります。早期にNSTチームで低栄養の患者さまを把握し、適切な栄養療法が提供できるよう努めていきます。

〈臨床研修管理委員会〉

北播磨総合医療センターの臨床研修プログラムの一環として、地域医療領域の研修を当院は担当しています。2年次臨床研修医を2名受け入れ、それぞれ2週間の研修期間に療養病棟の入院患者さんを担当し、また外来研修を経験してもらいます。

北播磨総合医療センターを含めて急性期のみを担当する病院で研修するにあたって、急性期の診療を終えた患者さんのその後を観る非常に良い機会になると思います。疾患の治癒とは別に、それを契機に残された問題点はたくさんあります。担当したそれぞれの患者さんについて医学的分析のみならず社会的な観点から日本の医療、介護保険制度における問題点を分析、考察してもらうようにしています。

〈緩和ケア委員会〉

緩和ケア委員会は主になんと診断された患者さま、ご家族さまを対象に、医師、リクナースをはじめ、コメディカル（医師を除く医療従事者）で構成されたチームです。委員会では症例検討や患者さまの抱える不安や苦痛症状の軽減策や要望に応える為の対応策、各担当スタッフの抱える悩み等の解決の為に活動を行なってきました。

対象患者さまは症状や病状が刻々と進行していく経過をたどることが多く、それだけに「患者さまは今何を一番望んでいるのか」「どこでどのような最期を迎えたいと思っているのか」「ご家族さまは何をしてあげたいと思っているのか」など、想いに寄り添い、想いに迅速に対応出来るよう関りを大切にしてきました。

「少しでも自宅で過ごしたい」「友人や家族と最期まで過ごしたい」「身体の痛みを楽にしてほしい」「少しでも口から食べたい」等様々な想いに対し、新しい緩和食の導入やターミナルケアが可能な施設の選定、在宅での看取りに向けたケアサービスの連携等、チームで試行錯誤をしながらも患者さまやご家族さまに寄り添ったケアが行えたと考えています。

今後も、患者さまご家族さまが「その人らしく生きる」ためのお力添えが出来るよう活動をしていきたいと考えています。

〈ICT（感染制御チーム）〉

今年度もICTとして、院内研修、ICTニュース、ラウンドなどで必要な感染対策を伝えてきました。新型コロナウイルス感染症は年中通して発生しており、冬にはインフルエンザが大流行しました。

マスクの着用と手洗い・手指消毒はいつでも手放せない感染対策となっています。今年度は全部署の職員に手洗いチェッカーを使って正しい手洗いを意識してもらう取り組みを行いました。

また、市立加西病院や北播磨圏域の病院との合同カンファレンスでは新興感染症発生への備えについての研修訓練があり、インバウンドや万国博覧会による外国人観光客の増加など、日本で既知の感染症とは別の感染症が流行する可能性もあるので注意が必要である事が共有できました。

次年度も引き続き手洗い・手指消毒の大切さに加え、正しい個人防護具の着脱、環境・物品の消毒、感染者の隔離などの感染防止対策の周知と周知するための工夫についてICTメンバーと感染対策委員と共に取り組んでいきたいと思っています。

- 院内研修会の実施

- 6月「薬剤耐性菌と院内感染防止対策」

- 11月「流行性疾患の理解と対応」～冬の感染症、その他～

- 感染対策合同カンファレンス（加西市立加西病院と連携）

- 第1回（7月）「耐性菌検出状況、抗菌薬使用状況」

- （加東健康福祉事務所、加西市医師会参加）

- 第2回（10月）「市立加西病院の感染対策ラウンド」

- 第3回（11月）「北播磨圏域 新興感染症等に備える感染対策研修・訓練実施」

- （市立西脇病院主催）

- 第4回（3月）「市立加西病院による現場視察～発熱外来・対応の実際」

- ICTニュースの発行

- 第22号『A群β溶血性連鎖球菌感染症について』

- 第23号『抗菌薬の適正使用を知っていますか？』

〈身体抑制適正化委員会〉

当院は手術をはじめ、人工呼吸器や緊急透析などの高度な治療を必要とする急性期医療から介護・療養・在宅支援など、多岐に渡る医療や介護を必要とされている患者さまが入院されています。

身体抑制は「安全の確保と人権や尊厳」のどちらにも関わるとても難しい問題です。身体抑制を行なう事でのリスク、苦痛や弊害についての勉強会を実施し、やむを得ず行なった身体抑制に関しては身体抑制を解除するためにはどうしたらよいのか、身体抑制を行わないことで起こりうるリスクについて等他職種間でカンファレンスを行い、日々安全な療養環境の提供ができるよう努めています。

今年度は、転倒・転落時の衝撃を緩和し転倒による骨折予防のために「ころやわ」という緩衝マットを導入しました。「いつまでも、ご自分の足で、自由に歩いて頂く事」を当院では大切にしております。

今後も患者さまやご家族さまに安心・安全にお過ごしいただける環境作りを行なっていきたいと考えています。

〈業務改善委員会〉

各部署から業務改善に関する意見を徴収したところ、約120の意見がありました。これに対して、委員会で一つ一つの項目に対して吟味しました。

主要な改善できたことは、外来周辺の案内表示の見直しおよび外来周辺地図の作成をし、患者さまが円滑に受診できるようにしました。また、入院セットを導入したことにより、リネン類の管理等を業者委託し、病棟スタッフの大幅な業務改善を実施することができました。最後に当院の理念に基づき、業務改善委員会のテーマを掲げ、改めて職員全員原点に立ち返って、業務を行っていかうと提言しました。

来年度も患者さまにおける院内の環境改善および職員の業務改善における問題点について、少しでも解決していければと思っております。





Miki-Sanyo Hospital

その他の活動



その他の報告

〈糖尿病教室〉

糖尿病教室は毎月第3木曜日の午後1時～2時半に開催しており、糖尿病に関心のある方ならどなたでも参加頂けます。内科医師を始め、眼科医師、歯科医師、理学療法士、看護師、薬剤師、管理栄養士が毎月、糖尿病に関するテーマで専門性を活かしたお話をしています。

毎月30名前後、12月は52名の方に参加して頂きました。毎回手軽に行える運動を取り入れ、また講義に対する質疑応答もあり、活気溢れる教室が開催できているのではないかと感じています。

昨年度同様に感染対策を行いながら開催をしていますが、今年度は12月の糖尿病教室において手作りデザートを提供し、参加者の皆さまに食べて頂くことが出来ました。コロナ感染拡大以降自粛していた手作りした食事の提供をささやかにでも再開できたことを嬉しく思っています。

来年度も参加者の皆さまに有意義な時間を過ごして頂けるよう、取り組んでいきたいと思ひます。



令和6年度 糖尿病教室 開催内容

開催日	テーマ	担当講師	参加者
4月18日	糖尿病と骨粗鬆症について	内科医：金子 景弘	32名
5月16日	いつまでも健口生活！	歯科医：船原 晃	31名
6月16日	糖尿病から足を守る。フットケアの実際	外来看護師：北山 幹子	28名
7月18日	運動療法のチエとワザ②	リハビリ科：高木 秀典	30名
8月15日	目で楽しむバイキング～夏編～	栄養科全員	25名
9月19日	糖尿病と認知症について	内科医：高屋 豊	28名
10月17日	糖尿病性網膜症について	眼科医：藤井 誠一郎	30名
11月21日	冬こそ大切！糖尿病に合併した高血圧のケア	病院長：藤井 郁三	36名
12月19日	年末年始の過ごし方	理事長：森田 須美春	52名
1月16日	糖尿病と感染症について	内科医：金子 景弘	27名
2月20日	薬の飲み忘れを防ぐコツ！	薬剤科：平野 泰子	28名
3月27日	糖尿病性腎症・透析予防について	外来看護師：藤本 浩子	28名

〈永年勤続表彰〉

今年度も永年勤続表彰が行われました。職員の貢献に感謝を示すために始まった制度も今年で9年目を迎えました。

今年度の表彰では、20年勤続の職員が12名、10年勤続の職員が20名となりました。

理事長より記念品を一人一人に渡していただきました。

職員は入職した頃を思いだし、またこれからも初心を忘れず頑張っていきたいと思ったことでしょう。



〈オリエンテーション〉

毎年、4月と10月に新入職員を対象に「三木山陽病院の職員として一日も早く職場に適応し、各自の役割を実践できるよう病院の方針と内容について正しく理解する」ことを目的としオリエンテーションをおこなっています。

内容は病院が目指す医療について、接遇、個人情報、医療安全、感染防止、就業規則と多岐にわたっています。

今年度、4月は25名、10月は24名参加しました。



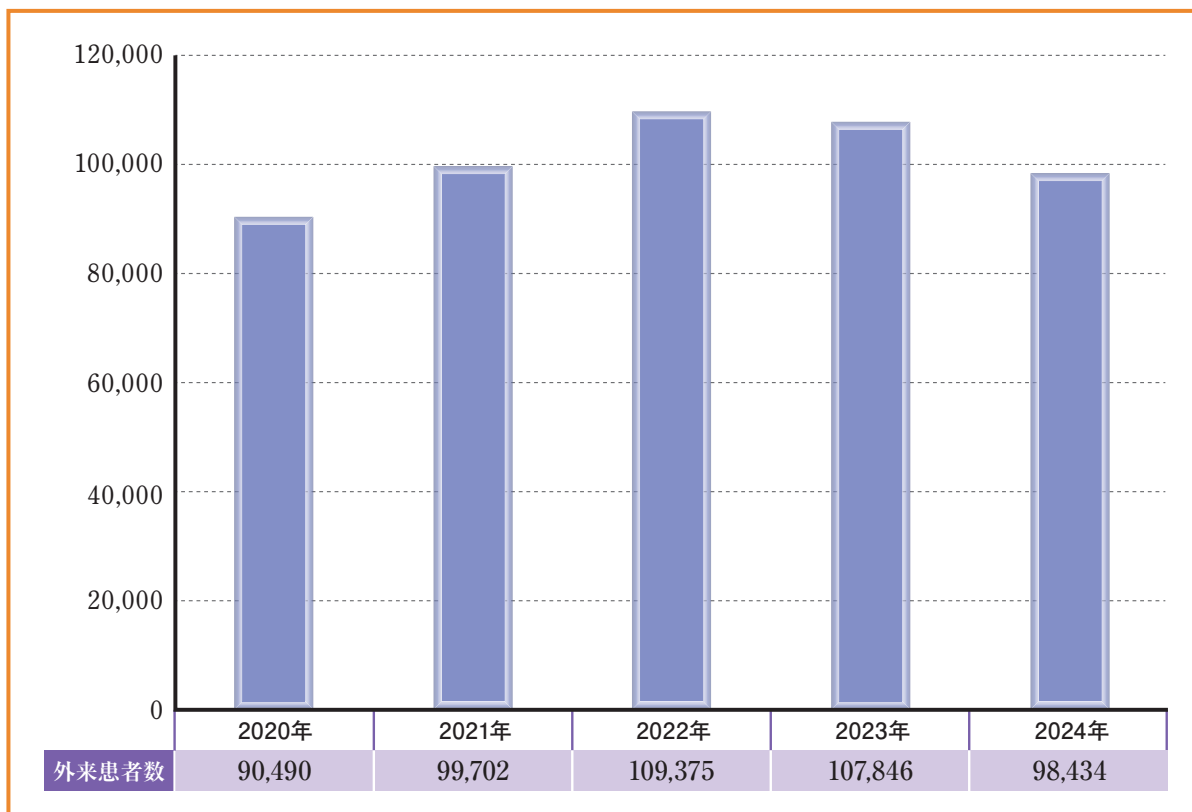


Miki-Sanyo Hospital

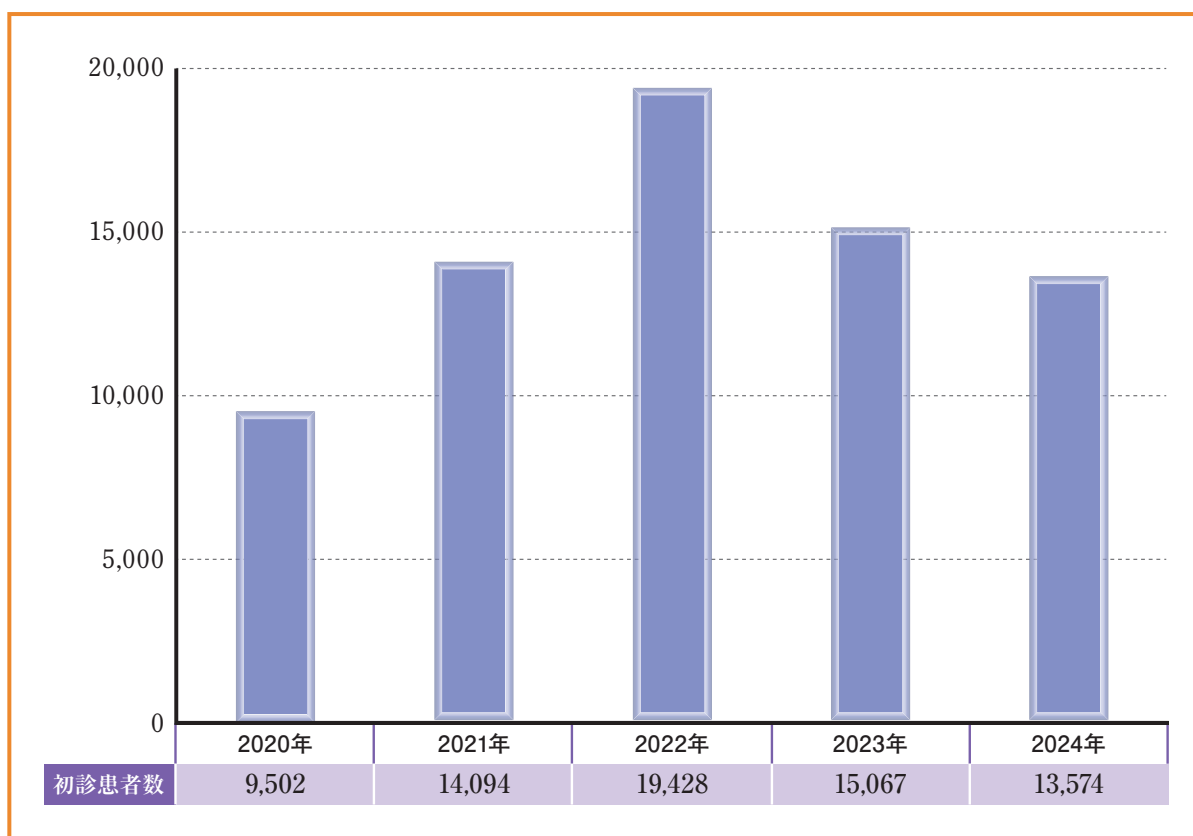
病院年度報告



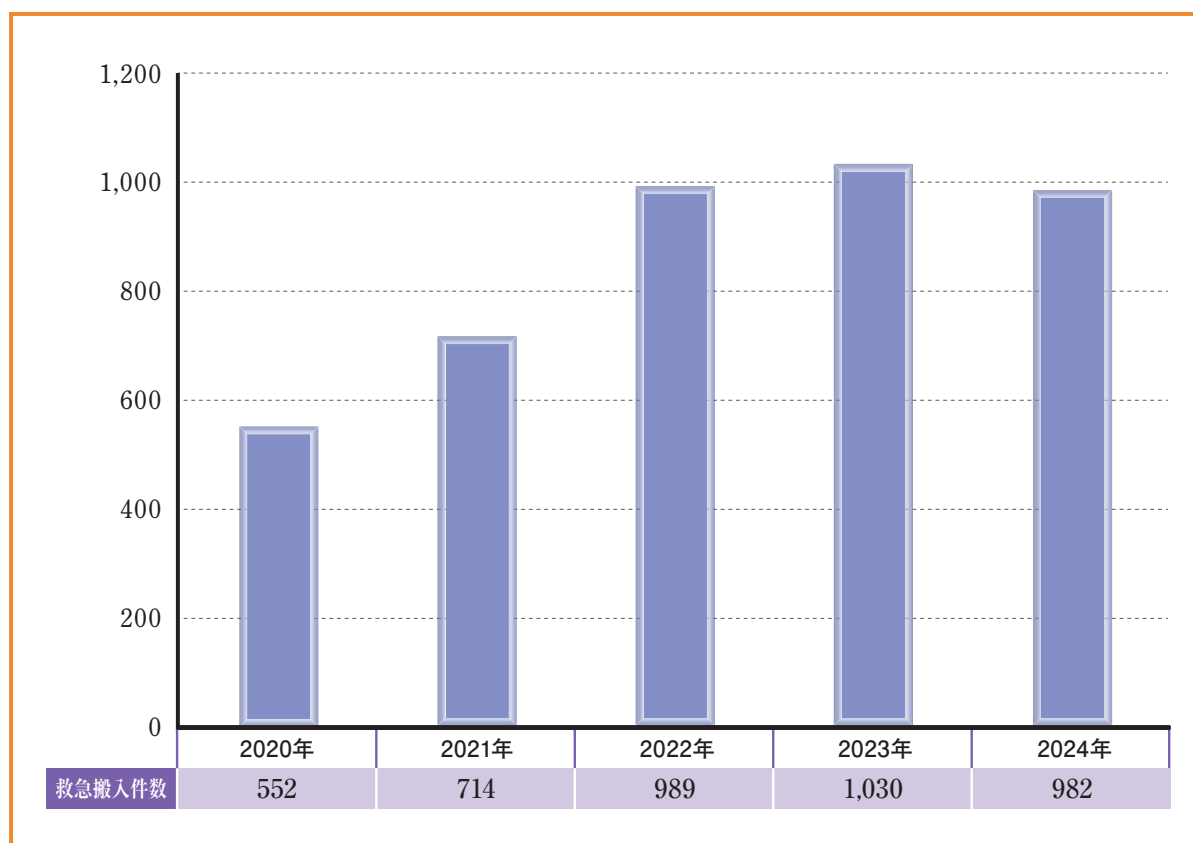
年度別外来患者数



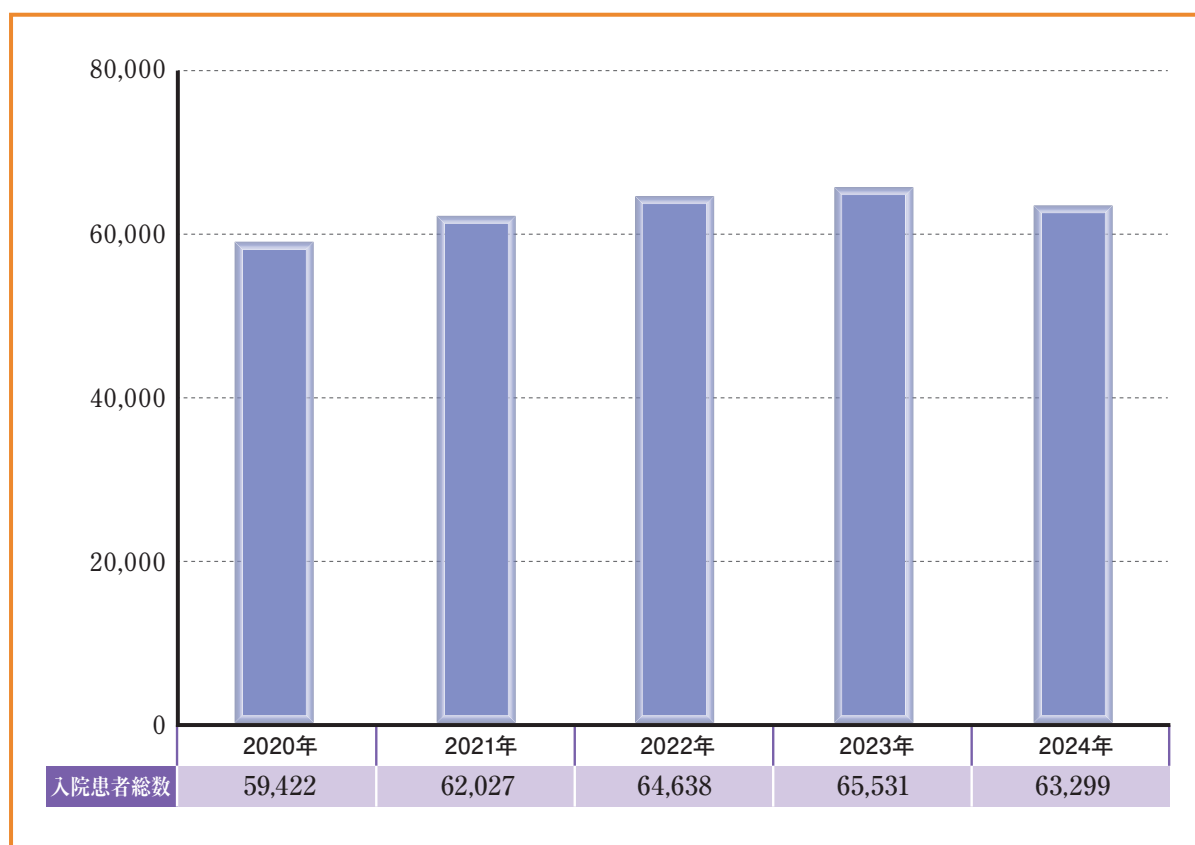
年度別外来初診患者数



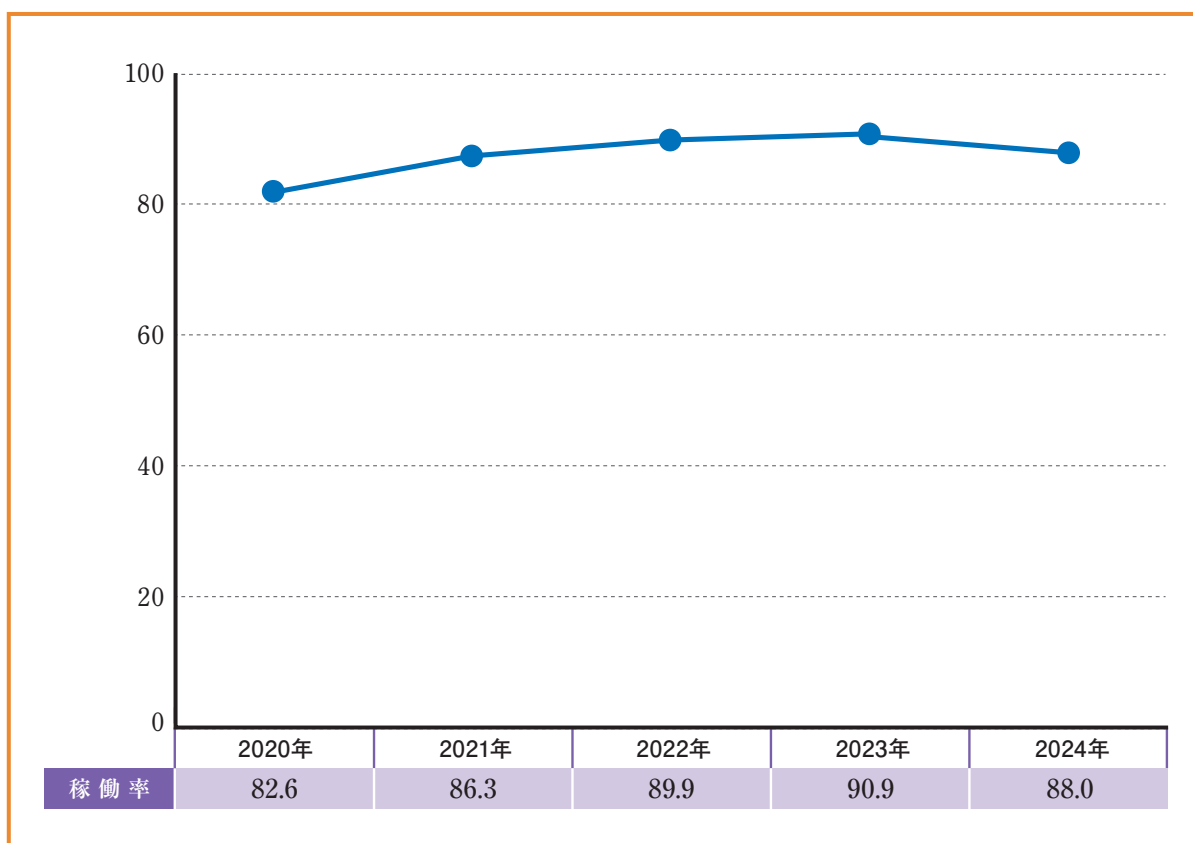
年度別救急搬入件数



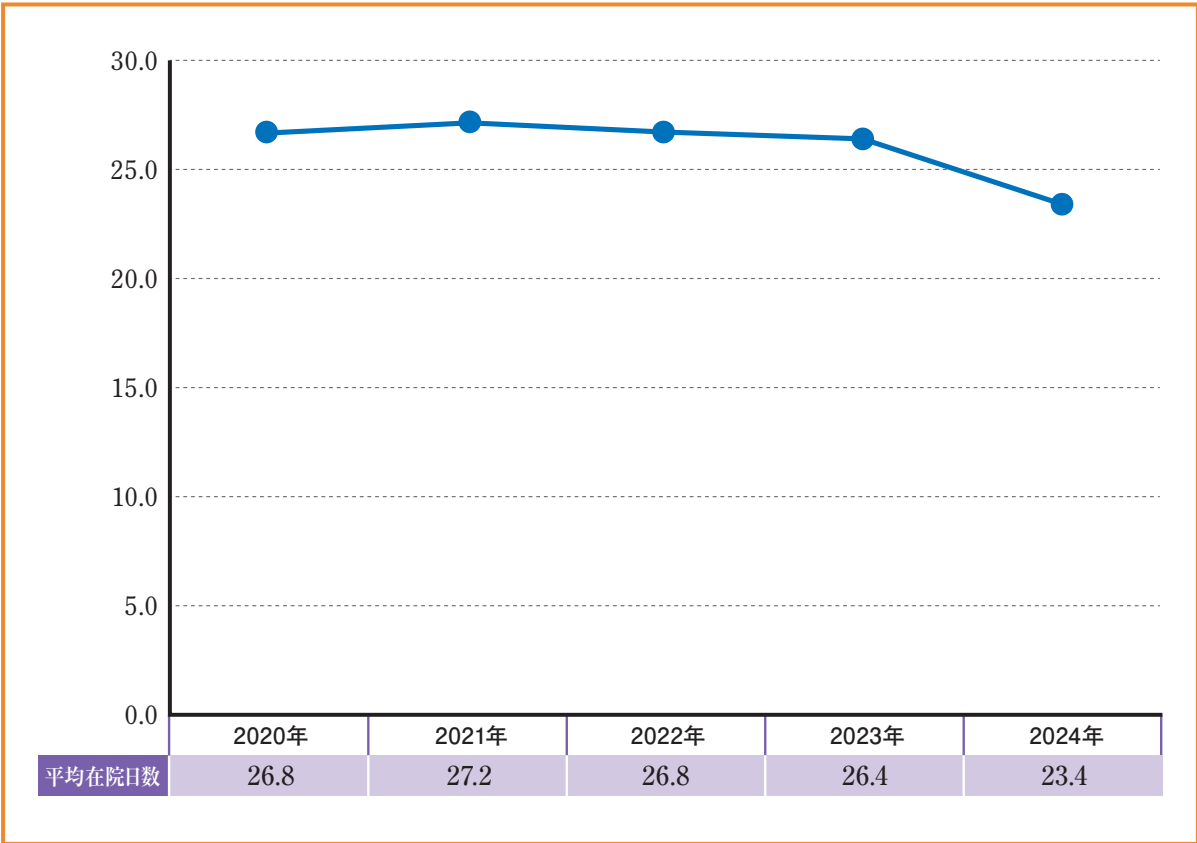
入院患者総数



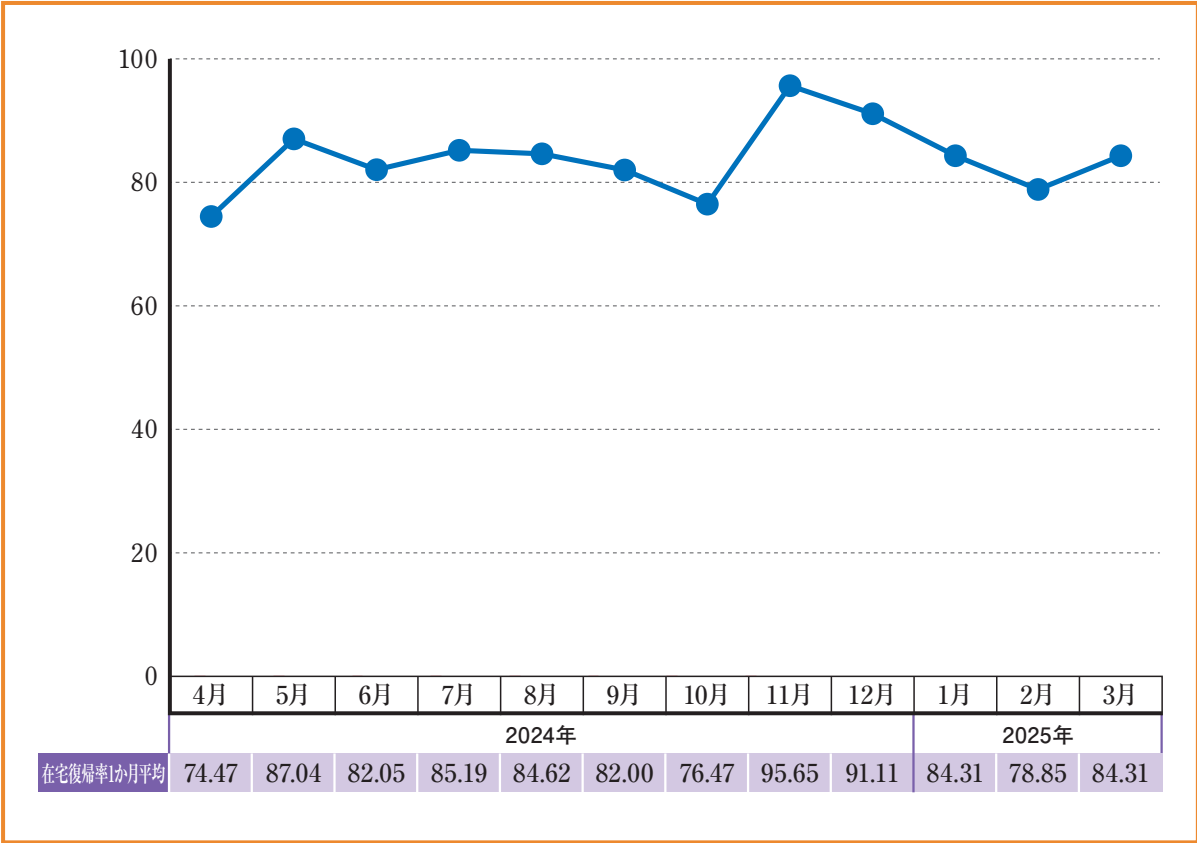
年度別病床稼働率



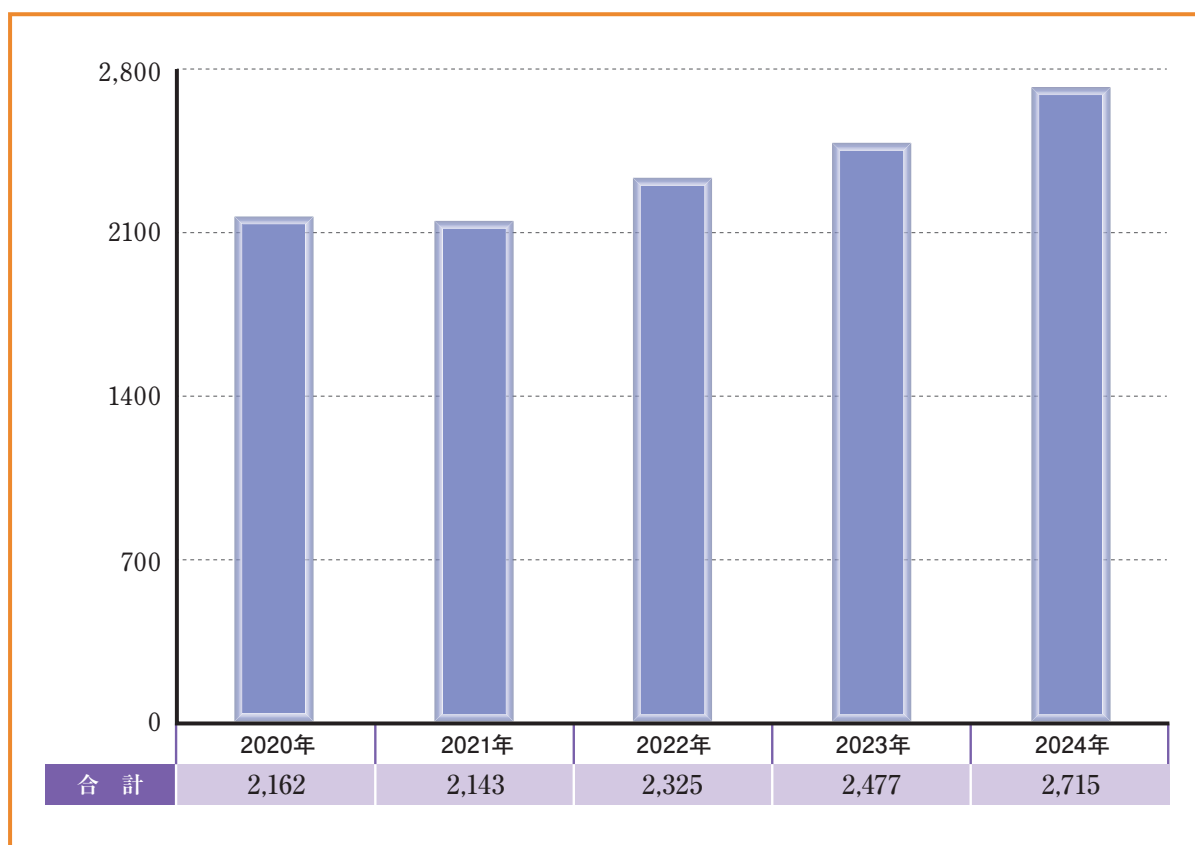
急性期病棟平均在院日数



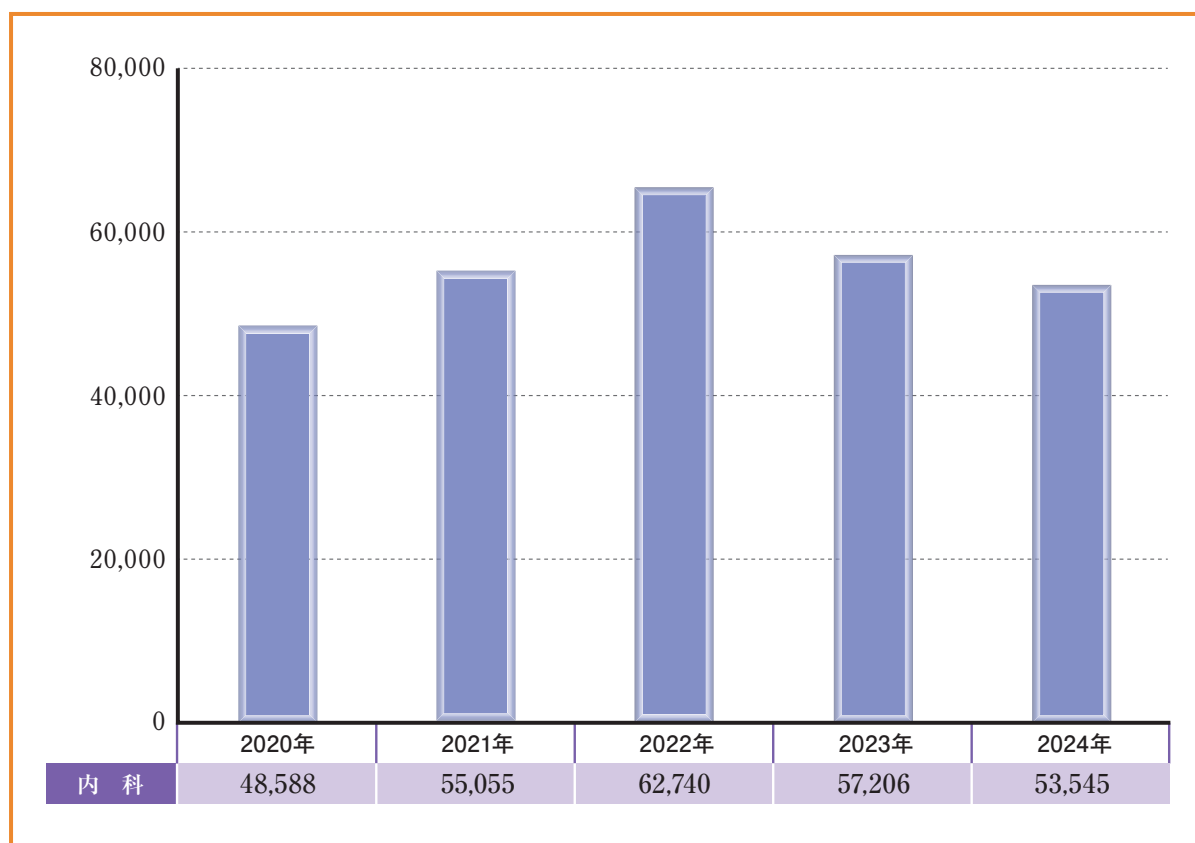
地域包括ケア病棟在宅復帰率



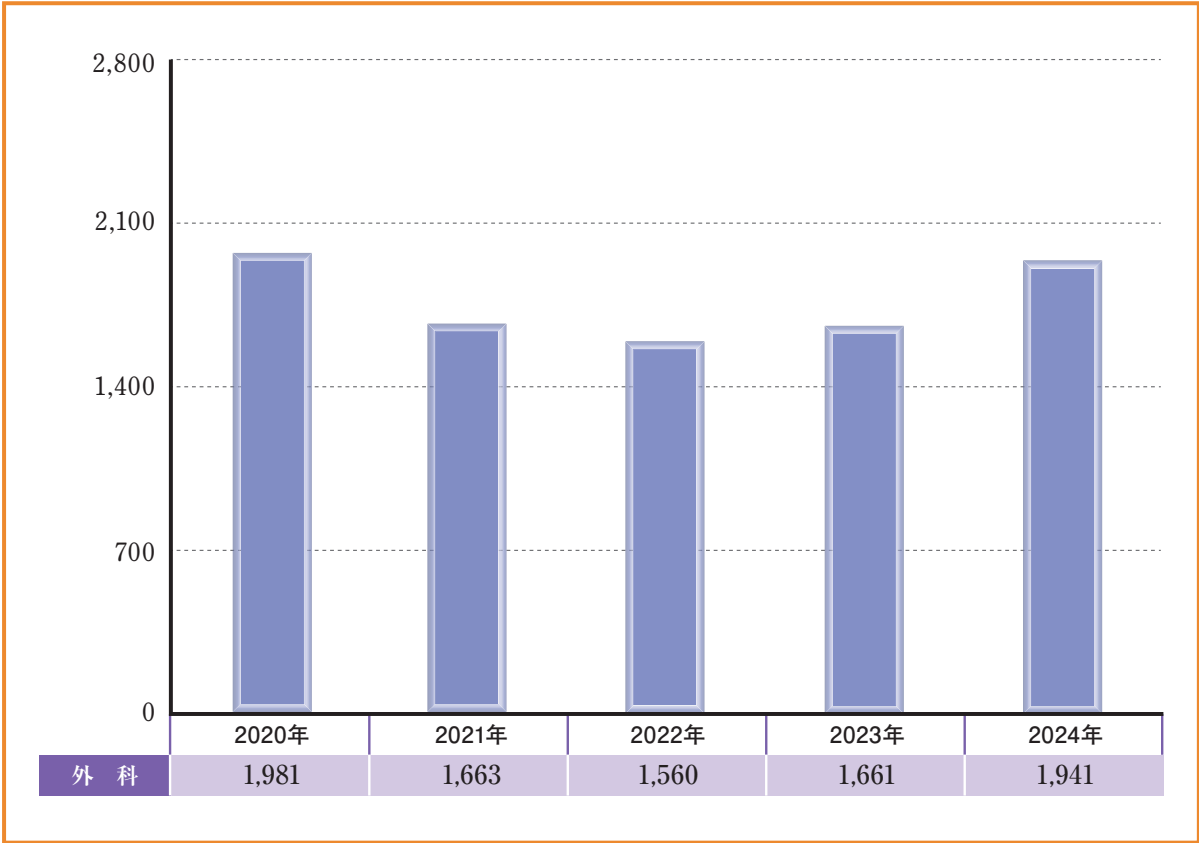
年度別入院件数



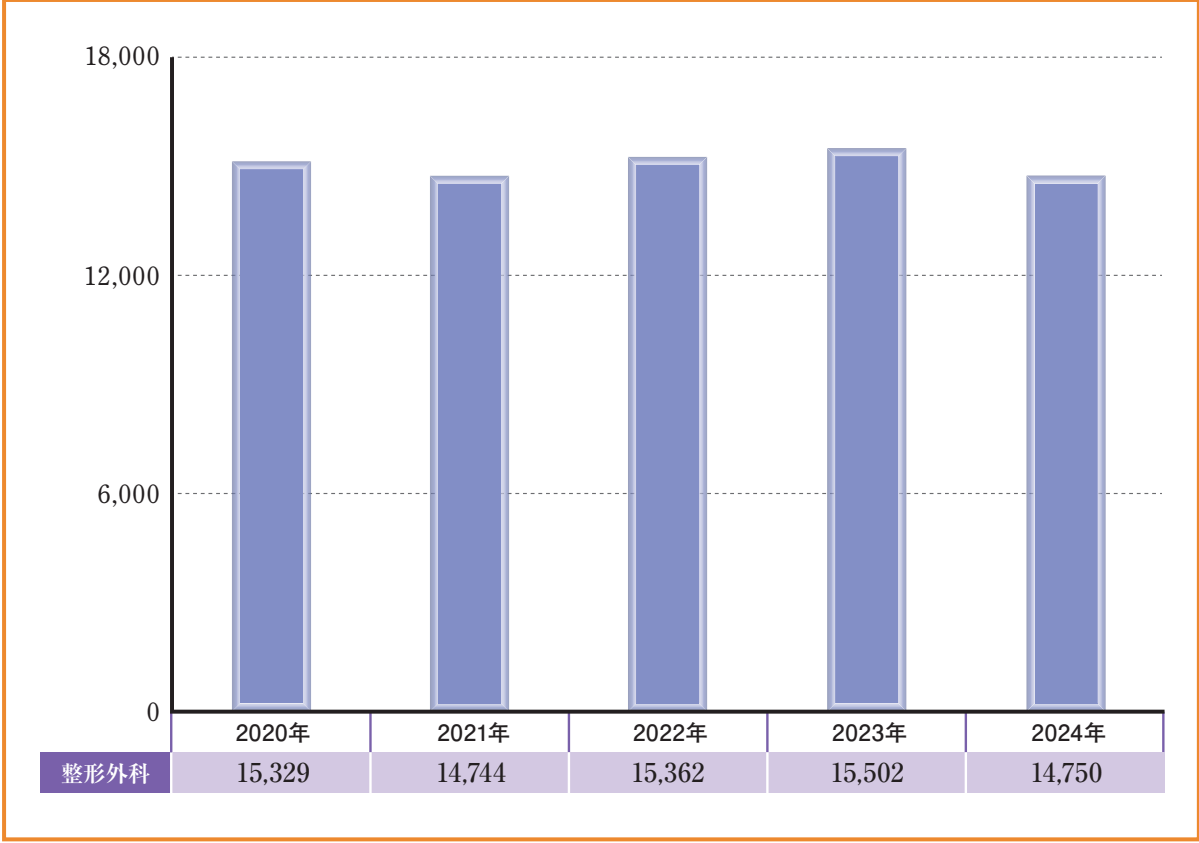
年度別患者数（内科）



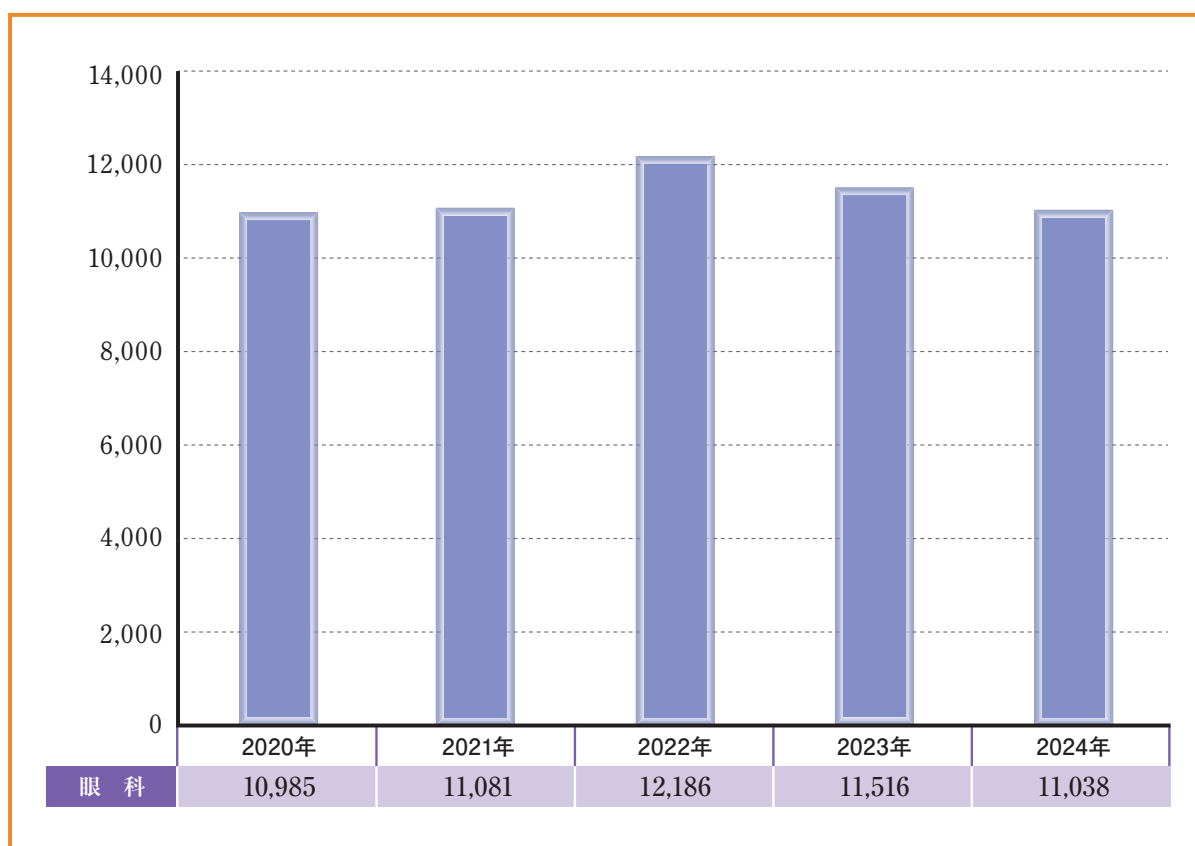
年度別患者数（外科）



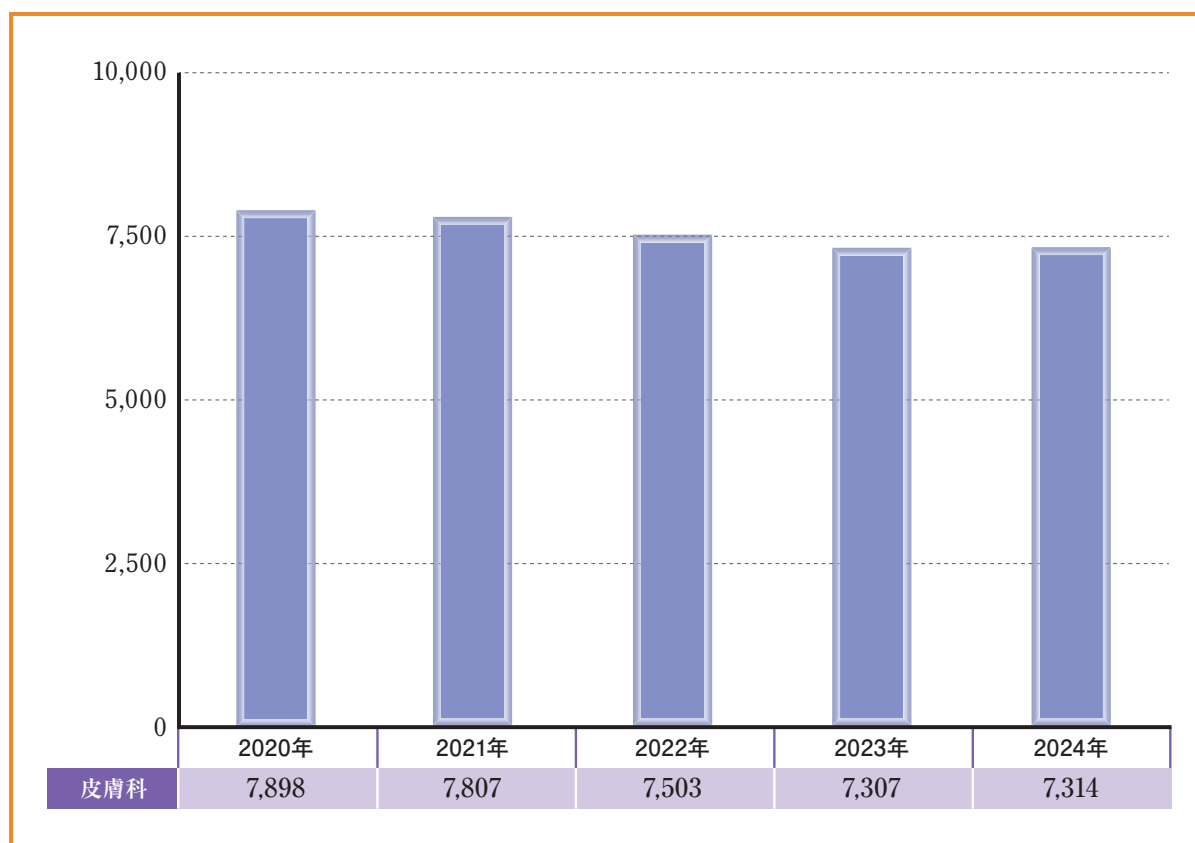
年度別患者数（整形外科）



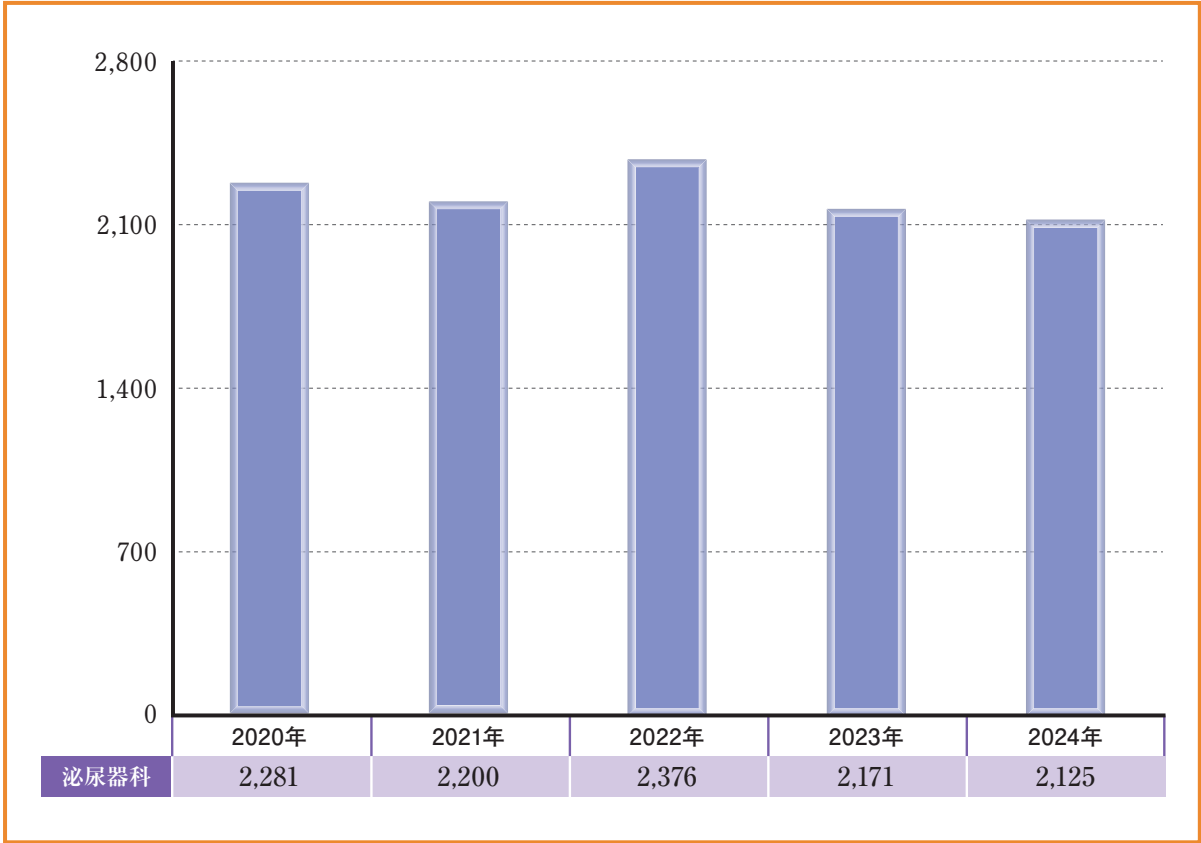
年度別患者数（眼科）



年度別患者数（皮膚科）

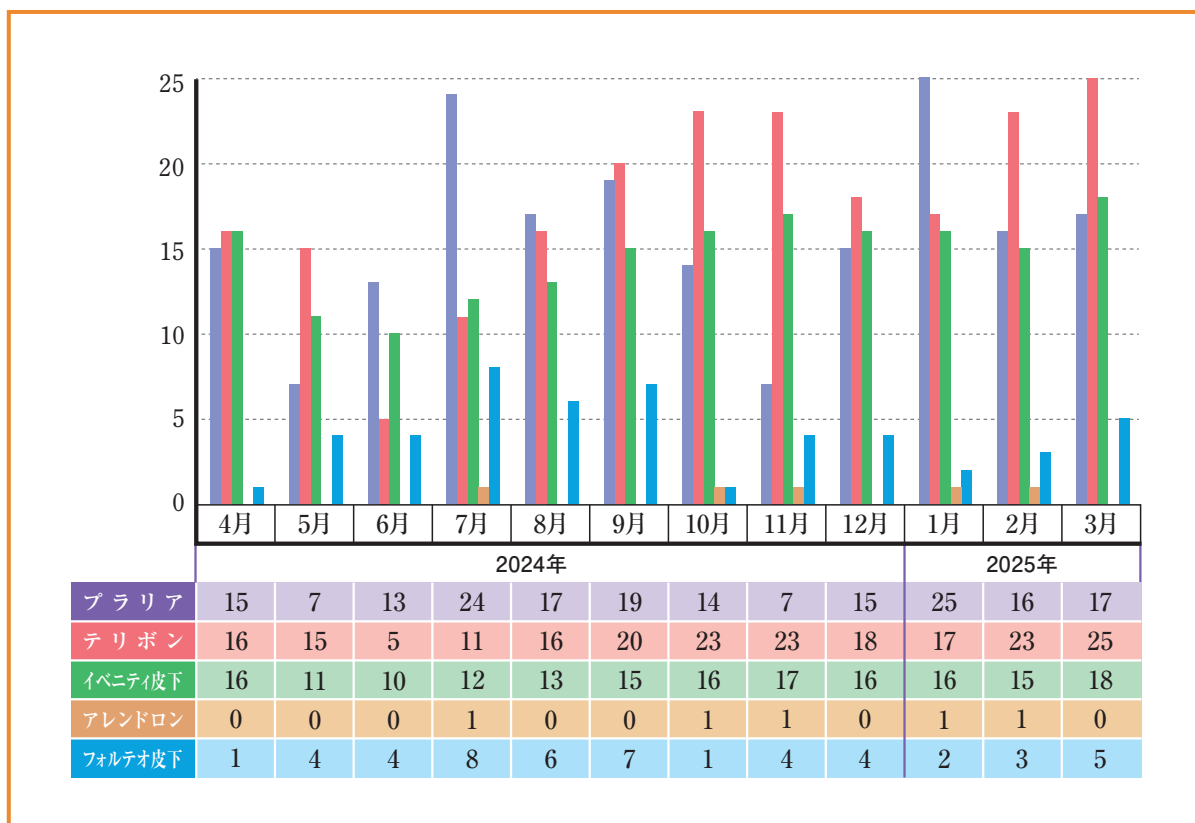


年度別患者数（泌尿器科）

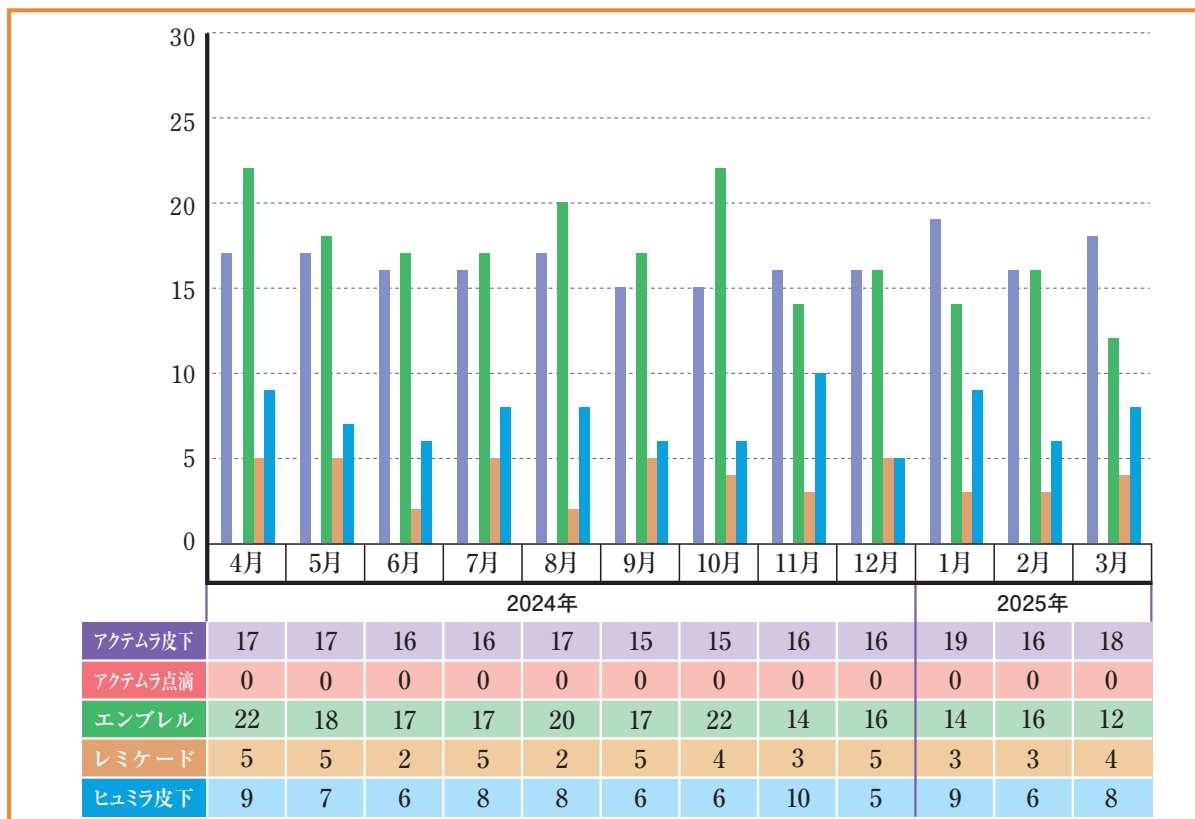


外来

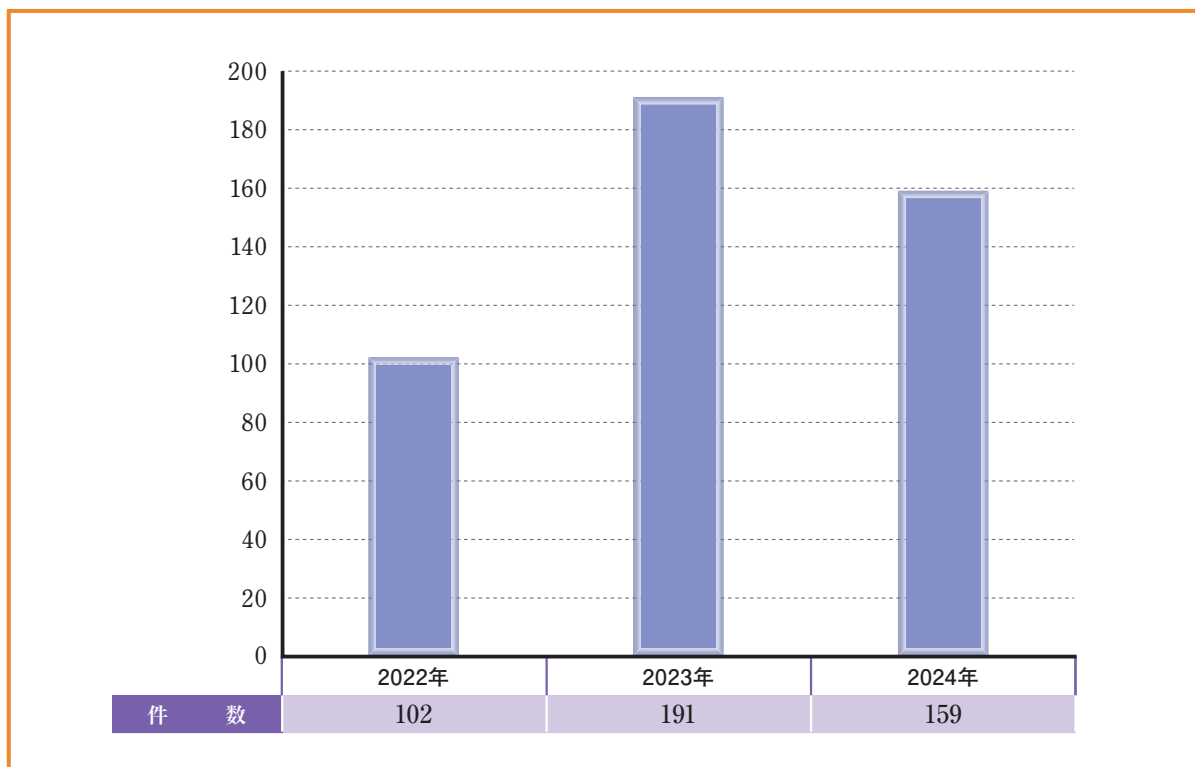
骨粗鬆症治療薬使用件数



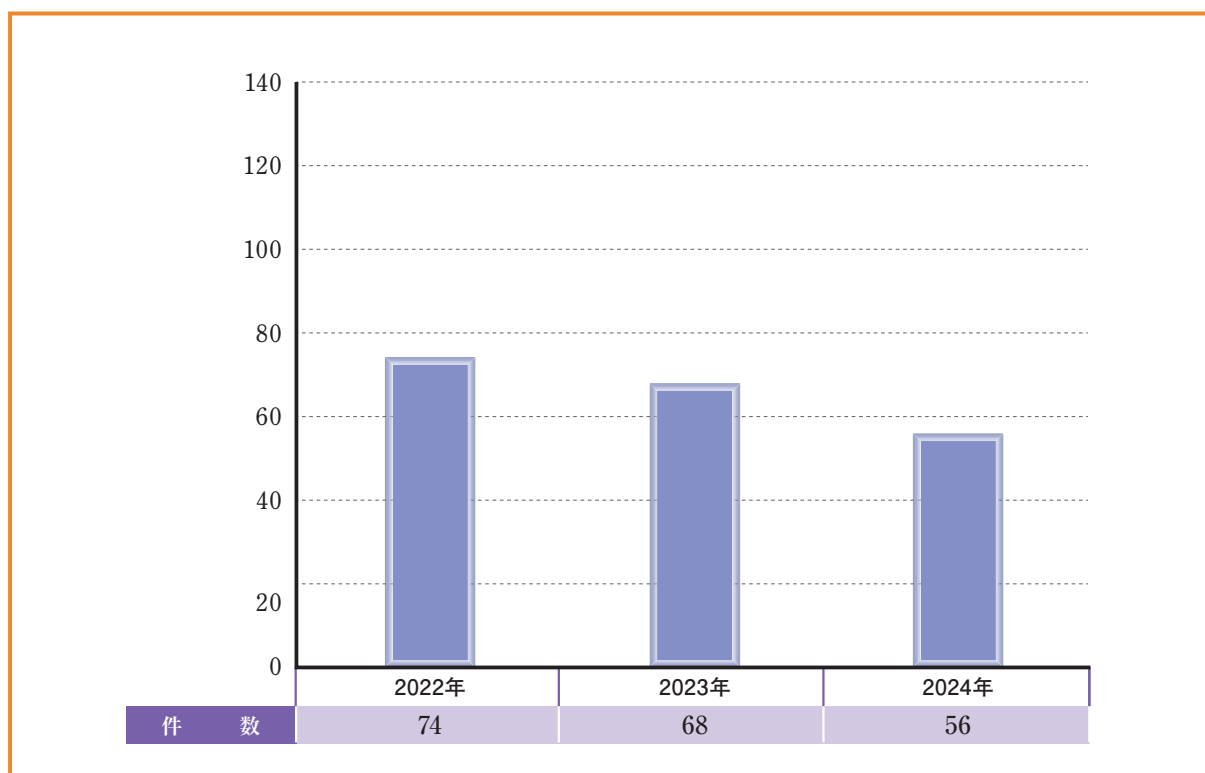
生物学的製剤使用件数



外来化学療法件数

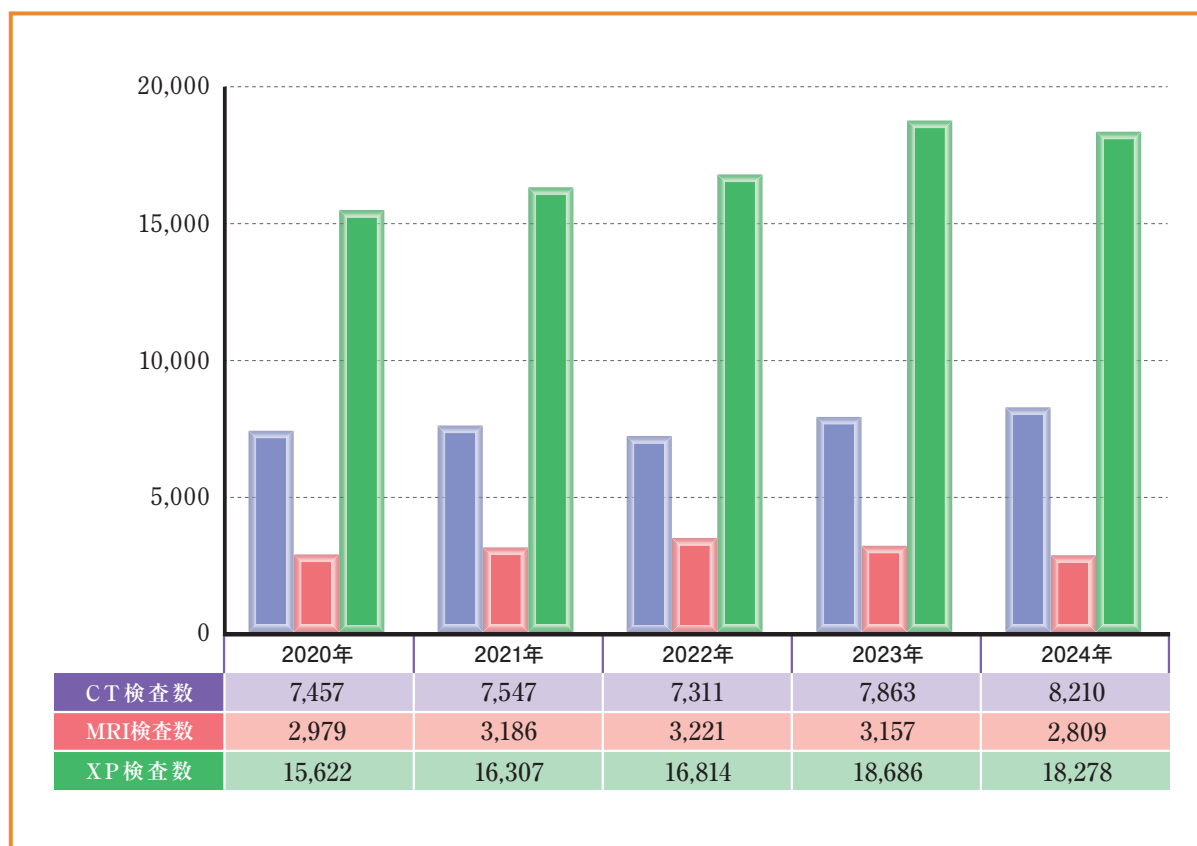


膀胱鏡件数

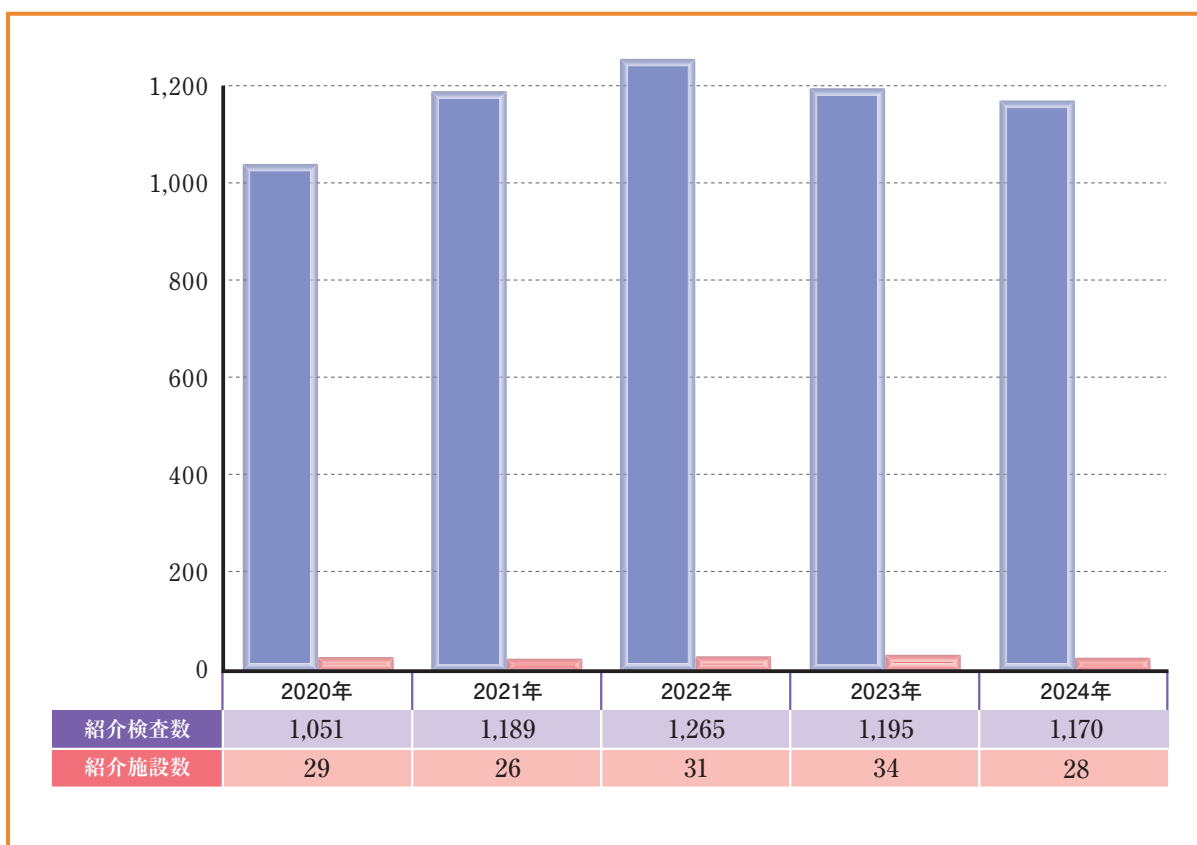


放射線科

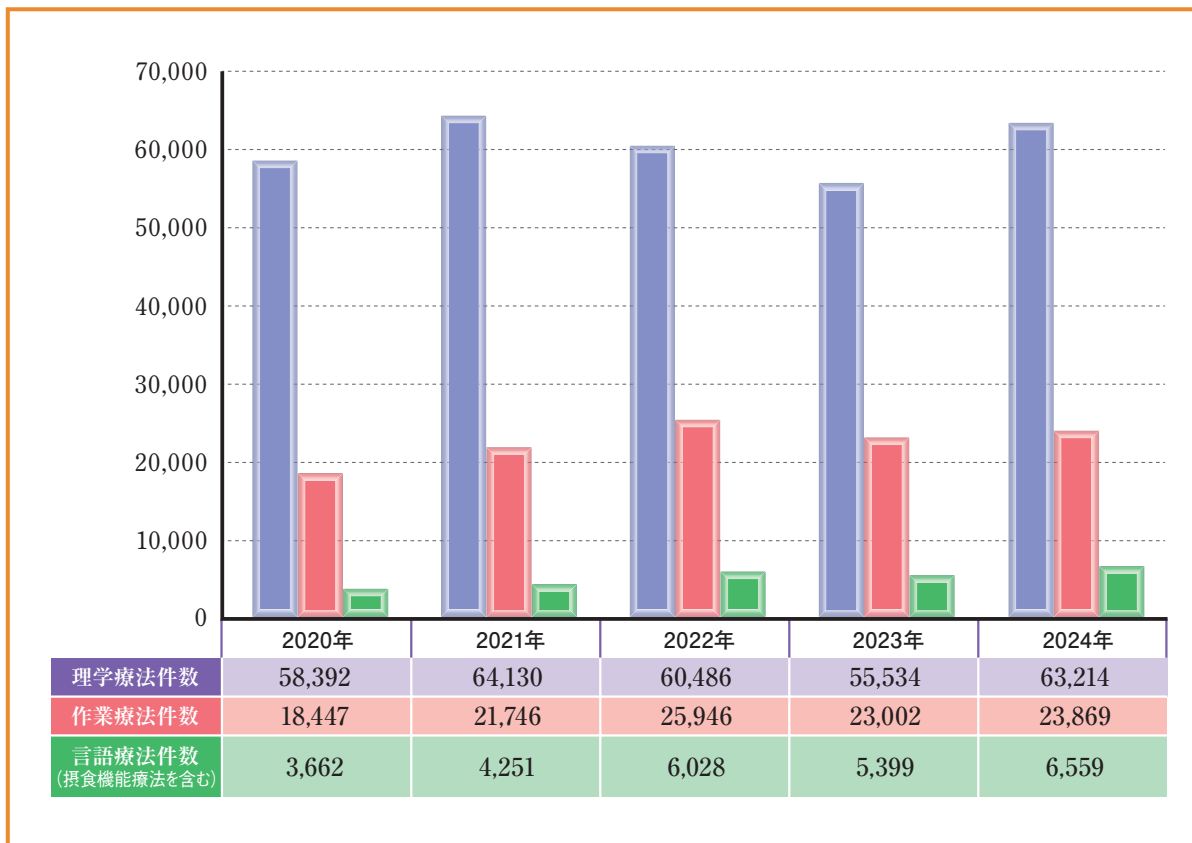
検査件数



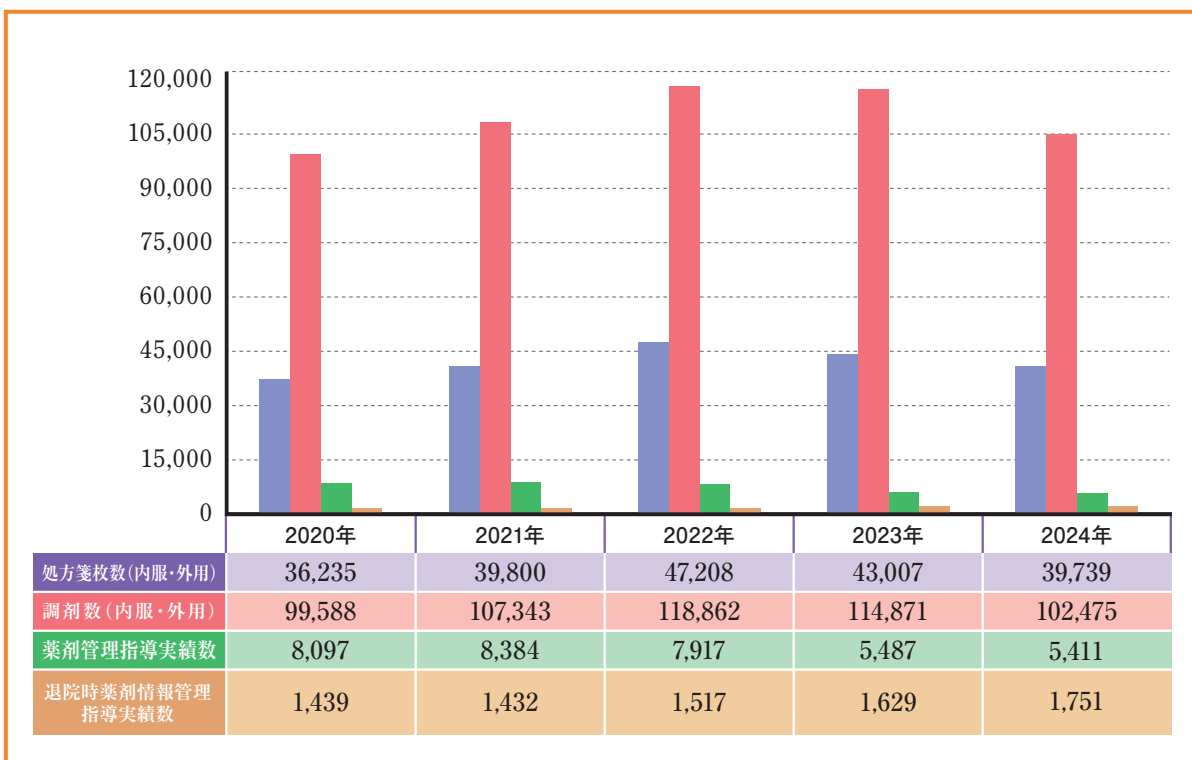
紹介検査件数



リハビリテーション科

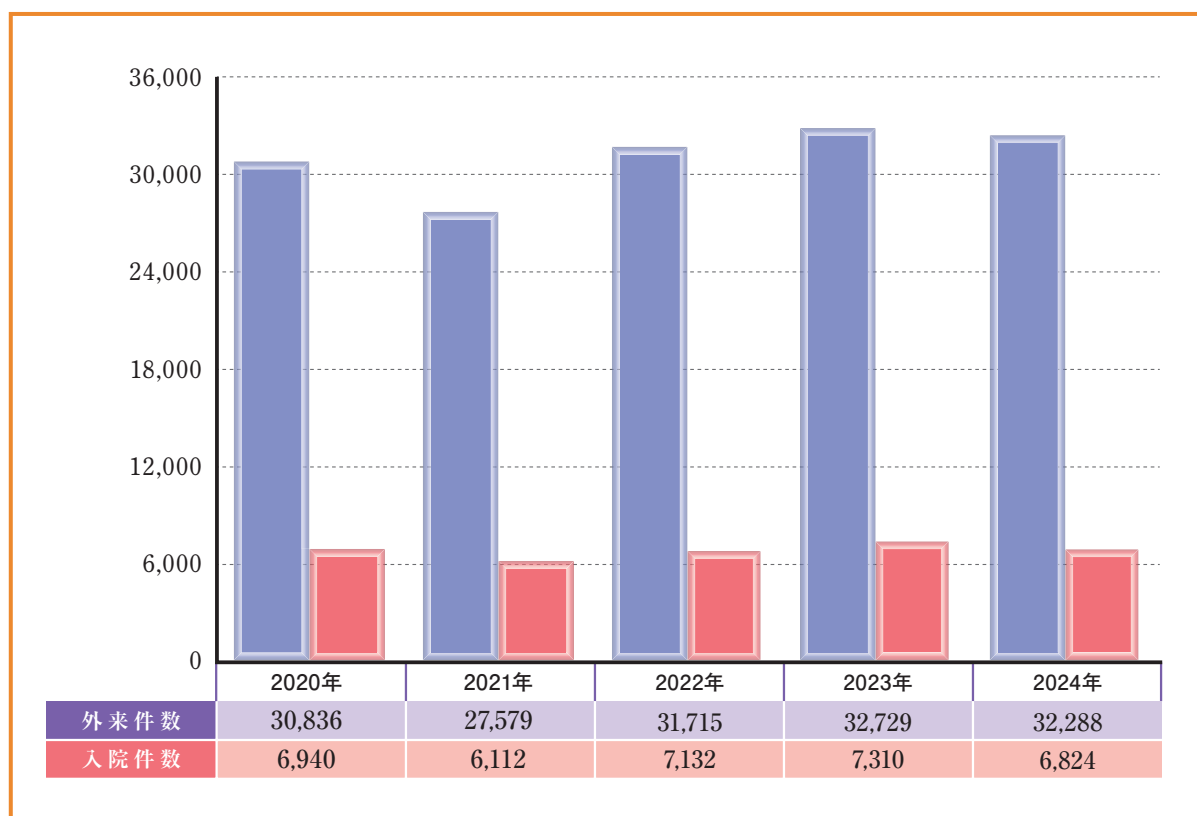


薬剤科

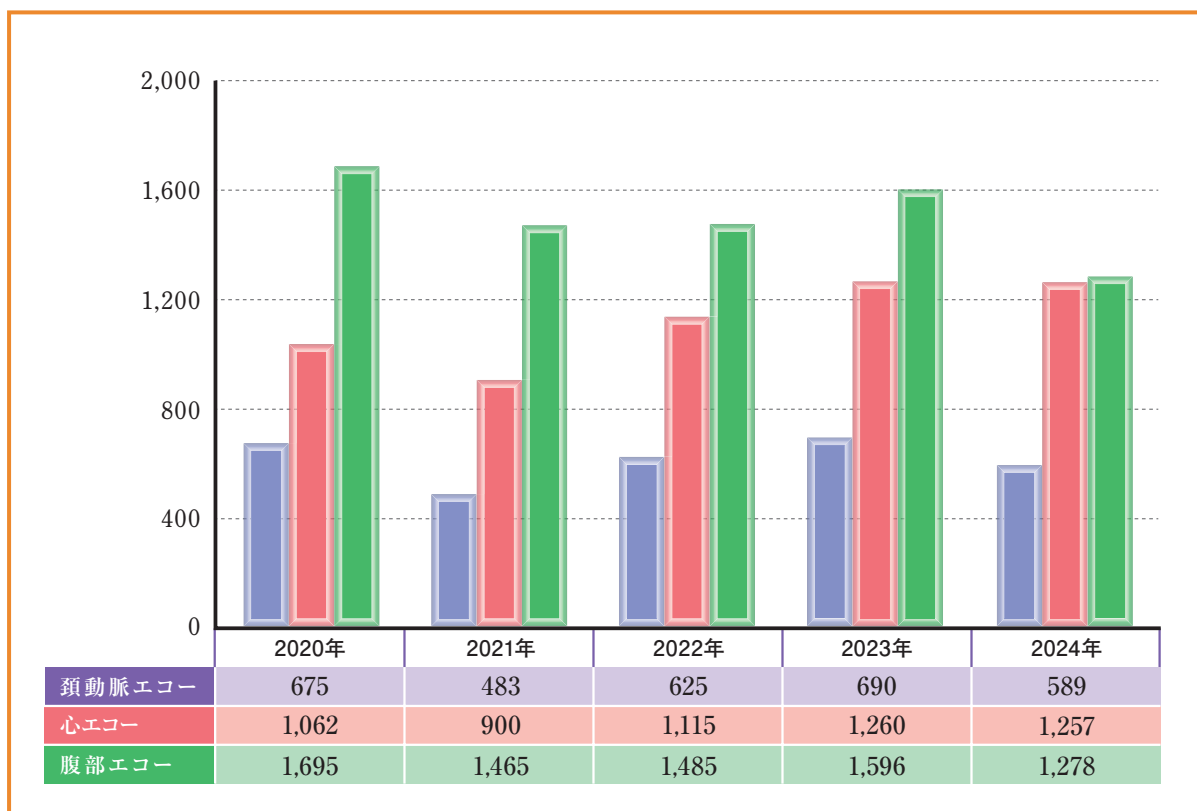


臨床検査科

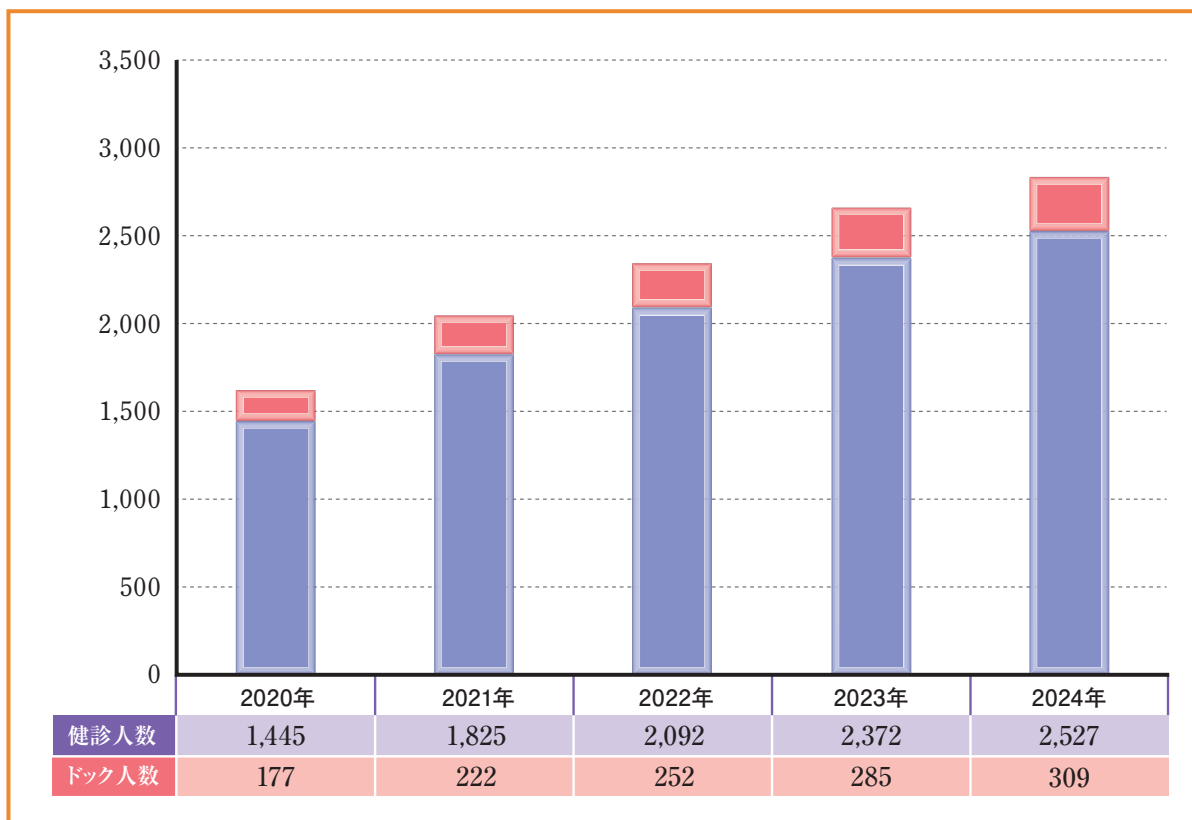
生化学包括件数



エコー一件数

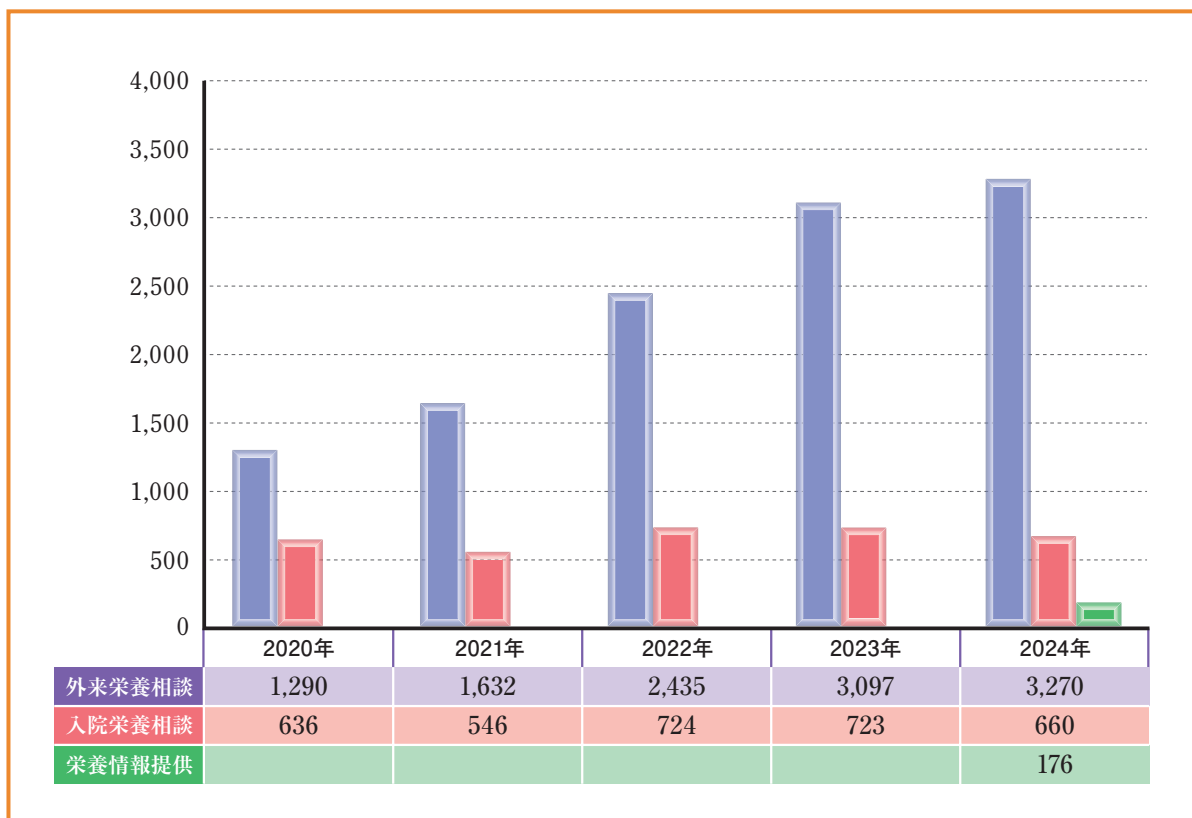


健康診断科



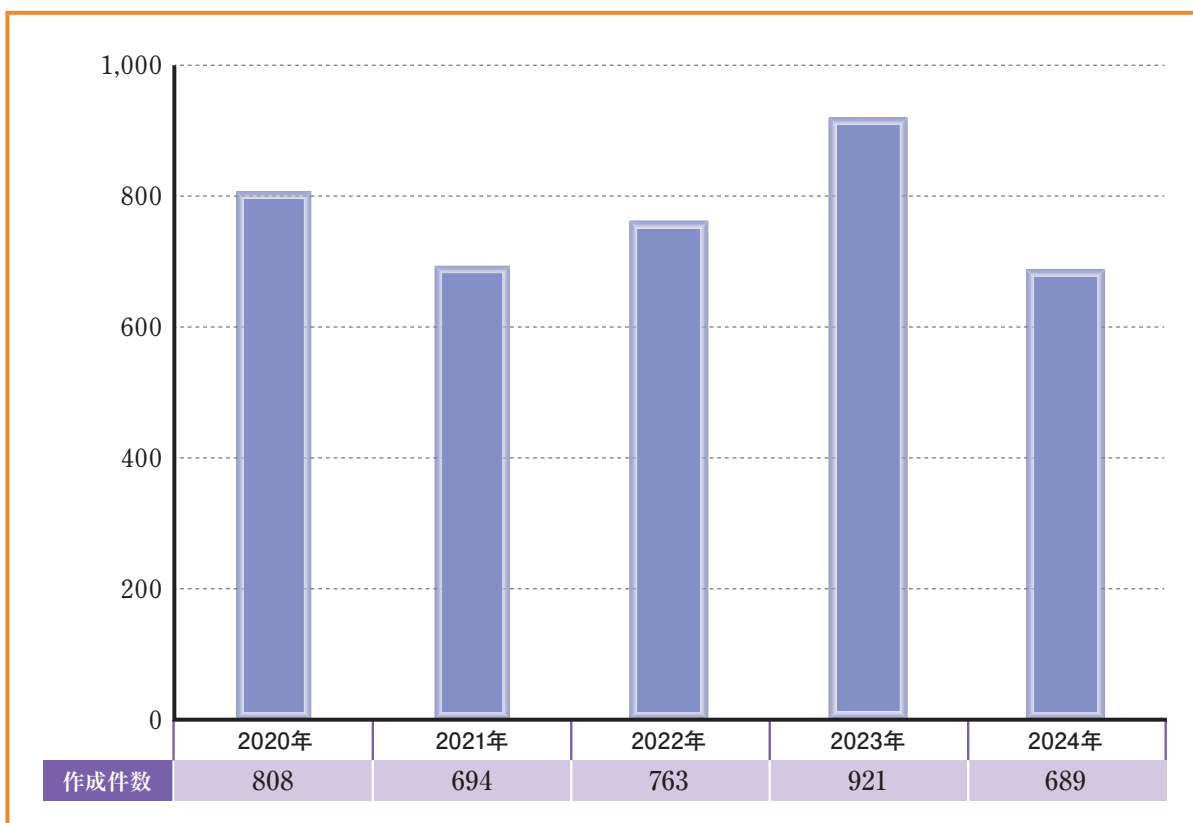
栄養科

栄養指導件数

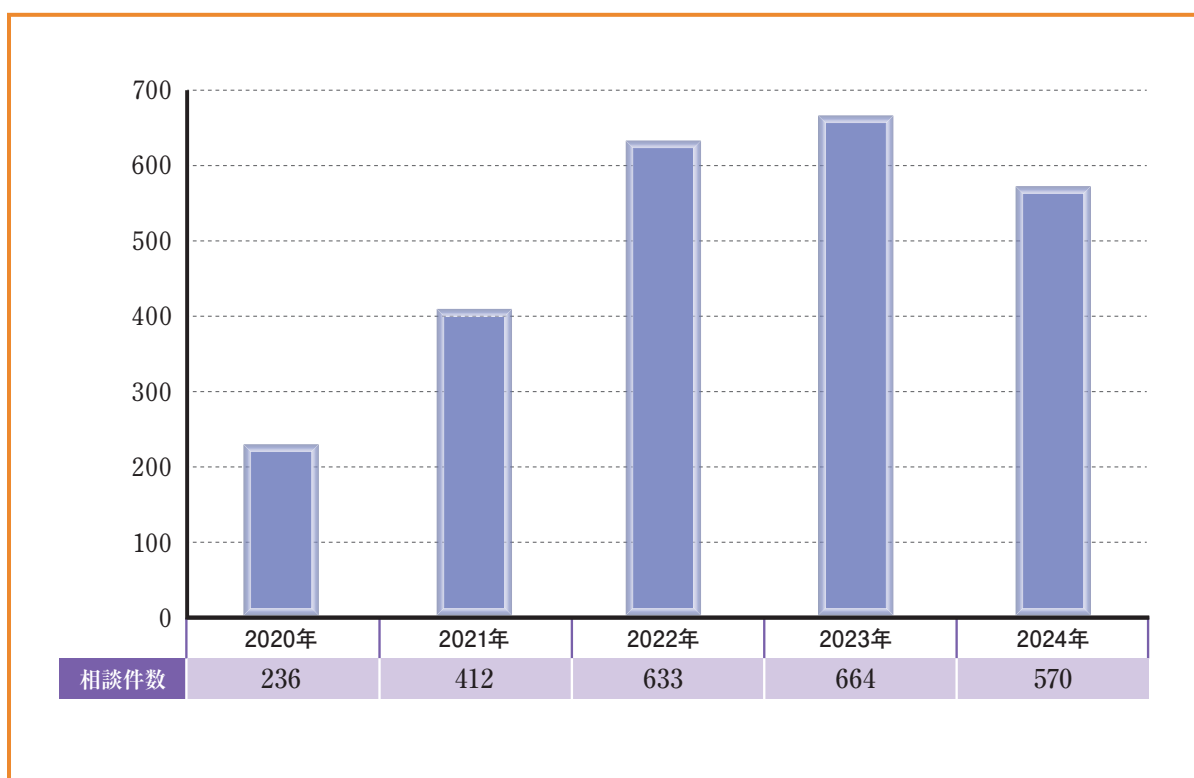


総合支援相談室

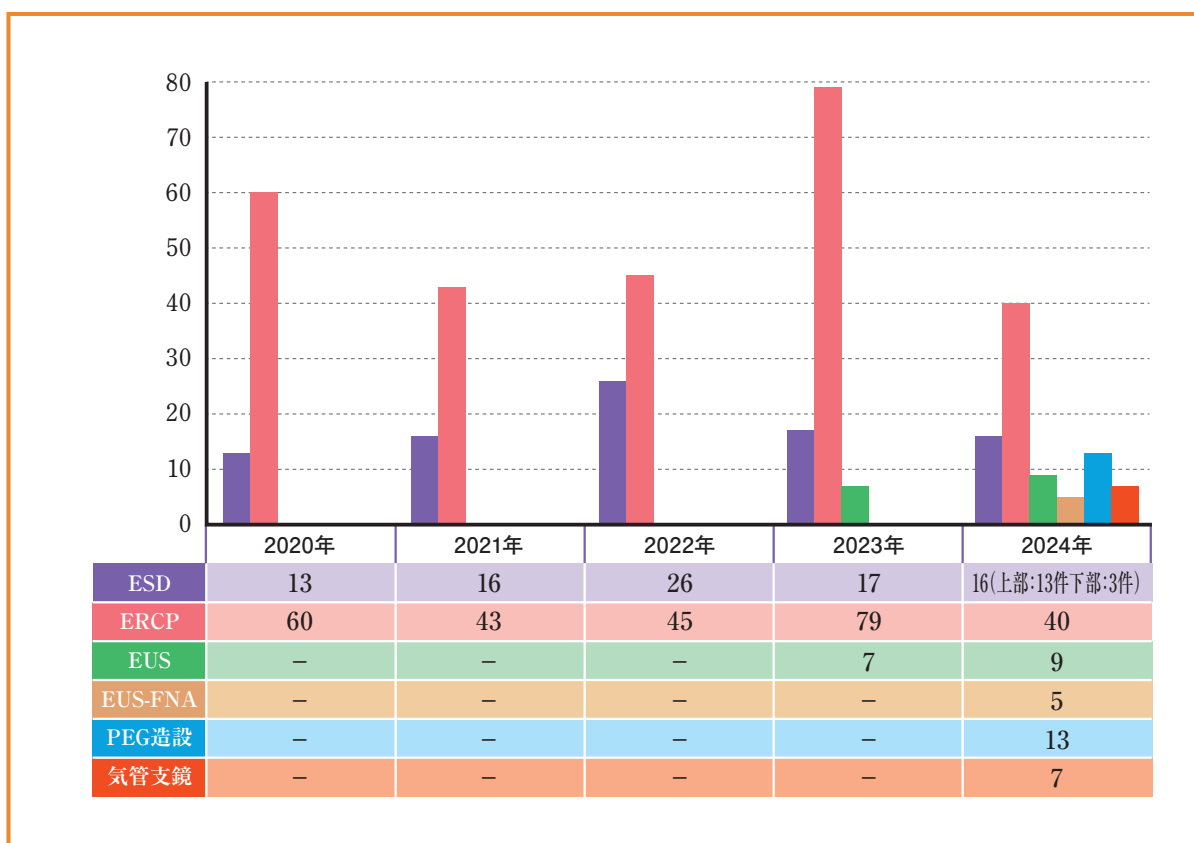
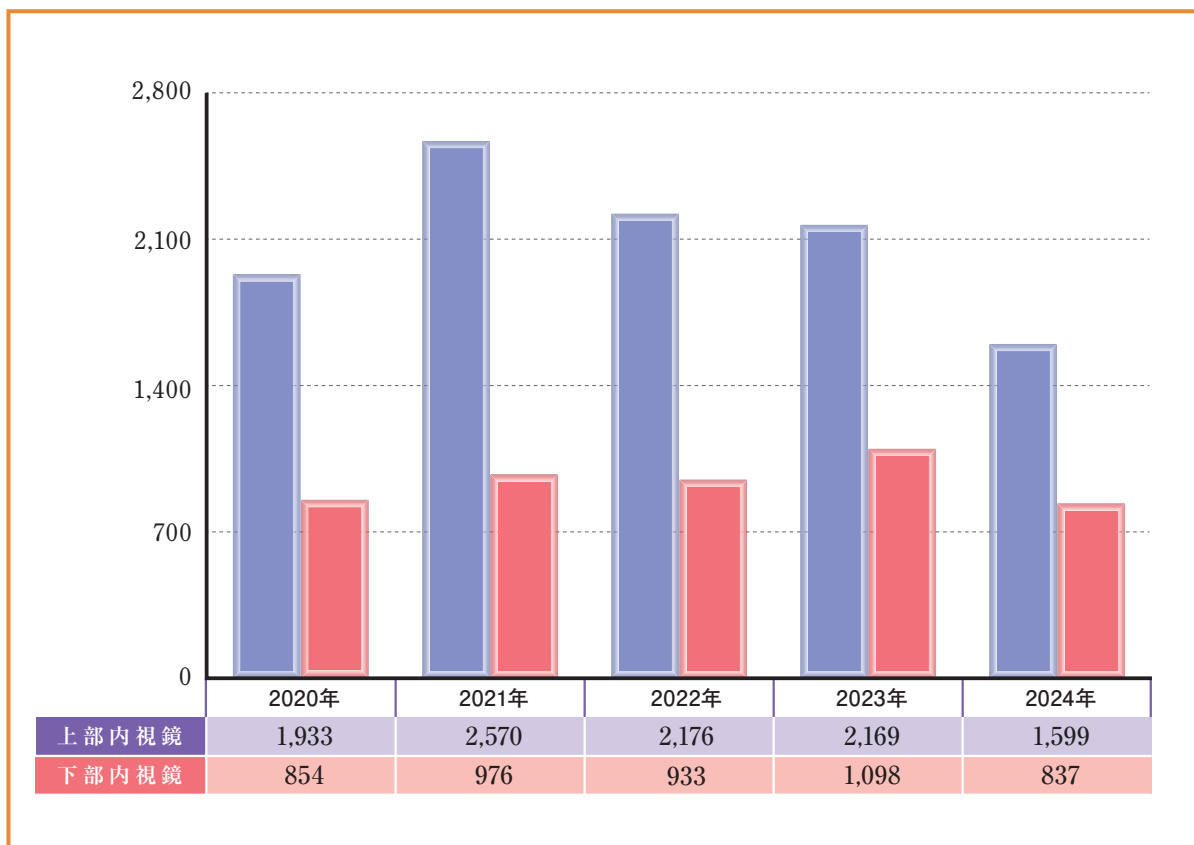
介護保険主治医意見書作成件数



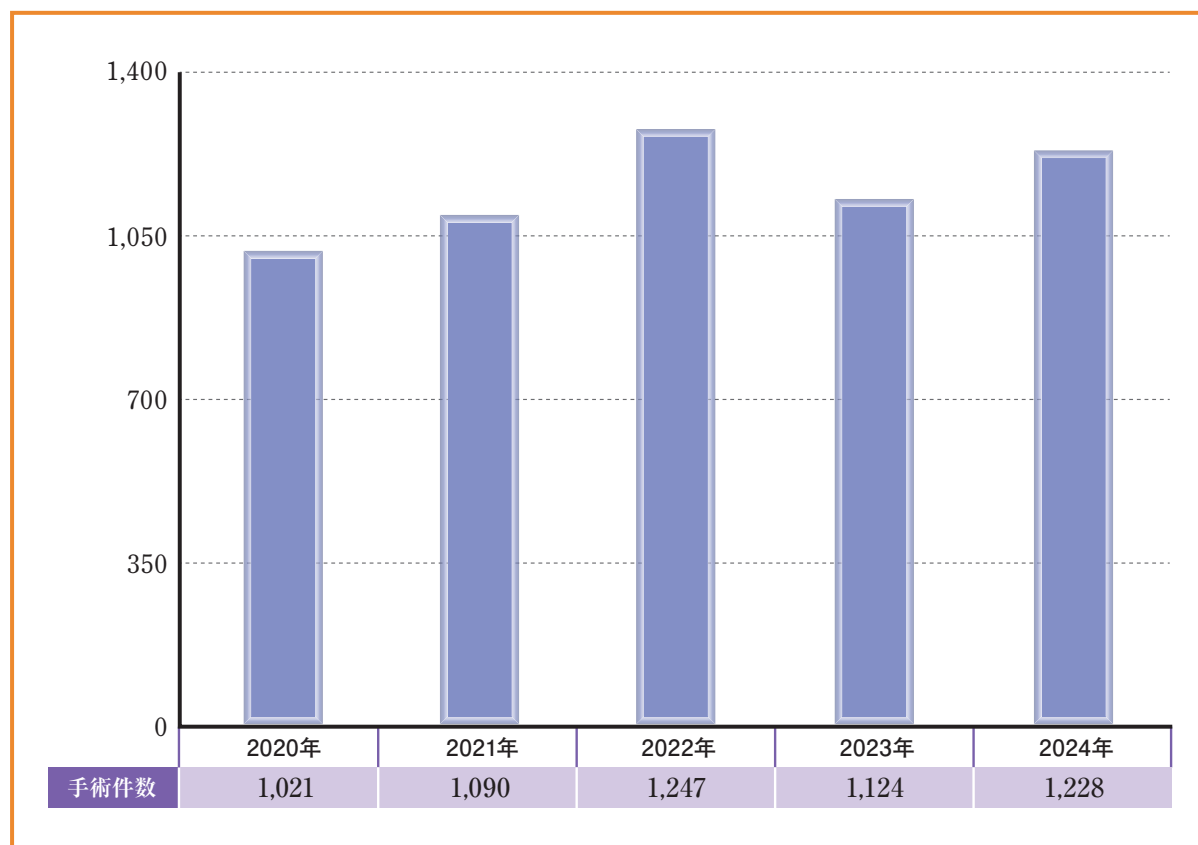
相談件数



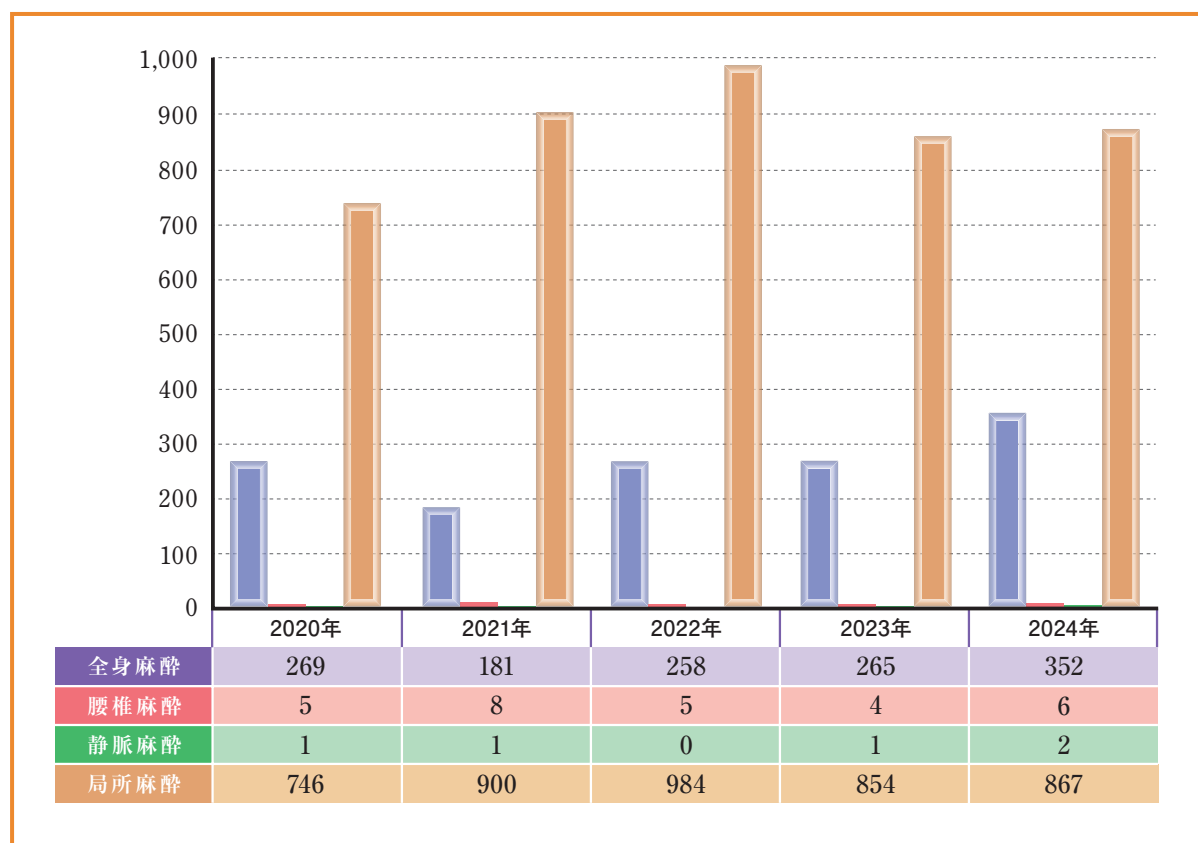
内視鏡センター



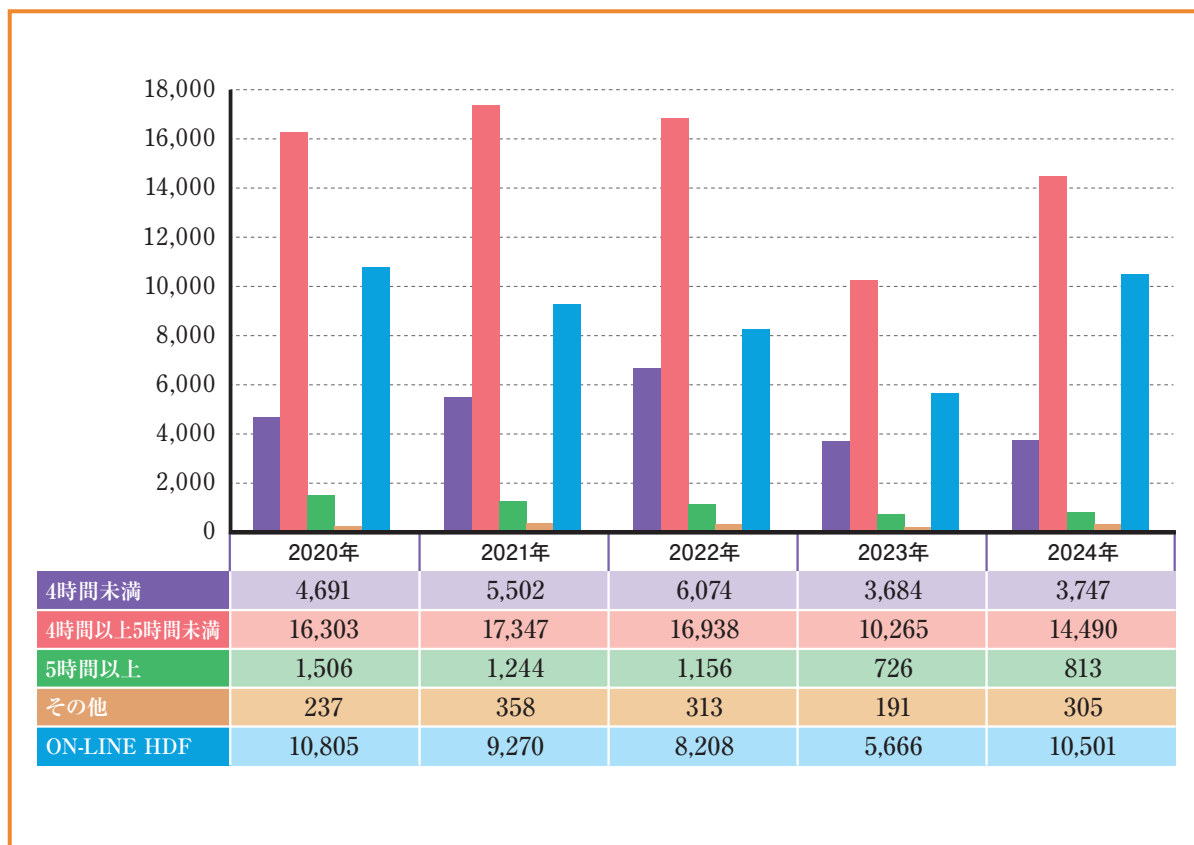
手術件数



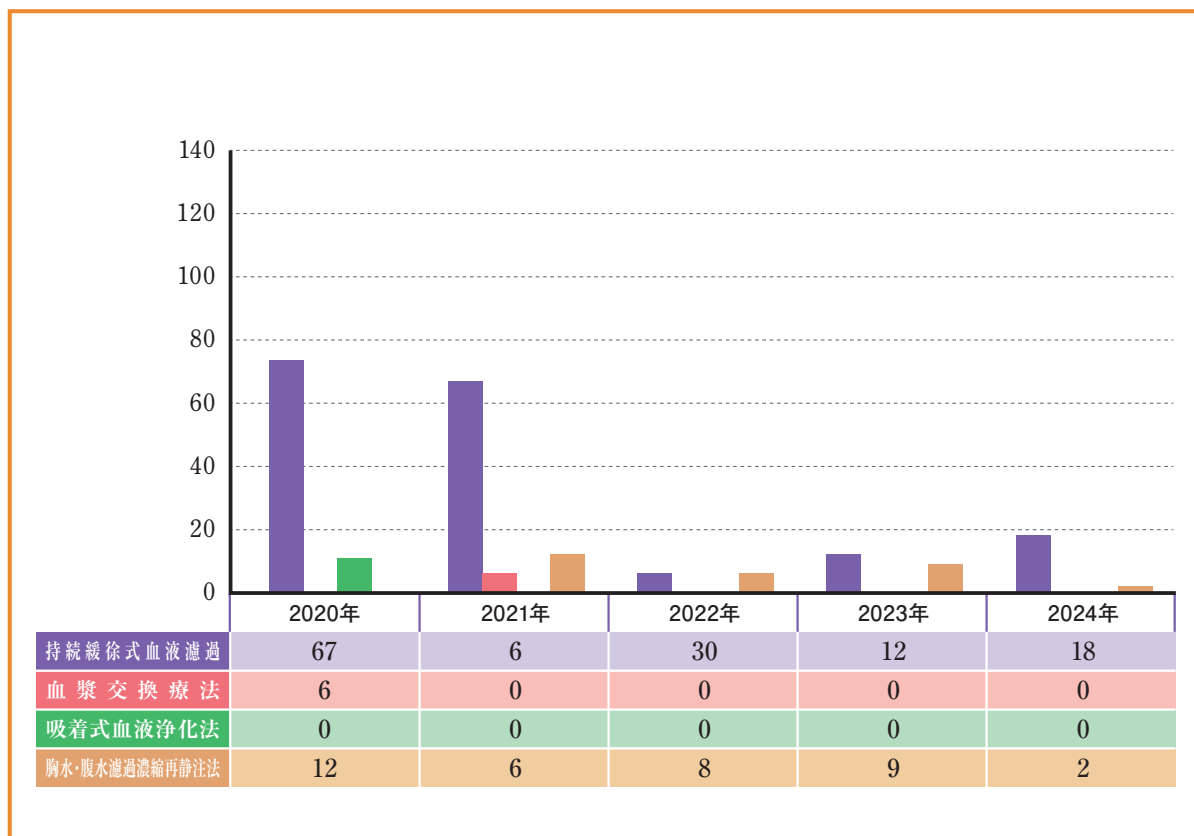
麻酔別手術件数



手技別透析件数

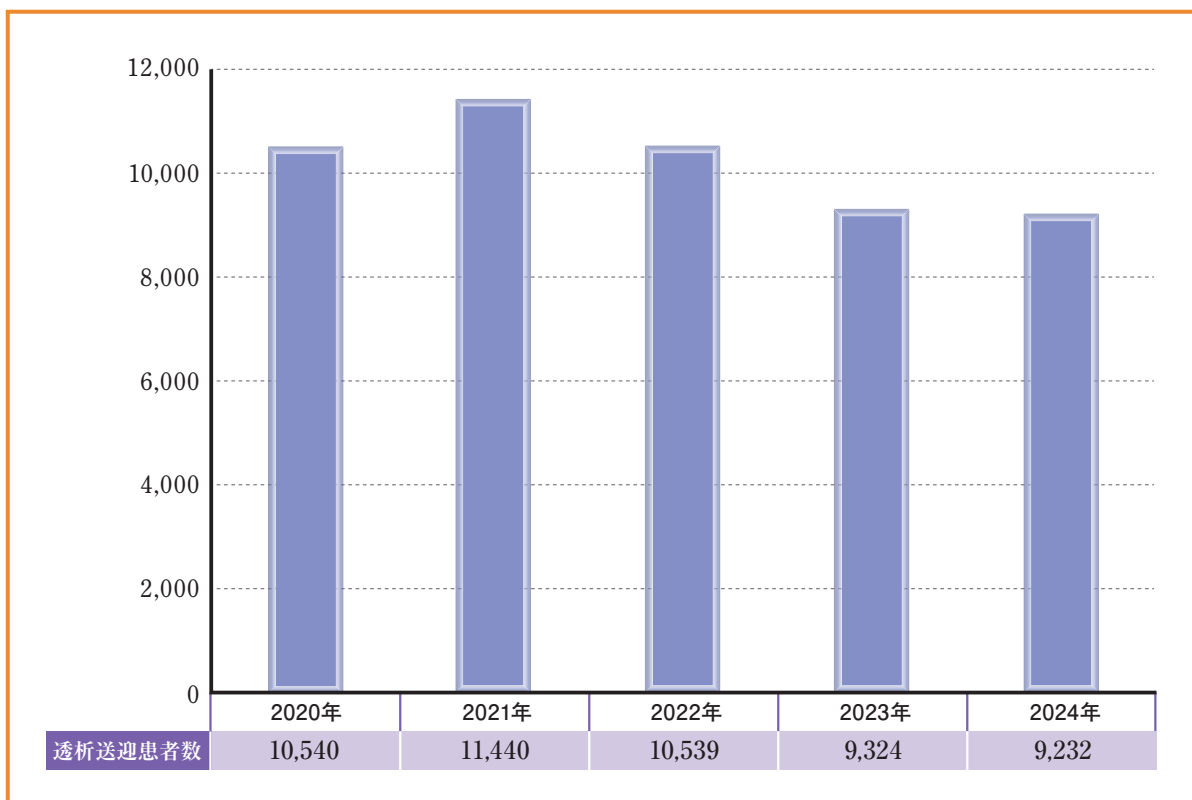


血液浄化療法件数

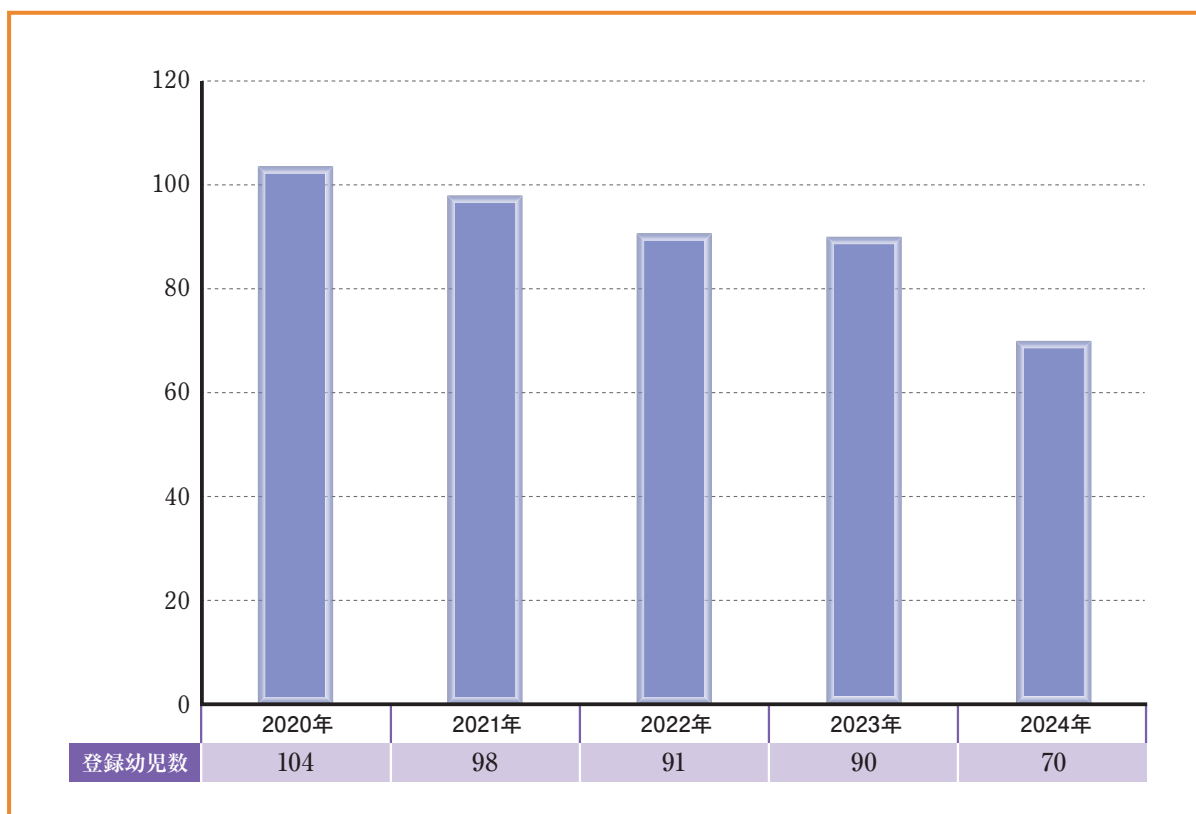


涉外担当課

透析送迎患者数

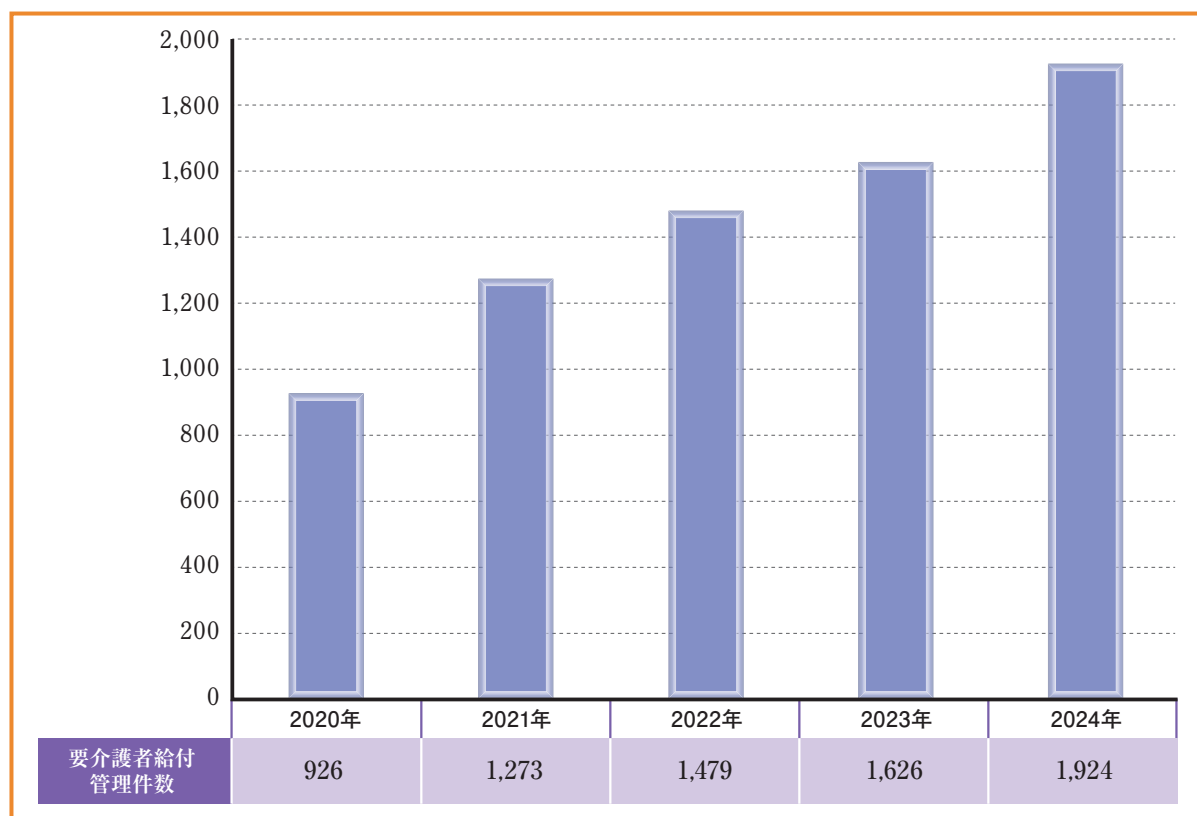


保育所



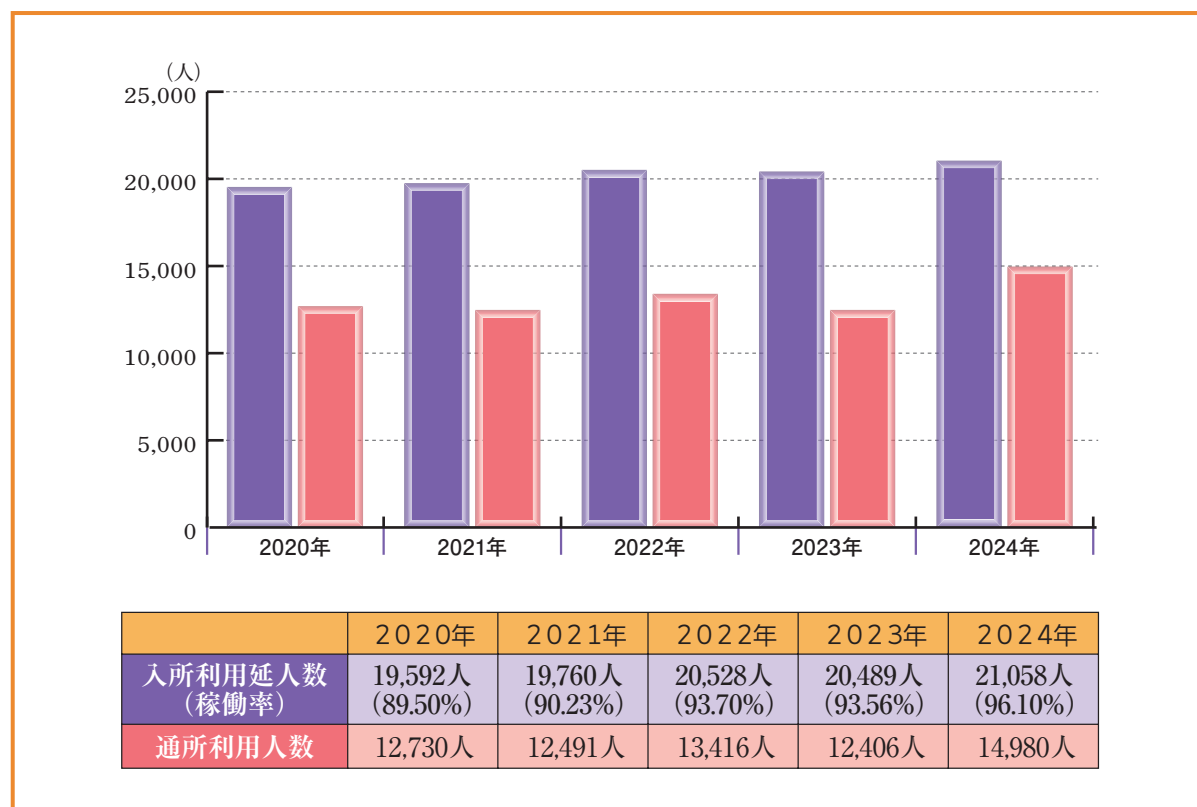
居宅介護支援事業所

要介護 給付管理件数



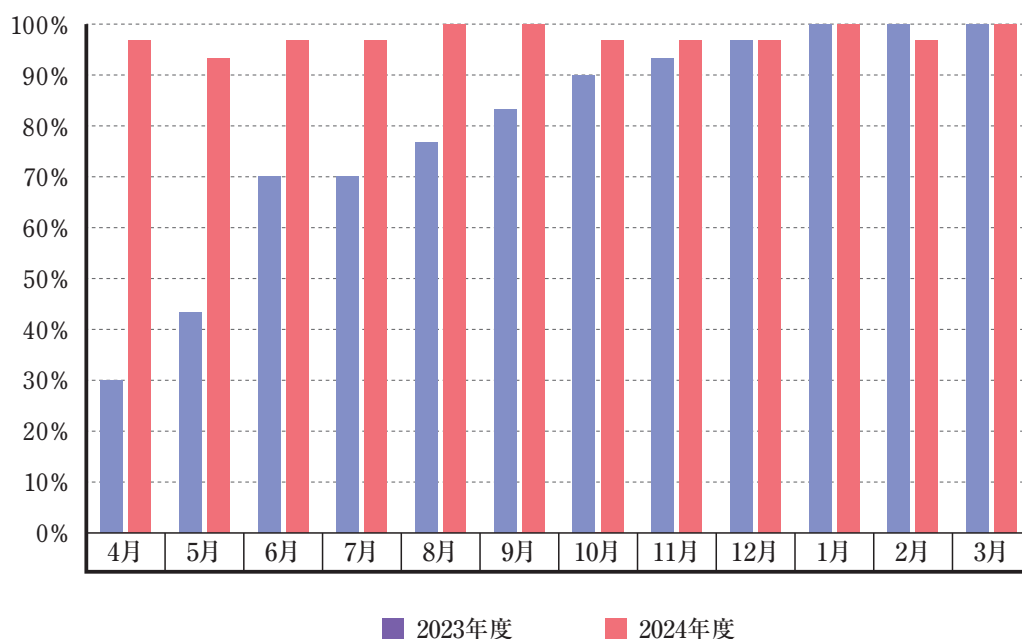
サンスマイル三木

利用延べ人数



サービス付き高齢者向け住宅サンフォレスト三木

稼働率

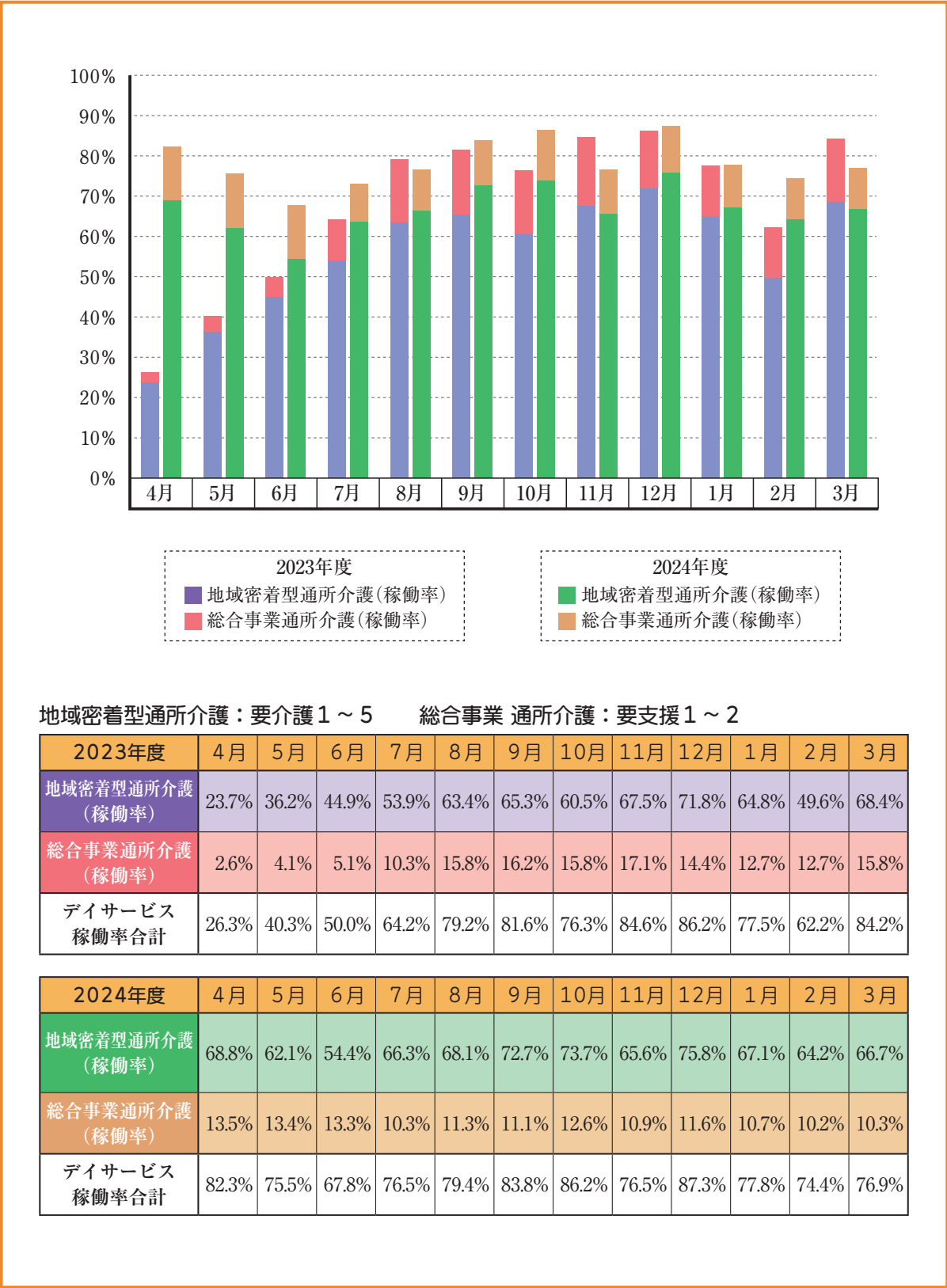


2023年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
稼働率合計	30.0%	43.3%	70.0%	70.0%	76.7%	83.3%	90.0%	93.3%	96.7%	100%	100%	100%

2024年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
稼働率合計	96.7%	93.3%	96.7%	96.7%	100%	100%	96.7%	96.7%	96.7%	100%	96.7%	100%

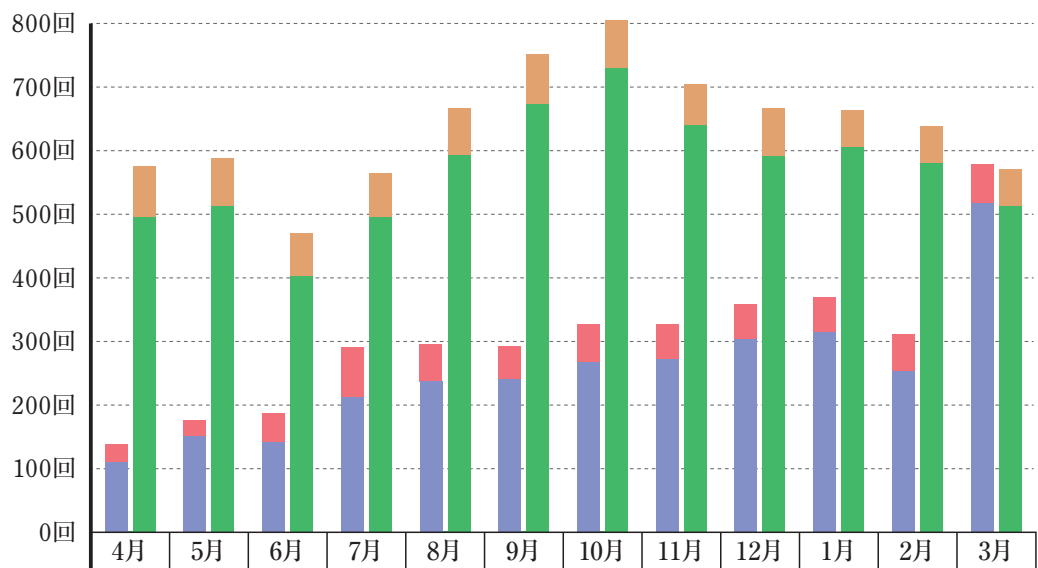
デイサービス サンフォレスタ

稼働率



訪問介護ステーション サンフォレスト

活動実績回数



2023年度
 ■ 訪問介護 (活動実績回数)
 ■ 総合事業訪問介護 (基準緩和型) (活動実績回数)

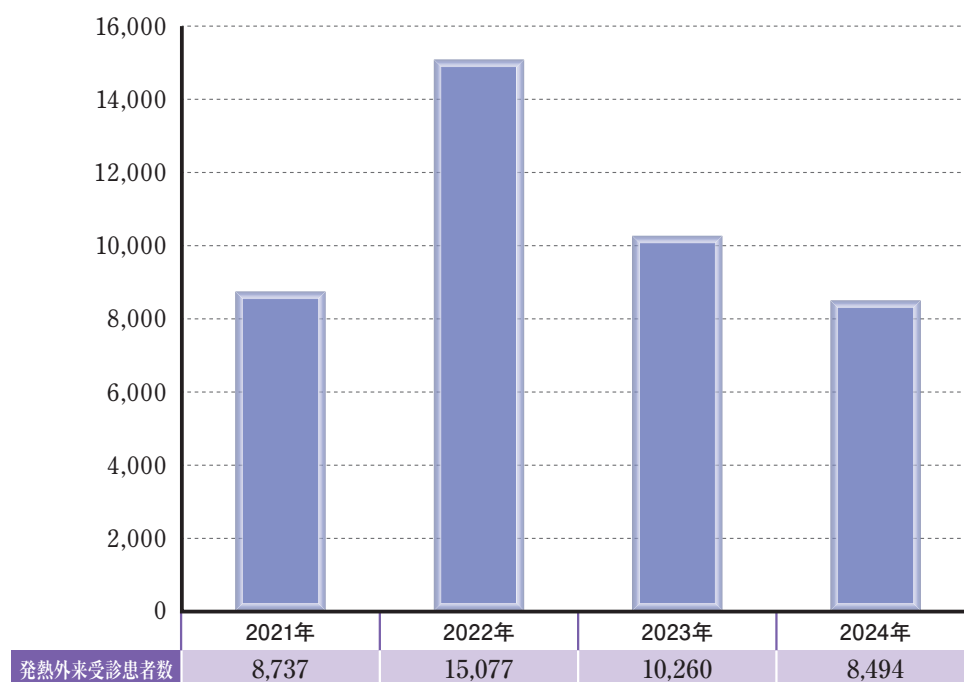
2024年度
 ■ 訪問介護 (活動実績回数)
 ■ 総合事業訪問介護 (基準緩和型) (活動実績回数)

訪問介護：要介護1～5 総合事業 訪問介護 基準緩和 サービス提供責任者型：要支援1～2

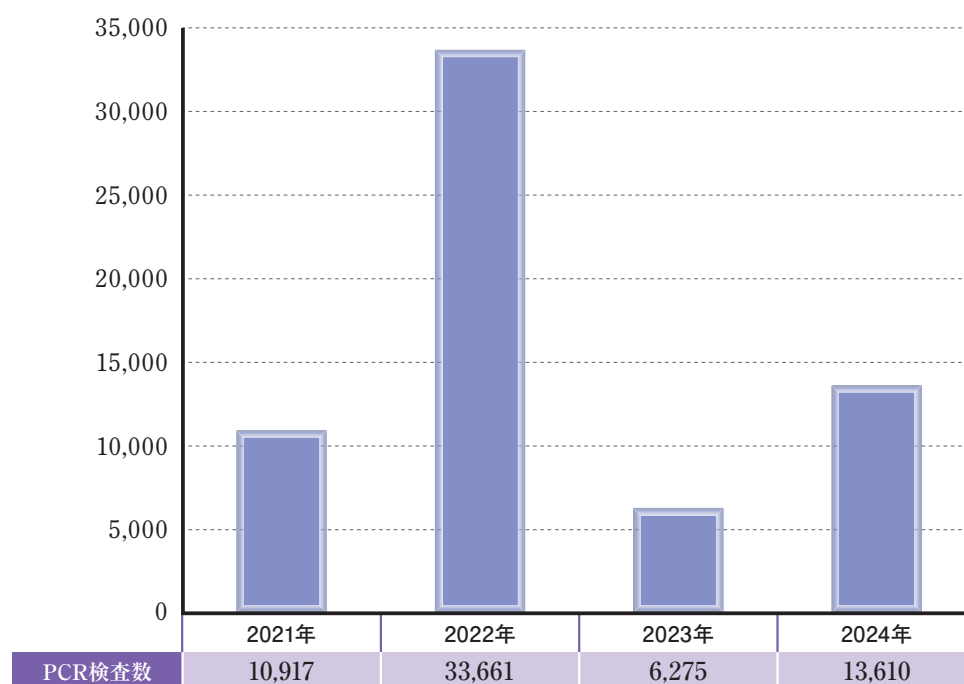
2023年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
訪問介護 (活動実績回数)	111回	151回	141回	212回	237回	240回	267回	272回	303回	315回	254回	518回
総合事業訪問介護 (基準緩和型) (活動実績回数)	27回	25回	46回	80回	59回	52回	61回	56回	56回	55回	57回	60回

2024年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
訪問介護 (活動実績回数)	496回	512回	402回	495回	593回	673回	729回	640回	592回	606回	580回	512回
総合事業訪問介護 (基準緩和型) (活動実績回数)	80回	76回	69回	70回	73回	78回	76回	65回	75回	57回	58回	59回

発熱外来受診患者数



COVID-19 PCR検査数







Miki-Sanyo Hospital

研究実績

研究実績

1. 学会・研究会発表

第35回兵庫県理学療法学術大会 ポスター発表

「当院地域包括ケア病棟入棟患者におけるBMIと入院関連機能障害について」

リハビリテーション科 濱田 真弓

第49回日本超音波学会学術集会

「中小規模病院における超音波検査の重要性と課題」

臨床検査科 友藤 達陽

2. 論文・書籍

月刊Medical Technology 超音波エキスパート 頸動脈超音波検査の進め方

「IMCの全周性肥厚を認めた時に何を疑うか」

臨床検査科 友藤 達陽

編集後記

非常に寒い冬が終わり、新緑の生える季節になりました。

令和7年度の年報が完成いたしました。今回、初めて年報の作成に携わることで、かなり戸惑いましたが年報委員会メンバーの皆さんに助けていただき完成に辿り着けました。また、各委員会スタッフ、病院スタッフのみなさん忙しい中ご協力いただきありがとうございました。この場を借りて深謝申し上げます。

昨年末はインフルエンザの大流行もあり、コロナ感染も減少はしましたが遷延化の中、身の回りに気を配りながらより良い診療を皆さんに届けられるよう尽力してきましたつもりです。

その努力もあってか、徐々にコロナ以前のイベントなども開催できるようになってきました。外来・入院患者とのコミュニケーションだけでなく地域住民の方とのコミュニケーションも広げていきたいと思えます。

地域の皆さんが安心して頼れる病院を目指して尽力していきたいと思えます。

来年度の年報で少しでも成長したところを御報告できますように

吉松 昭和

三木山陽病院年報 第17号

発行 2025年4月
発行所 三木山陽病院 年報プロジェクトチーム
発行責任者 吉松 昭和
メンバー 吉松 昭和 宇都宮 亜由美 西山 佐知
三浦 栄大 柳川 雅寿 川原 智美
井上 陽介 田中 かおり 卜部 綾
表紙文字デザイン 訪問看護ステーション 宇仁菅 敏行

〒673-0501 三木市志染町吉田1213-1

電話 0794-85-3061

FAX 0794-85-3582

印刷 王子印刷株式会社



医療法人社団 朋優会
三木山陽病院

〒673-0501 三木市志染町吉田1213-1
TEL:0794-85-3061 FAX:0794-85-3582
HP <https://www.hoyukai.or.jp>